

## は じ め に

将来の予測が難しい時代に直面し、少子高齢化や国際情勢の変化、環境問題、自然との共生など、多くの課題を抱えています。このような時代においては、一人一人が豊かで幸せな人生と社会の持続的な発展を実現するために、教育の果たす役割はますます重要となっています。すなわち学校には、自らの未来をたくましく切り拓き、他者と協働しながら最適解を見つけ出し、共に持続可能な社会をつくり出す人材を育成することが求められています。未来に生きる子供たちに、自分の可能性を広げ、多様な他者と協働し、より良い社会を創造する資質・能力を育むことは、学校の大切な役割です。

本校が特別活動について研究を積み重ね、12年目となりました。研究主題を「自分を見つめ 自分の良さを活かして みんなで創る」、副題を「より良いものを目指して 練り上げ創る話合い」と昨年と同様に設定し、取り組んでいます。実態として、学級会や児童会活動では、お互いを思いやる発言や行動が同学年、異学年問わず随所に見られ、温かい思いに浸るたびに、これまでの積み上げを感じます。しかしながら、日常生活では他者の気持ちを想像できず、悲しい思いをさせてしまう事案も少なくありません。そこで今年度は教科学習や総合的な学習の時間（以下、「教科学習等」と表記する。）においても特別活動との往還を意識し、全教科・全領域で子供の学びを見つめ、指導を工夫していくことによって、子供の知識・技能や思考力・判断力・表現力の向上など、将来の社会で必要となる資質や能力の育成に取り組んでいます。

中央教育審議会・教育課程部会の特別活動ワーキンググループの特別活動に関する目標・内容の構造化等についての審議資料（11月17日）に、次のような記載がありました。

「初発の思考や行動を起こす力・好奇心（各教科等で育成された知識及び技能、思考力、判断力、表現力等を土台として、初発的な思考や行動を起こす力）」と、「学びの主体的な調整（自分の思考や行動を客観的に把握し認識しながら学習を自己調整し、思考や行動を修正したり次の思考や行動に繋げたりする力）」「他者との対話や協働（教師の指導を含む他者からのフィードバック、書籍等との対話、多様な他者との協働・共感や対立の乗り越え等を通じて学びを支える態度）」との往還を通じ、粘り強く継続的に思考・行動する経験が繰り返され、「学びに向かう力、人間性等」が育まれる。

そこには、教科学習等と特別活動との往還を研究している意義が明記されていました。変化が激しい不確実な社会の中で、学びを通じて自分の人生を舵取りし、社会の中で多様な他者とともに生きる力を育むことをめざして、研究を深めていきます。

試行錯誤の日々ですので、ぜひとも忌憚のないご意見をいただきたいと思います。皆様からいただいたご意見を真摯に受け止め、子供が主体となり、活躍する学校づくりを目指し、今後も研究・研修に取り組んでいく所存です。

最後になりましたが、本校の研究を進めるにあたり、ご多用の中、本校研修会に講師としてお越しいただき、研究の方向指針を示していただくとともに、公開研究会講師としてご講演をいただく 國學院大學人間開発学部 初等教育学科教授（日本特別活動学会 理事、元文部科学省初等中等教育局 視学官）杉田 洋 先生、また、特別活動の研究を始めるにあたって、長年一つ一つ丁寧に指導いただきました神崎郡市川町立甘地小学校 常木 雅子 先生、そして宝塚市教育委員会の皆様、保護者、地域の皆様に深く感謝申し上げます。

令和8年（2026年）1月22日 宝塚市立光明小学校長 福本 徳子

# 《 目 次 》

は じ め に	1
目 次	2
日 程	3
会 場 図	4

## 1 研究の概要

令和7年度(2025年度)光明小学校の教育	5
校内研究推進計画	7
2025光明小でつきたい資質・能力	10
学級活動 年間指導計画	13
こんな時どうする13項目(光明版)	14
特別活動全体計画	16
特別支援教育計画	20
特別支援教育の取り組み	21
本校の人権教育	23
これまでの研究のあゆみ	25

## 2 本年度 研究の取り組み

学級活動のあゆみ	38
(1年・2年・3年・4年・5年・6年・ふたば)	
校内研究会学習指導案	45
(5年学級活動(1)・4年学級活動(1)・1年学級活動(1)・2年学級活動(1) 3年学級活動(1)・6年学級活動(1)・ふたば学級活動(1))	

## 3 個人研究

不思議(?)発見(!)型指導案の作成について	71
【個人研究ページ】(各教科の特質と特別活動を関連付けた実践)	72

## 4 研究のふり返しとこれから

研究のふり返しとこれから	82
--------------	----

## 5 全体会・講演

事後研究会・全体会・講師紹介・メモ	85
-------------------	----

お わ り に	89
---------	----

研究主題

自分を見つめ 自分の良さを活かして みんなで創る  
～より良いものを目指して 練り上げ創る話合い～

◆日 程◆

令和8年(2026年)1月22日(木)

受付	児童集会	移動	公開授業 第1～6学年	移動	事後研 (低学年・中学年 第5学年・第6学年)	移動	研究報告 全体会・講演会	
12:45	13:00	13:20	13:30	14:15	14:25	15:00	15:15	16:45

◆児童集会◆ 13:00～13:20【体育館】

◆公開授業◆ 13:30～14:15【各教室】

学年・組	教科・内容	授業者
1年1組	学級活動(1)	小嶋 宏典
2年1組	学級活動(1)	濱田 梨乃
3年1組	総合的な学習の時間	澤田 強志
4年1組	国語科	富岡 淑佳
5年1組	学級活動(3)	小寺 供子
6年1組	学級活動(1)	永樂 俊樹

◆事後研究会◆ 14:25～15:00 低学年・中学年・第5学年・第6学年に分かれて実施します。

【低1-1教室、中3-1教室、5-1教室、6-1教室】

◆全体会◆ 15:15～

教育長あいさつ	宝塚市教育委員会	教育長	赤井 稔
研究概要説明	宝塚市立光明小学校	教諭	澤田 強志
研究助言	市川町立甘地小学校	講師	常木 雅子 先生
講評・講演	國學院大學人間開発学部	教授	杉田 洋 先生

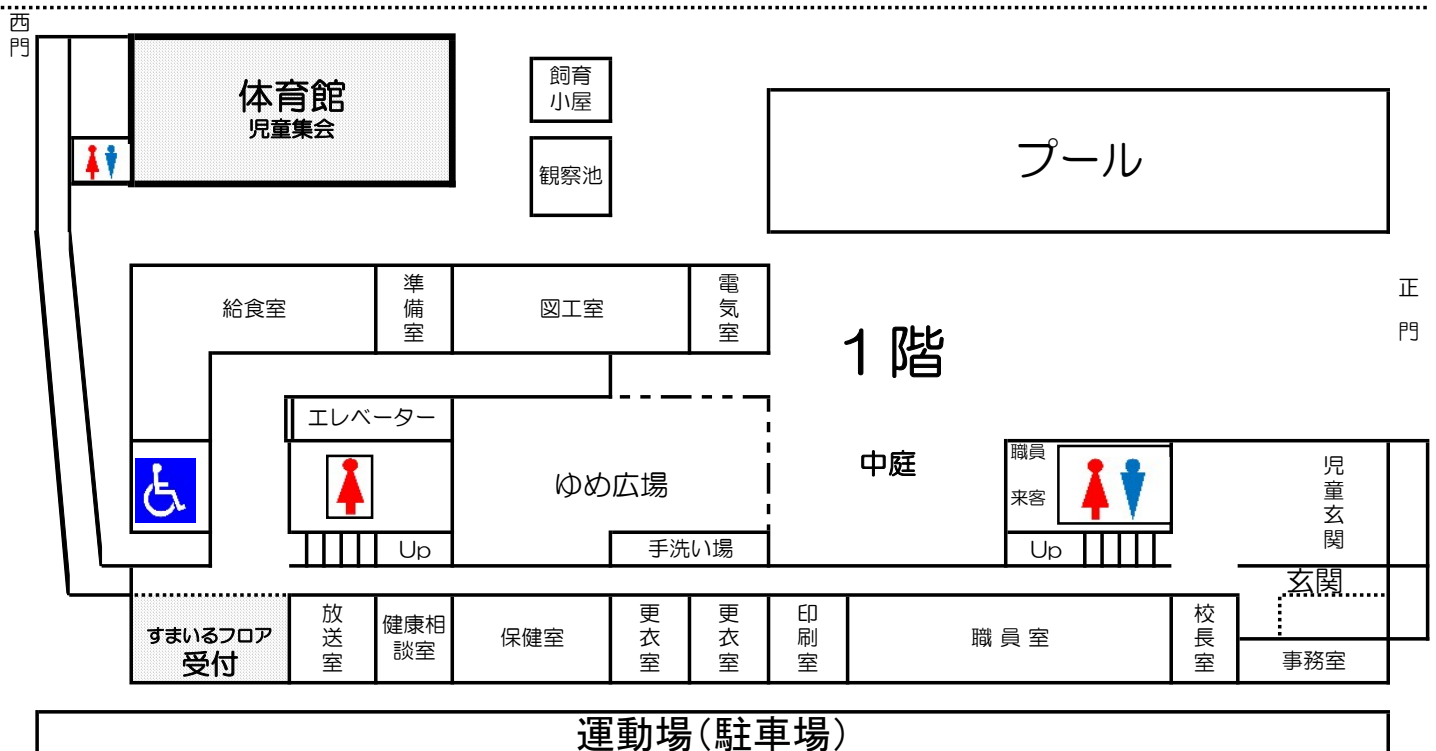
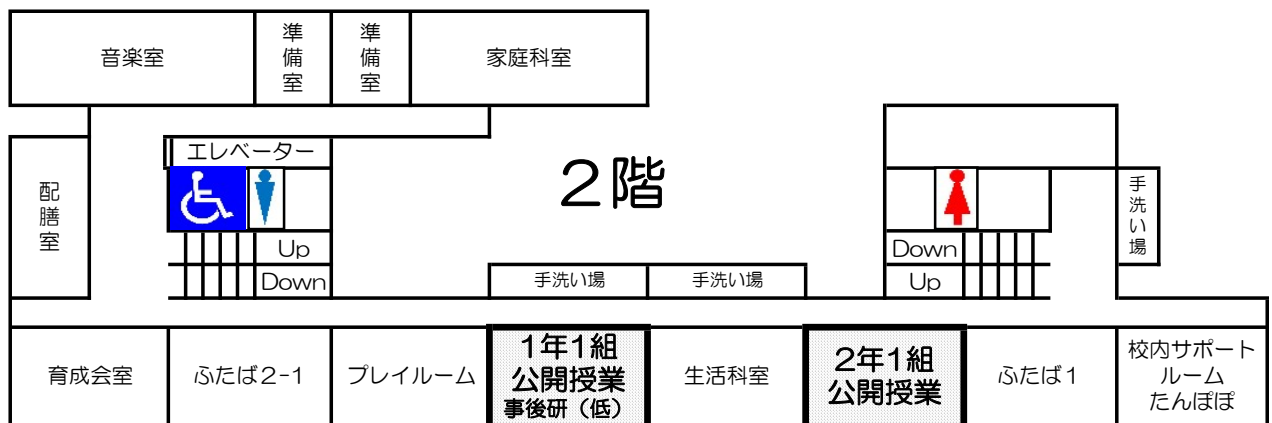
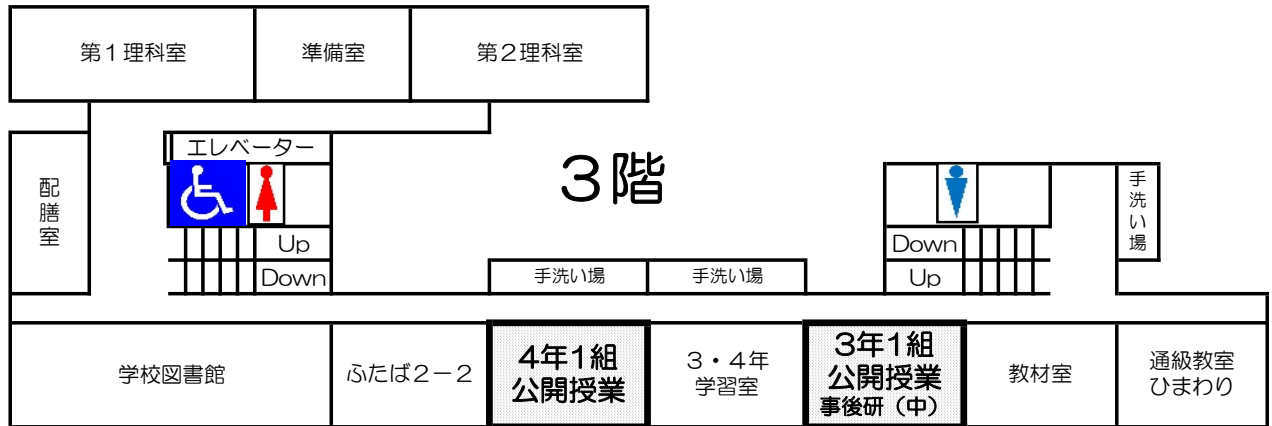
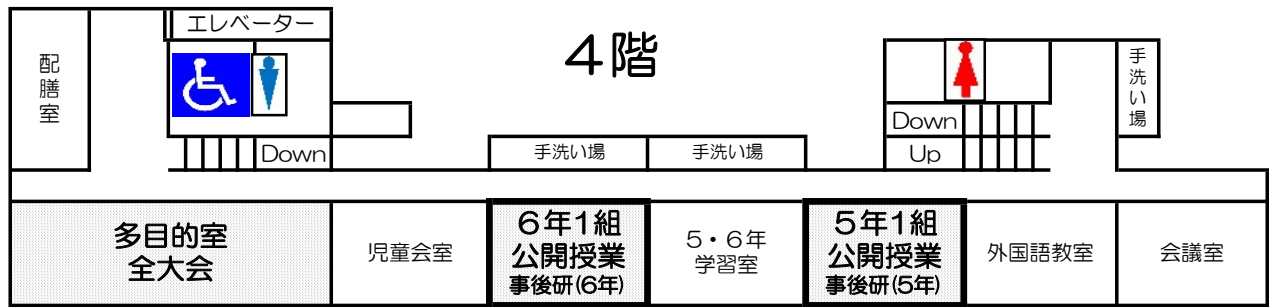
演題「学級会で身に付けた力を生活や授業に生かす

～生きて働く凡庸的な能力にまで高める～」

閉会あいさつ	宝塚市立光明小学校	校長	福本 徳子
--------	-----------	----	-------

# 会 場 図

宝塚市立光明小学校





# I 研究の概要



# 令和7年度（2025年度） 光明小学校の教育

## 学校教育目標

互いにかかわり合い 高め合う 光明っ子の育成  
～ 自主・自律・情愛 ～

### めざす子ども像

主体的に学ぶ子供	（よく学び）
自分に責任を持つ子供	（よく働き）
かかわりを大切にする子供	（みんななかよし光明っ子）

### めざす学校像

- ・一人一人が大切にされる学校
- ・心やすらぐ潤いのある環境の学校
- ・地域に愛され誇りの持てる学校

### めざす教職員像

- ・率先垂範・師範同行の教職員
- ・専門性と指導力の向上に努める教職員
- ・子どもと共にあり、児童理解に努める教職員

### 基本方針

- ・学校と地域の特性を生かした知育・徳育・体育の調和のとれた教育課程を編成し、実践を通して充実・改善に努める。
- ・教育活動全領域において、児童一人一人が大切にされる教育を推進する。（「人権尊重」の視点）
- ・児童の主体的・能動的な学びへの意欲・態度を養い、基礎学力の定着を図る。（「主体的・対話的で深い学び」の視点）
- ・保護者や地域への情報発信に努めると同時に、保護者や地域の声に耳を傾け、教育効果の向上を図る。（「共に」の視点）
- ・教育公務員としての使命感と責任感にあふれ、研究・研修を積極的に推進し、公開すると共に専門性と実践的指導力の向上に努める。

### 研究主題

自分を見つめ 自分の良さを活かして みんなで創る  
～より良いものを目指して 練り上げ創る話合い～

# 生きる力

## 光明小のめざす子ども像

主体的に学ぶ子 自分に責任を持つ子 かかわりを大切にする子

## 児童の自治的能力

- ・わかりたい やり遂げたいという意欲
- ・より良い学校生活や人間関係をつくりだす意欲
- ・見通しを持って学習に取り組む意欲
- ・自分を見つめ、自分の将来像に向かって行動する姿

## 主体的に学ぶ姿が基盤

各教科  
道徳科

総合的な  
学習の時間

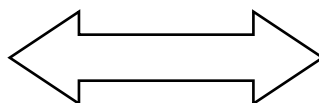
外国語科  
外国語活動

特別活動  
学級活動・児童会活動  
クラブ活動・学校行事

基礎学力の充実  
パワーアップタイム  
寺子屋光明

家庭学習

授業づくり



学級づくり

## 研究テーマ

自分をみつめ 自分の良さを活かして みんなで創る  
～より良いものを目指して 練り上げ創る話合い～

## 1 テーマ設定の理由

研究テーマは昨年度に引き続き「自分をみつめ 自分の良さを活かして みんなで創る」を設定する。特別活動に取り組んで12年目を迎え、子どもたちが主体となって活動を進める姿は学校生活の様々なところで見られる。特に児童会活動においては、これまでの実践経験を活かして、自分たちで集会活動を計画し実践する力をつけている。そのような高学年の取り組みを見ながら低学年が育ち、受け継がれていく文化は本校の強みであると考え。縦割り活動の取り組みから全校生のつながりが強く、日頃から学年を超えての交流が盛んであることも特徴である。

本校では、特別活動について自己評価のアンケートを年2回実施している。次の表は一昨年度と昨年度の肯定的な回答の割合を比較したものである。

	こ う も く 項 目	2024 (%)	2023 (%)
①	じぶん かんが すす はつげん 自分の考えを、進んで発言することができる	69	66
②	とも はつげん こうへい き 友だちの発言を、公平に聞くことができる	92	91
③	いけん み き はなしあ さんか よりよい意見を見つけて決めるために、話合いに参加することができる	79	75
④	はなしあ すず しかい しごと 話合いを進めるための司会グループの仕事をするすることができる(1年除く)	83	81
⑤	はなしあ ゆ とき あたら かんが み 話合いが行き止まった時に、新しい考えを見つけようとするすることができる	51	55
⑥	とも はつげん じぶん かんが くら 友だちの発表を、自分の考えと比べながら聞くことができる	69	76
⑦	はなしあ たいせつ 話合いの大切なことを、メモにとることができる(1年除く)	42	46
⑧	みんなで決めたことについて、まもることができる	90	89
⑨	たの ぶん いき はなしあ しやうかい さんか 楽しい雰囲気、話合いや集会に参加することができる	83	87
⑩	かえ とき じぶん ふり返りの時に、自分のよさやがんばりについて、気づくことができる	61	68
⑪	かえ とき とも ふり返りの時に、友だちのよさやがんばりについて、気づくことができる	81	80
⑫	かえ とき つぎ み ふり返りの時に、次ががんばりたいことを見つけることができる	75	83

昨年度、学級活動1では、なかまと話し合うことで新しい考えを見つけることに重点をおき、「何をするか」ではなく「どのようにするのか」について深める話合いについて研究を進めた。特別活動のふり返りアンケートの「新しい考えを見つけようとすることができる」の項目を見ると、肯定的な意見の割合が2023年度は55%、2024年度は51%であった。2023年度とほぼ変わらない数値が出ていた。板書の構造化について話し合ったり、思考ツールの活用を実践したりしたが、子どもたちは新しいアイデアを生み出すところに難しさを感じていることがわかった。しかし半数の児童が「できる」と答えているところにこれまでの光明小の研究の積み重ねの結果が表れている。何もないところから考えを生み出すのは大変難しいことである。これを半数の児童が新しい

アイデアを生み出すことができる、考えようとしていると肯定的に捉えたい。そこで教職員で話し合い、「新しいアイデア」の定義を捉え直した。私たちが児童につけたい力の1つに自己実現がある。自分の意見も周りのなかまの意見もできるだけ実現できるようなアイデアを考えることができれば、より多くの人の思いを実現できるだろう。そのことから、新しいアイデアをみんなにとって「みんなが納得できる折り合いのつけ方」とした。友だちの不安や心配を解決できるアイデアと言ってもよい。もっと多くの児童が自分たちでより良い解決方法を創り上げていけるようにしていきたい。そのため、昨年度と同じく子どもたちがより良いアイデアを自分たちの力で生み出し、実践することに重点を置くことにした。

これまでにはない考えを生み出す楽しさやみんなの思いを大切にしたいアイデアを創り上げる充実感を感じさせていく。そして、子どもたちが今後より良い生活を創るだけでなく、人を大事にして社会を形成していく人間として育っていくことを期待して副題を「～より良いものを目指して 練り上げ創る話し合い～」とした。

昨年度の反省で次のような意見が出てきた。

- ・「選ぶ話し合い」と「工夫を考える話し合い」、どちらも必要である。
- ・工夫を話し合うには時間がかかってしまう。
- ・話し合いが一部の児童によって進んでしまうことがある。

「工夫（どのようにするか）」について話し合うことに重点をおくと、時間がかかってしまうことや一部の発言力のある子たちの話し合いになってしまうことが課題になった。練り上げ創る話し合いには、話し合いに参加している児童一人一人の思いが尊重されなければならない。全員が学級のことを自分事として考え、集団としてより良いものを話し合える学級を目指す。議題や提案理由によって、話し合う価値のあることを吟味し、「選ぶ話し合い」と「工夫を考える話し合い」どちらも取り入れながら合意形成を図る子どもを育てていく。

アンケートの項目⑩「ふり返りの時に自分の良さががんばりに気づくことができる。」の数値を見ると他の項目に比べて低い。友だちの良さには気づいているが自分のよさに目を向けている児童が少ないことが分かった。自分のよさに気づくことは自己肯定感を高め、自信を持つことにつながる。自分で気づくことができない場合は、友だちからの承認や評価、教師からの評価が必要不可欠である。特に教師からの評価が重要である。教師が評価することによって、「自分にはこんな良いところがあったんだ。」と児童自身が気づいていない良さを発見させることができる。そのためには、教師が学級活動の話し合いにおいて評価する観点を明確に持つ必要がある。評価の観点は、話し合いの技術だけでなく、友だちと協働で取り組む力、友だちに寄り添う優しさなどより良い集団を目指すために必要な力を明確にしていく。そして、学級活動(1)における「光明小でつけたい資質・能力」を確認し、評価の観点を全教職員で共有し、多面的に評価することで、児童の自己肯定感を高めていきたい。

そして、教科との往還について更に研究を進めていく。昨年度は教科との往還について意見交流をしてきたが、個人で考える機会が多く、何を持って教科との往還とするのか具体化できていなかった。そこで今年度は、特別活動でつけた力を活かす授業とはどのような授業なのか教科部会や学団協議会を通してより具体化し、共有していきたい。各教科において子どもたちが自分のめあてを持ち、主体的に学びに向かい、協働して課題解決し全体の学びにつなげる姿を目指す。「つかむ→さぐる→比べる・見つける→ふりかえり」という流れで授業を組み立てる。特別活動で培った企画力、友だちを尊重する力、仲間とより良い生活を目指して実践する力を教科学習でも活かし、教科学習で身に付けた力を特別活動でも発揮できるようにしていく。そのため、学団や教科部会で協働して授業づくりを進める。我々教員も児童と同じように話し合い、それぞれの良さを活かすことでより良い授業づくりにつなげていく。

## 2 研究仮説

これまでに児童が培ってきた力と現状

### 【これまでに身に付けてきた資質・能力】

- 人間関係形成      ○社会参画      ○自己実現
- ・実践し、ふり返り、反省して次の実践に活かす。
- ・困っている人や低学年に寄り添うことができる。

### ①特別活動で目指す資質・能力の明確化

#### 【現状の捉え方】

- 「選ぶ話し合い」も「工夫を考える話し合い」もどちらも必要である。
- 新しい考えを生み出すことに苦手意識を持っている。
- 話し合いにおいて発言の偏りがある。
- 自分の思いだけを通してしてしまう児童がいる。
- 自己肯定感が低い。

#### 手立て

#### 【特別活動】

- 出てきた意見に対して、付け足すとよいものについて考える。
- 問題点については、改善策を考える。
- 話し合いや集会活動のふり返りで、工夫を見つける。
- 工夫したことで何が良くなったかを考える。
- 「みんなにとって」より良いものを目指して合意形成することを価値づける。

#### 【教師の視点】

- その子らしさが光る学級づくり・授業づくり
- 一人一人の良さを見取る力を鍛える
- より良い自分・より良い集団の見える化（価値づけ）
- 多様性を引き出す授業づくり
- 児童を信じて任せる覚悟
- 話し合いにおける教師の入り方の共有
- 学級活動における評価の観点の共有と指導の徹底
- 練り上げ創る話し合いの一般化

#### 【環境】

- きらきらファイルへの記録（学級会、児童会活動）
- 各学級の実践やふり返りを廊下に掲示する。
- 学校行事に向けてめあてを持ち、ふり返りを行うことで目的意識を持たせる。

#### 【教科・諸活動】

- 教科部会を中心とした教科との往還の具体化、授業作り

より良い生活をめざして自分の意見を持ち、全体に発信する力  
集団として、人を大事にしながら共により良いものを求めていこうとする協働力

【2025光明小でつきたい資質・能力】（全校版）

学校でつきたい資質・能力	学級活動	児童会活動	クラブ活動	学校行事
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなで考える議題（課題）に自分の意見を持ち、考えを出し合い、比べ合い、より良い考えを創りあげることができる。</li> <li>・集会の目的や自分の役割を理解し、計画的、協力的に実践して、ふり返ったことを次につなげている。</li> </ul>	<p>見通しをもって運営（計画・準備・実践）している。</p> <p>全校児童が共に楽しく触れ合いながら、協力して活動することの大切さを理解している。</p>	<p>互いの発想を生かしながら、異学年の友だちと共通の興味・関心を追求している。</p>	<p>めあてに向かって、計画・準備・実践している。</p> <p>一人一人の取り組みがより良い学校づくりにつながると理解している。</p>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見通しをもって計画的に話し合いを進めている。</li> <li>・自他の意見や状況を尊重しながら多様な意見について折り合いをつけ、まとめている。</li> </ul>	<p>それぞれの集会や委員会活動の目的にふさわしい活動内容や方法を考えている。</p>	<p>クラブの一員として、より良い活動ができるように創意工夫している。</p>	<p>行事をより良くするために、話し合っている。</p>
主体的な態度 学びに向かう姿勢	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団の過去をふり返り、未来を見据えて自分の願いを持って取り組もうとしている。</li> <li>・学級の一員という自覚を持ち、主体的・対話的に取り組もうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集会や委員会活動で実践したことについてふり返り、次の活動に活かそうとしている。</li> <li>・異年齢集団で活動したことを通して、自分の良さに気づき、学校生活で発揮しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年・学級の枠を超えて、仲よく協力し、信頼し合える活動をしている。</li> <li>・クラブ活動で身に付けたことを活かして、自分の良さや可能性を生かそうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事を通して、自分の成長を見つめようとしている。</li> <li>・学校の一員としての自覚を高め、人と人との触れ合いやつながりを深めている。</li> </ul> <p>こうしている。</p>

【2025光明小でつきたい資質・能力】(1、2、3年生版)

学校でつきたい資質・能力	学級活動	児童会活動	クラブ活動	学校行事
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えや疑問を自由に発言する。</li> <li>・考えを出し合い、比べ合い、より良い考えを創りあげることができる。</li> <li>・集会活動に向けて、役割の準備を計画的に行う。</li> </ul>	全校児童が共に楽しく触れ合いながら、協力して活動することの大切さを理解している。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・めあてに向かって、計画・準備・実践している。</li> <li>・一人一人の取り組みがより良い学校づくりにつながると理解している。</li> </ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提案理由に沿っているかという観点で、複数の意見を比べ合っている。</li> <li>・見通しをもって計画的に話合いを進めている。</li> <li>・具体的に活動することも取り入れながら自他の意見や状況を理解し、多様な意見について折り合いをつけ、まとめている。</li> <li>・活動のふり返りをもとに、次のめあてをもつ。</li> </ul>	それぞれの集会や委員会活動の目的にふさわしい活動内容や方法を考えている。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事をより良くするために話し合っている。</li> </ul>
主体的な態度 学びに向かう姿勢	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団の過去を振り返り、未来を見据えて自分の願いを持って取り組もうとしている。</li> <li>・学級の一員という自覚を持ち、主体的・対話的に取り組もうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集会や委員会活動で実践したことについてふり返り、次の活動に活かそうとしている。</li> <li>・異年齢集団で活動したことを通して、自分の良さに気づき、学校生活で発揮しようとしている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事を通して、自分の成長を見つめようとしている。</li> <li>・学校の一員としての自覚を高め、人と人との触れ合いやつながりを深めていこうとしている。</li> </ul>



【2025光明小でつきたい資質・能力】(4、5、6年生版)

学校でつきたい資質・能力	学級活動	児童会活動	クラブ活動	学校行事
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要点を捉えながら聞き合うことができる。</li> <li>・何のための集会か、何について話し合っているか観点をはっきり捉えることができる。</li> <li>・お互いの意見について思考ツールをもとに整理することができる。</li> <li>・発表が苦手な子や上手く伝えられない時にはみんなに分かりやすく言い換え、伝えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集会までに見通しをもち、段取りを踏み、準備することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の価値を理解し、異学年と交流することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事に取り組む一員として、責任をもって活動することができる。</li> </ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観点を明確に、お互いの意見を思考ツールにまとめている。</li> <li>・お互いの意見のよさや、相違点に気づき、話し合いの論点をまとめようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集会に向けて、見通しをもち、準備しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動のよさの価値を考え、自分に取り入れ活かそうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のめあてを持って具体的に取り組んでいる。</li> <li>・次につながる振り返りができる。</li> </ul>
主体的な態度 学びに向かう姿勢	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを相手に伝え、共感してもらおうとしている。</li> <li>・相手の意見を咀嚼し、何を言いたいのか、聞き取ろうとしている。</li> <li>・一人の意見をみんなの意見にしようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集会や委員会活動で経験したことをもとに、次の活動に活かそうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異学年に声を掛け合い、お互いのよさを認め、伝え合っている。</li> <li>・自分のよさに気づき、次の活動につなげている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異学年や過去の自分の姿と比べ、成長を実感しながら、取り組んでいる。</li> </ul>

第1学年 (年間34時間)	学級活動(1) (全15時間)	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
			みんなであそぼう (ア)①		めいたからさがし しゅうかい(ア)②		あきまつりしゅうかい (ア)②	アスレチックリレー しゅうかい(ア)②	生きものパークを つくろう(ア)②			1ねんかんのおもいで いっばいしゅうかい (ア)②
	学級活動(2) (全13時間)	どうばんをきめよう (イ)① がっこうはどんなところかな(ア)②	かかりをきめよう (イ)① みんなであそぼう(エ)①	あめのひをたのしく くすくす(ウ)①	じょうぶなはにな ろう(ウ)①	どうばんをきめよ う(イ)① まほうのこぼれはかよ しになろう(イ)②		きをつけてあるこ う(ウ)①		どうばん・かかりを きめよう(イ)① じしんがおこったら (ウ)②	ひなんのしかたを おぼえよう(ウ)①	
	学級活動(3) (全6時間)	がっこうはたのしい ね(ア)① こんな1ねんせいにな りたいな(ア)①		かじらになったら (ウ)① がっきゅうちくひよ うをきめよう(ア)①		うんどうかいのめ あてをかんかんえよ う(ウ)①	いつもひびかそ うじとうばん(イ)①	おんがくかいでが んばりたいこと(ウ )①				こんな2ねんせいにな りたいな(ア)①
第2学年 (年間35時間)	学級活動(1) (全17時間)	当番や係をきめよ う(ア)①		若手な人も楽しめる ドッジボール集 会(ア)②			ウルトラ音読集会 (ア)②	チーム対抗！おに ごっこ大作戦集会 (ア)②	じゃんけんパワーで みんな仲良し集会 (ア)②	おわかれ会(ア)②	もちつき・節分集会 (ア)②	2年生の思い出集 会(ア)②
	学級活動(2) (全11時間)	元気にあいさつを しよう(ア)①		かじからにげるた めに(ウ)①		名前をきちんとよ ぼう(イ)①	手あらいがいで元 氣いっぱい(ウ)①		交通のきまり(ウ) ①	じしんからみをまも ろう(ウ)①	きゅうしよくありが とう(エ)①	
	学級活動(3) (全7時間)	こんな2年生になり たいな(ア)①	楽しさはっ見学校 図書かん(ウ)①	雨の日のあそび方 を考えよう(ア)①	朝ご飯をしっかりと べよう(エ)①		キラキラたいい掃 除の心をふりか えろう(イ)①	音楽会でがんばり たいこと(ウ)①				3年生でがんばりた いことを考えよう (ア)①
第3学年 (年間35時間)	学級活動(1) (全19時間)	かかりを決めよう (イ)①	みんなのことを知 ろう集会(ウ)②		1年生と遊ぼう集会 (ア)②	係活動を見直そう (イ)①	ドッチビー集会(ア) ②	きよだすいごろう 集会(ア)②	8番教室集会(ア) ②	係活動をレベルアッ プさせよう (イ)②	百人一首大会をし よう(ア)②	3年生思い出集会 (ウ)②
	学級活動(2) (全9時間)			教室での過ごし方 を考えよう(ア)①	雨の日を楽しくす ごそう(ウ)②	CAPで学んだこと を生かそう(ウ)②	いいところ発見！ 友だちスピーチ(イ) ①	火事が起きた時、 どうするか(ウ)①	物を大切にしよう (ウ)①			
	学級活動(3) (全1時間)	3年生になって(ア) ①	学級目標を決めよ う(ア)①	発見！図書館の便 利な使い方(ウ)①		運動会でめざすも の(ウ)①	音楽会のめあてを 決めよう(ウ)①	音楽会のめあてを 決めよう(ウ)①			今年の仕上げだ！ ～前活動発表会～(イ) ①	もうすぐ4年生(ア) ①
第4学年 (年間35時間)	学級活動(1) (全20時間)	当番や係を決めよ う(イ)①	転入生かんげい会 (イ)	みんなであつなげワ クワドキドキ伝言 ゲーム(ア)②	みんなわくわくドク ジボール集会(イ) ①	当番や係を決めよ う(イ)①	みんなと一緒に旗 をつくろう集会 (ア)②	みんなが楽しもう ボールランド集会 (ア)②	みんなであかよくワ リスマスパーティー (イ)②	当番や係を決めよ う(イ)①	冬の遊び(ア)②	4年生思い出集会 (イ)②
	学級活動(2) (全8時間)	あいさつの大切さ (ア)①		私たちにできる防 災活動(ウ)②	歯を大切にしよう (ア)①		友だちの良いとこ ろ探し(イ)②				自分でできる健康 生活(ウ)①	
	学級活動(3) (全7時間)	こんな4年生になり たいな(ア)①	学級目標を決めよ う(ア)①	雨の日のあそび方 を考えよう(ア)①		運動会でめざすも の(ウ)①		音楽会のめあてを 決めよう(ウ)①	2学期を振り返ろう (イ)①			5年生に向けて(ア)① キャリアパスポート(イ) ①
第5学年 (年間35時間)	学級活動(1) (全22時間)	当番を決めよう 係を決めよう(イ)①	学級目標を決めよ う(ア)①	こちやませりレーカー ニバル(ア)②	ワクワク玉入れ集 会をしよう(ア)②	1年生と交流しよう (ウ)②	踊ろう！ダンス集 会(ア)②	ハロウィン仮装集 会(ア)②	クリスマスパーティ 集会(ア)②	オリジナルドッジ ボール集会(ア)②	OO小学校と交流 しよう(ウ)②	5年生思い出アルバ ムを作ろう(ア)②
	学級活動(2) (全6時間)	自分の生活リズム を見直そう(ア)①		教室での過ごし方 を考えよう(ア)①	夏休みの過ごし方 を考えよう(ウ)①				みんなが協力ひか ひか掃除(イ)①	自分の身を守る防 災(ウ)②		春休みの過ごし方 を考えよう(ウ)①
	学級活動(3) (全7時間)	こんな5年生になり たい(ア)①	おすすめの本を紹 介しよう(ウ)②			私たちの運動会を 創ろう(ウ)①	私たちの音楽会を 創ろう(ウ)①	私たちの音楽会を 創ろう(ウ)①	私たちの将来の夢(ア) ①			もうすぐ6年生(ア) ②
第6学年 (年間35時間)	学級活動(1) (全22時間)	当番や係を決めよ う(イ)①	学級目標を決めよ う(ア)①	1年生と遊ぼう(ア) ②	私たちの動物王国集 会(ア)②	昔遊びをアレンジし よう(ア)②	運動会の旗をつくろ う(イ)② 青少年の主張(ア)②	みんな遊びをバ ワーアップ(ア)②	集会 (ア)②	本気の運動会(ア) ②	学校ってこんなこと 集会(ア)②	学校へ恩返しをし よう(イ)②
	学級活動(2) (全6時間)	個性が活かせるクラ ブ活動をしよう(イ)①	すてきなリーダー (イ)①	教室での過ごし方 を考えよう(ア)①			役割を果たしてよい 運動会にしよう(イ) ②		冬休みを有意義に (ア)①	震災から自助共助に ついて学ぼう(ウ)②		
	学級活動(3) (全7時間)	こんな1年間にした いな学級目標を決 めよう(ア)①		長所と短所を見つ めよう(ア)①		私たちの運動会を 創ろう(ウ)①	伝記ですばらしい 生き方をふれよう う(ウ)①	私たちの音楽会を 創ろう(ウ)①	これまでの活動を ふり返ろう(イ)①			楽しい中学校生活 を送ろう(ア)①

## こんな時どうする13項目（光明版）

	項 目	解 決 法
1	どうしても選択しなければならぬ時には	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分にとってではなく、提案理由や提案者の思いに寄り添い、できるだけたくさんの友だちの考えを反映できるようにまとめる。</li> <li>・視点を変える。（広げる）つまり、見方を変えてみる。</li> </ul>
2	安易に多数決で決めてしまいそうになったら	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなの気持ちを聞いて決めてほしいなと司会に伝え、話し合いで決めるように促す。</li> <li>・なぜ、話し合っで決めるかということをもまず確認する。少数派の思いを大切にすることや、自分の発言に対して責任をもつことの大切さを伝える。</li> <li>・発言した人の思いに寄り添っているか、問いかける。</li> </ul>
3	意見が停滞したり、出なくなったりしてしまった時は	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生からアイデアを出してみる。</li> <li>・なぜ停滞したのかみんなまで話し合う。（なぜ止まったのか問う）</li> <li>・何に困っているのか尋ねる。（高学年は司会が尋ねる）</li> <li>・いくつかの提案を投げかけ、選ぶ方法もある。</li> </ul>
4	意見が対立して、どうにもならぬようになった時には	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もう一度論点を整理させ、話し合いの交通整理をするようにする。・お互いの主張をよく聞き、折り合いをつけられる方法を考える。</li> <li>・お互いの意見の良さが活かせる工夫について考える。（折衷案）</li> <li>・いろいろな意見を聞く。</li> </ul>
5	多様な意見がいくつも羅列された時には	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合体できるものや似ているものがないか確かめるよう声をかける。</li> <li>・分類整理し、観点を明確にして必要なことを話し合う。</li> <li>・全体で話し合うべき事柄は何かについて考える。</li> <li>・提案理由に沿ったものから考えるようにする。</li> </ul>
6	視点の異なる意見が黒板に並んでしまった時には	<ul style="list-style-type: none"> <li>・司会グループと相談する時間を取り、黒板の整理を一緒にする。</li> <li>・分類整理し、話し合うべきことが考ええる。</li> <li>・異なる意見の視点を明確にして、観点にあっていくか考える。</li> </ul>
7	解決すべき問題が明らかになった時には	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本音を出して、みんなが納得できるように話し合う。</li> <li>・自分事として考えるために、即時話し合いをする。（話し合いの必要性を作るには、タイミングが大事）</li> </ul>

8	一部の人の意見で決まってしまうというになった時には	<ul style="list-style-type: none"> <li>・司会グループに「本当にこれで決まってしまうって良いのか」みんなに聞くよう声をかける。それでも決まりそうな時には先生が入り、「他の人の意見も聞かせてほしい」と声をかける。</li> <li>・学級会の意義をみんなで確認し、少数派の意見を聞き取りに学級づくりに取り組む。</li> <li>・全員の意見が出せる風土を日頃から作る。</li> <li>・全員の意見を聞いて決めることを確認する。</li> <li>・自分の意見をもって話合いに臨めるようにする。</li> </ul>
9	もっと工夫が必要になった時には	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少し時間を取るように司会に声をかけ、近くの人と少し話をする時間を取るようにする。</li> <li>・どんな工夫ができるか情報を集めたり、友だちの意見と比べたり、自分以外の考えを集める。</li> <li>・日頃から学校全体を見ておく、他の学年や委員会がしていることを見ておく。</li> </ul>
10	誰かから反対意見（強い不満、心配など）が出た時には	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その子の不安な要素を聞き、みんなに伝えるように支援する。その不安要素についてはその後みんなですぐすれば安心するのかを話合わせる。</li> <li>・その理由を共有し、解決策を考える。</li> <li>・みんなにとってどうかという視点で考え直す。</li> <li>・提案者の思いをもう一度確認し、置いてきばりにしないようにする。</li> </ul>
11	こだわって引かない人が出た時には	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こだわる子に寄り添い、その子の思いを聞き出すようにする。</li> <li>・年間を通して、様々な人の意見が通るよう声掛けをする。</li> <li>・これまでの話合いをふり返る。</li> <li>・発言内容の視点が自分なのかみんなのかを考えるようにする。</li> </ul>
12	意見を（うまく）発表できない人がいた時には	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「誰かが助けてあげると嬉しいな」と声をかける。</li> <li>・聞き手を育てる。（一緒に話す。書いたことを話す。聞いたことを話す。）</li> <li>・うまく言えない子の思いを引き出すことができる風土を作る。</li> <li>・言えないことを放っておかない学級づくり。</li> </ul>
13	話し合いが理解できない人がいたら	<ul style="list-style-type: none"> <li>・隣で話合いの内容をもう一度確認し、理解を促す。</li> <li>・もしくは、最後の先生の話の時に決まったことをもう一度担任から確認するようにする。</li> <li>・司会が交通整理をし、動作化や図式化をしながら、何が分からないかを話し合う。</li> <li>・理解できていない人のフォローがフロアの中でもできるようにする。</li> </ul>

# 特別活動全体計画

## 特別活動

### 1 特別活動の目標（学習指導要領より）

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身につけるようにする。
- (2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。
- (3) 自主的、実践的な集団活動を通して身につけたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

### 2 領域

#### ① 学級活動 年間35時間以上(1年生は34時間以上)

内容 (1) 学級や学校の生活づくりへの参画

内容 (2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

内容 (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現

#### ② 児童会活動 (代表委員会・委員会活動・児童会集会活動)

○児童会の組織づくりと児童会活動の計画や運営

・主として4年生以上が計画や運営を行う。

・代表委員会は毎月第2火曜日の昼休みに行う。

・委員会活動は月1回ハーフ委員会を開く。(14:30～15:00)

○異年齢集団による交流

・児童会集会活動は金曜日の8:30～8:45(30分に集会をスタートできるように)

※児童集会がない日は、各学級で特活タイム(係活動、学級会の準備など)

4～6年生は委員会活動のために集まる場合もある。

・きらきら掃除(たてわり)は水曜日8:30に掃除を開始。

○学校行事への協力

#### ③ クラブ活動 (4年生以上 年間45分×6回)

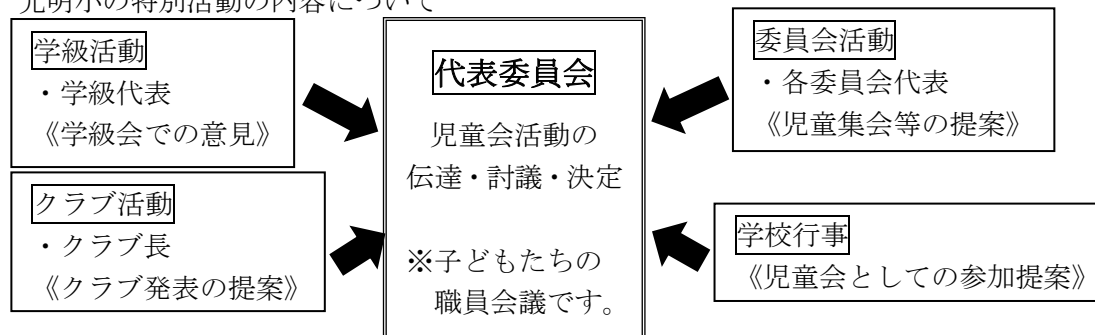
○異年齢の児童同士で協力し、共通の興味・関心を追求する。

○活動の意義や行う上で必要となることについて理解し、子どもたちが主体的に考えて実践できるよう指導する。

#### ④ 学校行事 ①儀式的行事 ②文化的行事 ③健康安全・体育的行事

④遠足・集団宿泊的行事 ⑤勤労生産・奉仕的行事

### 3 光明小の特別活動の内容について



## 【学級活動】

### ①ねらい

様々な集団活動を通して、学校・学級の課題を見出し、解決のための方法や内容をみんなで話し合い、合意形成や意思決定をする中で、より良い生活や人間関係を築き、学校生活の充実と向上を図る。

### ②活動の具体

#### ○学級会

- ・①問題発見→②解決方法等の話し合い・決定→③実践活動→④ふり返りの活動に継続して取り組む。
- ・議題箱による提案、代表委員会の提案などから、学校・学級の課題を発見する。
- ・司会グループ（司会１・副司会１・黒板記録２・ノート記録）の役割を、輪番制で全員が経験する。
- ・司会グループと提案者で計画委員会を持つ。（発達段階に応じて、教師は指導する）

#### ○係活動

- ・係活動と当番活動の違いを明確にする。

係活動・・・学級生活を豊かにするために児童の創意工夫によって自主的・実践的に取り組む活動（おわらい係・かざり係・クイズ係など）

当番活動・・・学級生活が円滑に運営されていくために、学級の仕事を全員で分担し、担当する活動（黒板係・配り係・保健係など）

## 【児童会活動】

### 代表委員会

#### ①ねらい

全児童が楽しくより豊かに生活するために、各学級や各委員会の代表が集まり、学校目標の達成のための方法、諸問題の話し合いや実践活動を行う。

#### ②構成

アイデアたくさん委員会全員、各委員会代表、各学年のクラス代表（１名ずつ輪番）、クラブ長１名、１年生担任（様子によって児童代表でも可）

#### ③活動時間 〈毎月 第２火曜日 昼休み〉

#### ④場所 〈児童会室〉

※学級の意見をもって代表委員会に出席し、代表委員会で決定されたことを学級へ連絡する。クラスの代表者は固定せず、輪番制にする。

※委員会などで行う集会活動は、必ず代表委員会で提案をする。

### 委員会活動

#### ①ねらい

児童が協力しあって学校内の仕事を分担し、創意工夫しあって自主的に活動することを通して、より充実した学校生活を送ることができるようにする。

#### ②構成

４年生以上の全児童が自己の特性や希望を活かして、委員会に所属する。

任期は３月の新委員会が決定するまでとする。

委員長１名、学年代表各学年１名（決定済み）。途中転入生は希望を聞き担当の了解を得て配当する。

２月まで現委員会で活動し、２月末に現３・４・５年生で、新しい委員会の編成を行う。  
３月のハーフ委員会から新しい委員会で活動を行う。６年生は所属の委員会に残り、次年度の活動計画や目標、常時活動などを引き継ぐ。

#### ③活動時間

- ・きらきらタイムや休み時間、放課後に常時活動（仕事）を行う。
- ・ハーフ委員会は、年間１１回、水曜５時間目終了後３０分間行う。（１４：３０～１５：００）  
常時活動のふり返りや、児童会集会活動での発表などの話し合いや準備を行う。

## 児童会集会活動

### ①ねらい

学級や学年の枠をこえて、異学年の友だちの輪を広げ、学校全体のまとまりを高める。  
自発的に集会活動を行おうとする態度を育てる。

### ②活動時間

○児童会集会活動 〈金曜日 8:30～8:45〉

※日程調整は、アイデアたくさん委員会が行う。

○ロング児童会集会活動〈45分間〉

→1年生を迎える会・6年生を送る会・歌声コンテスト・光明ショウ店街

※準備、企画、運営はアイデアたくさん委員会が行う。

○委員会・クラブによるミニ集会 〈20分休み・昼休み・昼の放送など〉

### ③構成

全校児童（ミニ集会においては、希望する児童）

### ④各委員会活動内容と担当者

委員会名(場所)	活動内容	担当
アイデアたくさん【計画】 (児童会室)	代表委員会の原案作成・運営 児童会室の管理 臨時児童集会の計画・運営	永樂
みんな仲良し【集会】 (1-1)	児童集会の計画・運営 たてわり遊びの計画・運営	小嶋
本も友だち【図書】 (学校図書館)	学校図書館の紹介・貸し出し 学校図書館の整備	小寺
わくわくアナウンス【放送】 (音楽室)	始業前、給食、清掃時間の放送 集会活動等での放送	中村 一二三
みんなもぐもぐ【給食】 (ふたば2-2)	給食のお知らせ 返却の見守りと残量チェック	栗之池
生き物ふれあい【飼育】 (2-1)	飼育小屋の世話 生き物に親しむための活動計画	濱田 岩崎
学校びかびか【環境・美化】 (4-1)	校舎内外の美化活動 清掃用具の点検 たてわりそうじの計画・運営	富岡
元気もりもり【体育・保健】 (6-1)	運動用具の整備や整頓 運動や遊びの紹介 保健室での処置以外の補助 保健衛生に関する啓発	澤田 伊藤 川上
お知らせ【掲示】 (ふたば2-1)	学校掲示板の活用 児童会だよりの作成 学級、委員会、クラブ活動などの情報発信	池内

## 【クラブ活動】

### ①ねらい

共通の興味・関心をもつ児童集団を組織し、自主的・自発的な活動を行うことにより、学校生活をより楽しいものにする。

### ②活動時間 〈水6校時 14:30～15:15 ※45分間×7回〉

※休み時間やきらきらタイムを活用し、年1回はクラブ発表の機会をもつ。

### ③構成

- ・ 4、5、6年生が児童の興味関心のあるクラブに所属し、1年間を通して活動する。
- ・ 部長（6年生1名）、副部長（4～6年生1名）、記録（4～6年生1名）を選出する。
- ・ 途中、転入生については、希望を聞き、担当の了解を得て配当する。

### ④クラブ活動決定方法

#### （1）6年生が希望のクラブを話し合い、決定する

- ・ 様々な児童の興味を考えて、クラブの種類が偏らないようにする。

#### （2）4、5年生に向けてクラブ紹介集会をする

- ・ 自分の得意なことや、クラブの楽しさ、良さをアピールする。
- ・ 1年間の活動計画を提案する
- ・ 4、5年生は希望のクラブを選ぶ。

※必ず4～6年生の異学年が所属するクラブになっているか、人数の偏りによって活動に支障をきたすことがないかを確認する。

#### （3）クラブを最終決定する

## 3 自治的な活動について

特別活動において、自治的活動の範囲を明確にし、児童が勝手に決めてはいけない事に関しては、教師が適宜、指導を行うようにする。

- 安全に関すること
- 罰則に関すること
- 金銭や物品に関すること
- 学校のきまりに関すること
- 学習内容に関すること
- 学級経営に関すること など



### 特別支援教育の推進

児童の自立や社会参加に向けて、一人一人の教育的ニーズを把握して、その持てる力を高め、生活や学習の困難を改善または克服するために、適切な教育を通して必要な支援を行う。

### 特別支援学級の運営

#### 1 方針

心身に障がいのある児童の実態を把握し、保護者の願いを受け止めながら、発達段階や個々のニーズに合わせて特別な配慮のもとに持てる可能性を伸ばし、自己実現に向けて生きていく意欲と能力を養う。

#### 2 目標 【生きる力を獲得するための諸能力を向上させる。】

- (1) 日常生活を自分の力で調整できるように、基本的生活習慣を身につけさせる。
- (2) 能力や情緒の発達状況を把握し、個別指導を重視し、その伸長を図る。
  - ・基礎的な体力をつけるとともに、手足の操作機能（能力）を豊かにする。
  - ・情緒を安定させ、より豊かな対人関係を培うとともに、言語力を伸ばす。
  - ・教科学習以前の学習に力を入れる中で、教科学習の土台となる力を育てる。

また、国語や算数などの教科により基礎学力を獲得させ、生きていく力を養う。

  - ・植物を栽培し自然にふれさせ、働く喜びを味わわせる。
- (3) 集団生活に適応する能力を高め、さらに共に学ぶ喜びを体得させる。  
(コミュニケーション能力の向上を図る。)
- (4) すべての児童一人一人が、かけがえのない存在として共に育つことを喜び合える心を養う。

#### 3 交流のねらい

- (1) 集団に参加する力を養い、社会性を伸ばす。
- (2) 集団のもつ教育力の中で個性を伸ばし、共に学ぶ喜びを体得させる。
- (3) 共に学び、共に生活する中で、仲間として助け合い、励まし合って力強く生きていく意欲や行動力を培う。

#### 4 特別活動の中で期待される児童の姿

- (1) 学級活動：各自の特性を理解し合って、自分の思いを伝え、互いの考えを聞く。  
自分の役割を友達と協力して行い、自己有用感を味わう。
- (2) 児童会活動：委員会活動を通して、より良い生活を送るために友達と協力して活動したり責任を果たそうとしたりする。
- (3) クラブ活動：異学年で交流して、活動の計画をたてたり趣味を楽しんだりすることを通して興味関心を追求し、自分の個性を発見する。
- (4) 学校行事：めあてに向かって友達とかかわり合いながら、より良い仲間となるため、集団の一員として積極的に行動する。

## 特別支援教育の取り組み

### 【特別支援教育と特別活動】

#### 特別支援教育の考え方

- ・学級担任の「気づき」がすべての出発点となる。どこでつまづいているのかを捉える。しかし担任一人で抱え込まない協力体制やシステム作りが必要である。それぞれの立場で今すぐにできることは何かを考え、できることから始める。
- ・教師の認知や学習スタイルの多様性を持つことが子どもの理解ツールとなる。その子が今どこで困っていて、今何をしなければならないのか、そして次に目指す学習を一人一人の教師が描けることが必要。
- ・「勉強ができないことを良しとする子ども」「君は君のままでいいと言われる子ども」は一人もいない。子どもの成長において、社会のルールと社会を生き抜くスキルを身につけることは不可欠。できる限りきめ細かなアセスメントをすることで、表面化している行動の背景を読み取る。そして多くの教師の視点で考えることが大切である。

#### コミュニケーション能力の向上に向けて

コミュニケーション能力の向上を目指した学習は、子どものつまづきがどこにあるのか、それらがどのように絡んでいるのかを把握することから始まる。その上で、子どもたちに何をどのように獲得させるのか目標と方法を明確にし、評価基準を設定することが大切である。それに加え、コミュニケーションは楽しく学ぶことで向上するものであり、子どもに話したいという意欲を持たせることで効果を図りたい。そのために関わる大人は「よい聞き手」となることは言うまでもない。大人のコミュニケーション感度の高さが求められるということである。

#### リフレーミングを取り入れる

特別支援教育では、児童の特性や発達段階を考慮し、ニーズに合った教材を準備したり指導法を考えたりしていかなければならない。しかし日々の指導をふり返ってみると、教師の考えで授業を進めてしまうことがある。発達に課題を抱えている児童が主体的に学び学校生活を送っていくために、教師自身の見方を変えることも必要である。例えば、作業がゆっくりな児童には「丁寧にしているね」「努力しているね」という声かけをし、納得いくまでさせることが成長を促す場合がある。また一斉指導でなかなか指示が入らない児童がいた場合は、教師の指導の工夫が求められていると考えるべきではないか。このような視点で、授業に取り入れた内容は以下のとおりである。

- ・小さなことを褒める。
- ・即時評価（タイミングよく）
- ・互いの存在を認め合う集団作り
- ・児童の発達に見合った授業作り



- ・小さいスパンで進め参加させる。
- ・ねらいを自分たちのものにする。
- ・授業のゴールの見える化
- ・ペアトーク→発言→賞賛
- ・さりげない支援  
(特別支援の子への配慮を全員に)

以上の取り組みから見てきた特別支援学級の児童の姿は以下のとおりである。

## 【支持的風土の中で見られる特別支援学級（ふたば）の児童への関わり】

### 一人一人が大切にされる風土

- ・ふたばの子の意見をみんなが聞き、そこから何が言いたいのか理解しようとする。
- ・ふたばの子が委員会活動で役割が担えるよう、できることをみんなで考える。
- ・ふたばの子が個別学習でがんばっていることをみんなで共有する。
- ・学校行事に向けての練習を一緒に取り組んでくれる仲間がいる。

### 活躍の場が保障される風土

- ・ふたばの子ならではの発想が、係活動で展開される。
- ・ふたばの子も児童集会で活躍する。（司会・始めの言葉・終わりの言葉など）
- ・ふたばの集会を全校児童に呼びかける。



## 【特別支援学級の児童の成長の姿】

- ・ふたばの会で話し合い活動を行うことができる。  
低学年の意見を大切にしている高学年の姿。  
積極的に司会の仕事を果たす姿。  
自分の考えを伝えようと板書で説明する姿。
- ・話し合い活動で決まったことを実践することができる。  
楽しんで集会活動に参加することができる。  
役割を果たすことができる。  
自分たちの取り組みを全校生に呼びかけることができる。
- ・児童会集会や委員会活動、クラブ活動に参加することができる。  
楽しんで集会活動に参加することができる。  
役割を果たすことができる。  
全校生の前でふり返りを言うことができる。
- ・教科学習では自分の持っている力を発揮することができる。  
自分の考えを積極的に説明しようとする姿。  
友だちの意見に耳を傾ける姿。
- ・学校行事に向けて努力することができる。  
進んで練習することができる。  
準備に熱心に取り組むことができる。



# 本校の人権教育

人権は、「人々が生存と自由を確保し、それぞれの幸福を追求する権利」※1と定義されている。人権尊重の理念を児童にわかりやすい言葉で表すと「自分の大切さとともに他の人の大切さを認める」ということができる。※2「特別活動を軸にした取り組み」(p25)にある「違いを認め合う考え方」につながっていく考え方である。違いを認めるとは、一人一人が大切にしていることを聞き合い、尊重し合うことである。特別活動への取り組みの中で、児童の聞き合い、尊重し合う意識が高まってきていると感じている。

学級活動、特に学級活動(1)では、意見を出し合ったり比べ合ったりしながら話し合い、意見の違いや多様性を認め合い、折り合いをつけて合意形成していく。お互いの意見の良さを活かしながら決めていくことを大切にしている。わからないまま参加している児童がいる場合は立ち止まって、みんなで確認していく。誰一人取り残さないことを意識することが人権意識の高まりにつながっていく。

児童会活動やクラブ活動、学校行事では、異学年と交流することで相手の立場に立って考えることの大切さに気付くことができる。上級生は下級生を思いやって取り組み方を考え、下級生は上級生の姿を見て自分もあのような上級生になりたいなど自分の目指す姿をイメージすることができる。

※1「人権擁護推進審議会答申（平成11年）」文部科学省

※2「人権教育の指導方法等の在り方について〔第3次とりまとめ〕」文部科学省

## ○児童の姿から

集会、委員会活動やクラブ活動での異学年交流の場では、高学年が中心となって、下級生をリードしている。集中して参加できない児童がいても、誰かが必ず温かく声を掛け、その児童がつらくならない形で優しく参加を促している。そのような高学年の姿を見て、次の学年が同じように接しようとしている。こうして、困っている児童、つらい思いをしている児童を放っておかない校風を創りあげてきている。

しかし、その反面、日常の中で、同じ学級の友だちに対して、心を傷つけるような言動をすることや、仲間外れをしたりすることが、しばしばある。誰であつても人権が脅かされるようなことはあつてはならない。低学年から、「自分を大切にすること」「友だちを大切にすること」とはどのようなことなのか、教師が、いじめにつながる芽を見逃さないで機会あるごとに立ち止まらせ、児童とともに考え一緒に解決していくことを積み上げていく必要がある。「豊かな人権感覚を身につけ、未来を切り拓く子どもの育成」を目指していくためには、まず教師が誰一人取り残さない意識を持つことを忘れないようにしたい。

## 「人権・同和教育推進計画 ～令和7年度(2025年度)～」から抜粋

### 学校教育目標

互いにかかわり合い 高め合う 光明っ子の育成

～自主・自律・情愛～

### 人権・同和教育目標

豊かな人権感覚を身につけ、未来を切り拓く子どもの育成

- 地域社会に生きる一人として、相手の気持ちや立場を尊重し、自分で考え判断し、行動できる子ども
- 違いを認め合い、共に生きていこうとする子ども
- 身の回りの不合理や矛盾に気づき、解消に向けて主体的に行動できる子ども

## 取り組みの重点

(2) 人間尊重の精神を基盤として、確かな人権意識と人間関係を育てる。

① 道徳の授業を通して、差別や偏見の誤りに気づかせるとともに、それらを解消するための心情を養い、道徳的实践力を培う。また、自分らしさを大切に、他者を認め、互いの考えを尊重しあう中で自尊感情を育て、豊かな人間関係を築くことにより、人間としてのよりよい生き方に気づかせる。

○ 人権学習…共感をもった授業を通して、差別を許さない、差別は許せないという意識や自覚を根付かせていく。固定観念にとらわれず、偏見に縛られず、物事を多面的に見る力を養う。実体験や聞き取り、参加体験型授業を取り入れながら、様々な人権課題に取り組む。

・同和(部落問題)	・障がい者福祉	・高齢者福祉	・平和	・国際理解(多文化共生)
・男女共生	・命、健康	・ジェンダー		

○ 仲間づくり…豊かな人間関係が築けるよう、違いを認め合う関係づくりを目指す。様々な個性を持つ人との出会いや交流を通して、他者との違いに気づき、相手のよさや長所に目を向けられるようにする。相手の気持ちに寄り添い、共に力を合わせて課題解決を目指すことで、自他を大切にする仲間づくりをしていく。

② 各教科の学習を大切に、特別活動及び全領域で関連をもって取り組む。基礎基本の充実を図り、体験的な活動を重視する中で、学ぶ楽しさやわかる喜びを味わう。さらに、仲間と共に豊かな人間関係を育みながら自己表現力を培う。

## 今年度重点を置いて取り組んだこと

人権・同和参観を「道徳(人権)参観 懇談」という名称にした。保護者と児童が共に考える場面をできるだけ取り入れ、地域で人権について考える授業とした。夏季休業中の道徳(人権)参観研修会では、講師の春川先生にご指導していただき、各学年の授業内容について共通理解をした。

### 【今年度取り扱った資料】

第1学年「だれののをさきにしようかな」	第4学年「島ひきおに」
第2学年「およげないりすさん」	第5学年「学ぶ」ことの意味
第3学年「橋」	第6学年「これからの自分の生き方を考えること」

### 【参観・懇談の保護者の感想より】

- ・いろいろな人がいて、様々な考え方がある今の時代の中でも、やはり守らなくてはいけないことや大切にしないといけないことなどを学校で教えてくれると助かる。
- ・人権の授業をするようになり、子どもたちは多様性を認め合うことができるようになったことを素晴らしいなあと思う反面、大人の方が、多様性に慣れず、人権のことについて理解が乏しく、気が付けば差別をしてしまったということがあるのでは。
- ・大人の子どもを守りたいという思いが強く出すぎ、子どもの成長や思いを邪魔していることもある。
- ・私の勝手な思い込みや、私が見たことだけで、判断し決めつけてしまうことがある。そんな時に、私は相手の話を聞いているのかと・・・お互いの思いを話し合うことで理解し合えるのだと改めて感じた。
- ・「お母さん、部落差別って知ってる？」と話をしてくれた。いろいろなことを感じたようだ。まだ差別が残っている所があるので同和教育は必要だと思った。
- ・思いやりや、いろいろな立場や考え方の人がいること、他人の気持ちを想像するということを、これからも考えてもらいたい。
- ・過去に起きたであろうことから学び、今、あるいは今後、どう生きていくのか考えることが大切なんだろうなと感じた。大人の私でも深く考え、改めて差別について学ぶことができた。

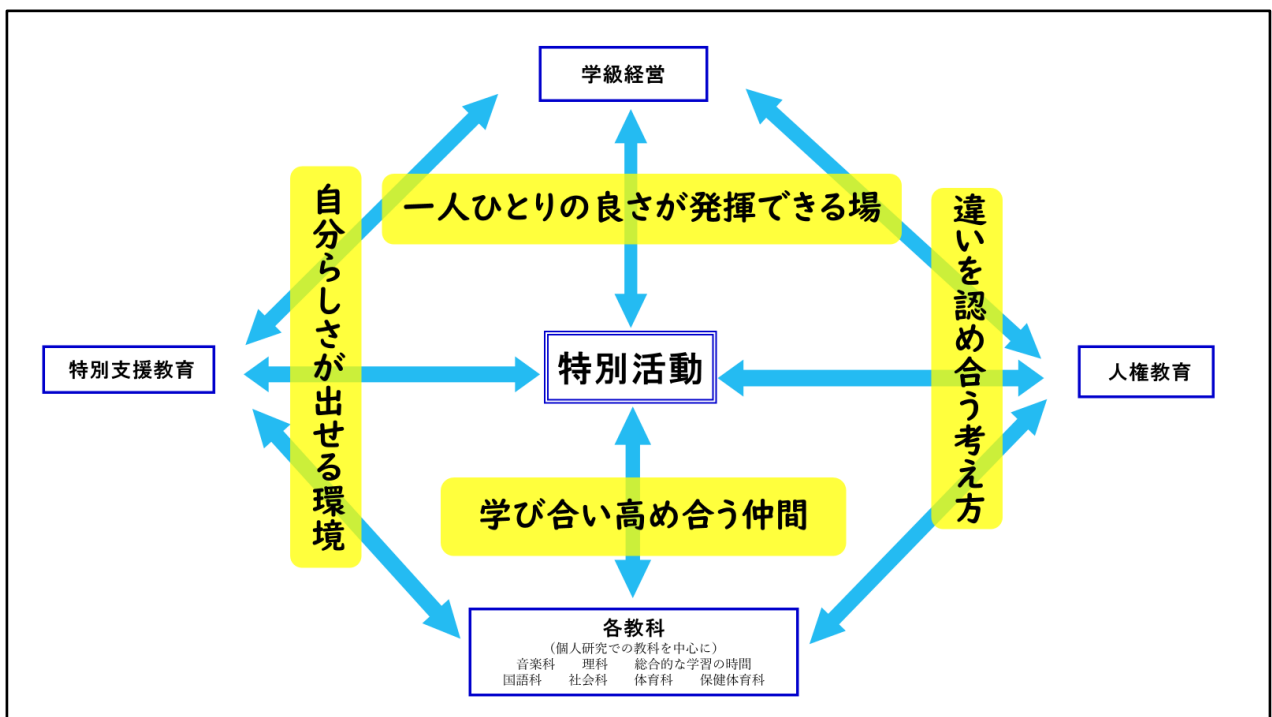
## これまでの研究のあゆみ

### 1. はじめに

子どもが主体的に学び、友だちと協働してより良い生活を創りだすためには、学校が安心できる場所でなければならない。「自分の話が聞いてもらえる。」という安心感が発言力を生み、発想力を掻き立てる。友だちの考えに耳を傾け、「面白い考えだな。」「それをやってみたいな。」と素直に感じることでできる関係が安心できる学校風土を作っていく。本校ではそれが集会活動のふり返りの場面や委員会活動の話合いの場面での子どもの姿に見られる。そしてこの姿は、学校生活において最も身近で基礎的な所属集団である学級での活動が基盤となっている。一人の願いが話し合ううちにみんなの願いに変わり、それを実現しようとみんなで一生懸命に考える。分からないことは質問し具体化する。心配なことがあれば、改善策を考え、みんなが安心して実践できるようにする。そうしてみんなの願いが実現した時に子どもたちは「みんなで話し合ってよかったな。」と話合い活動の価値を実感するのである。このことを1年生から繰り返し取り組むことで、違いを認め合い、みんなで共に生きていこうとする人間関係、つまり誰一人取り残されない集団になっていくだろう。学級活動は次第に学年を超えた活動に、そして全校での活動に広がっていく。異年齢で構成される集団で取り組む児童会活動にも自分の思いをもって参加し、自分の持っている力を発揮することで、「自己実現」「社会参画」という資質・能力が育成される。そしてそれはいずれ地域や社会と繋がる力になっていく。そう期待して本校では今年度も特別活動を軸にした教育活動に取り組んでいる。

### 2. 特別活動を軸にした取り組み

以下の図は、特別活動を軸にした時に他の領域との関係を図にしたものである。それぞれの領域で大切にしたい視点が特別活動の理念と共通していることを表している。



## 【何のために特別活動を研究するのか】

4月の校内研究会では、昨年度の講師からの助言を元に、何のために特別活動を研究するのか改めて問い直すことにした。新しく着任した教師も複数いるため、特別活動を研究することで子どもたちにどんな力をつけたいか話し合い、共通理解を図った。教員の思いに共通していたのは、「自分の言いたいことを伝えることができる力」である。そのためには、周りの友だちの思いを聴こうとする力や態度が必要不可欠である。

### 特別活動を研究することで どんな力をつけたいか

- ・自分の思いを話すことができる（自己実現）
  - ・自分の考えを持って行動に移すことができる（自己実現）
  - ・少数派の意見でも受け止めることができる（人間関係形成）
  - ・困っている子どもに 寄り添えることができる（人間関係形成）
  - ・友だちのことを分かりたい、理解しようとする（人間関係形成）
- ↓
- ・教師が楽しませるのではなく、自分たちでより良い学校をつくっていくことに価値を感じる。（社会参画）

## 【今年度の話し合い活動について】

昨年度は、学級活動（1）の話し合い活動について選択型の話し合いから工夫を練り上げる話し合いに発展させたいと考え、工夫を考えることに重点を置いた。反省では、課題として工夫を柱にすると話し合いの内容が高度になり、ついていくのが難しい子どもが出てくることが多かった。成果としては、少数の意見を活かそうとする工夫や意見のつながりによって新たなアイデアを創り上げようとする意識が高まったことが挙げられる。昨年度「出し合う→比べる→まとめる」を発展させ、「しぼる→深める→まとめる」と話し合いの流れを示す言葉を新しく考えた。「しぼる」では、何について話し合うかを、「深める」では、より思いを深く聞いていき、意見を分類したり関連付けたりする。今年度は、どちらの書き方か指定せず、議題によって選べるようにした。どちらの話し合いになったとしても、みんなの意見を活かしながら練り上げ創る話し合いを目指すことを確認した。

練り上げ創る話し合いを目指すために、「新しい考えを生み出す」という言葉について捉え直す機会を設けた。特別活動のふり返りの項目には「話が行きづまった時に、新しい考えを生み出すことができる」とある。誰も思いつかないような新しい考えを生み出すのは大人でも難しい。話し合い活動における「新しい考え」とは何かと校内研究会で話し合ったところ「より多くの人が納得できるような考え」のことではないかと結論が出た。つまり、合意形成をする際に一人でも不安を感じる子がいればその子の思いを解決できるようなアイデアを考える、少数派の意見も取り入れられるような、より多くの人意見が活かされるようなアイデアを考えることである。まず「新しい考えを生み出す」の具体例を紹介し合い、子どもたちにイメージを持たせることから始めることにした。（校内研究推進計画を参照）

そのためには特別活動におけるそれぞれの発達段階でつけたい力をより明確にする必要がある。練り上げ創る話合いを目指すために我々教員が目指すべき姿を共有すべきである。そこで「光明小でつけたい資質・能力」を再検討し、その資質・能力を身に付けさせるために低学年（1、2、3年）、高学年（4、5、6年）で特別活動の中で具体的にどんな力をつけたいのか全員で検討し、共有することにした。

「選ぶ」話合いも「工夫」を考える話合いどちらも必要である。どちらの話合いになっても重要になるのは、提案理由と話合いの柱である。話し合うべきポイントが定まっていなくてどこを目指して話し合うのかが子どもたちに見えにくくなり、時間だけ使っても何も決まらなかったということが起こる。

そこで提案理由に「仲が深まる」「楽しめる」「なかよくなる」など一見良いように見える言葉（マジックワード）を発達段階に応じてできるだけ使わないようにしていくことにした。低学年では学級会を楽しむことを一番の目的とするため、絶対ではない。中学年以上では何のために話し合うのか、学級会を通してどんな学級にしていくのかについて意識させていく。意見を比べるための観点がはっきりわかるように、柱を教師が子どもたちと共に考えることが大切である。

①新しい考えを生み出す＝「みんなにとってより良い考え」

「より多くの人が納得できるように合意形成をする」

②「光明小でつけたい資質・能力」の再検討と発達段階に応じた具体的な力の表の作成  
→練り上げ創る話合いの一般化につながる。

③提案理由の吟味と柱の設定

「仲が深まる」「楽しめる」「なかよくなる」を使わない。提案理由と柱をできるだけ具体的にして、みんなで話し合う価値のあるものにしていく。

## 【自己肯定感を高める】

一昨年度と昨年度の学級活動のふり返りアンケートの結果に注目すると、「自分の良さに気づく」など自分という言葉が入ると数値が低くなることがわかった。そこで、児童一人一人が自分の良さをもっと見つめて、気づけるように手立てを考えた。

①学級会のふり返りでは、自分のがんばりに注目して書くように意識させる。

②友だちからの評価、承認を引き出す。「〇〇さんが～についてよく取り組んでいた」

③教師によるふり返りによる指導。どのような点について注目すればよいのか例を示す。

## 【学級の課題の議題化と 議題のストーリー化】

議題と議題に連続性が必要だと助言頂いた。年間を通してどのように学級づくりしていくのか見通しを持つことで学級の目指すべき姿を共有する。そしてそこまでに何をしていけばよいのか教師もイメージを持つことが出来る。例えば4月だと仲間づくり、お



互いを知ることができるような議題を取り上げる。2 学期以降は集団としての力が高まってきたときにみんなで 1 つのものを作りあげる議題などを取り上げる。3 学期は 1 年間の成長をふり返ったり、次の学年に向けてめあてを持たせたりする議題などである。年間指導計画を考える時につながりを持たせるように意識していく。「今回の集会では〇〇ができなかったから次は△△をがんばりたい。」議題と議題をつなげていく。

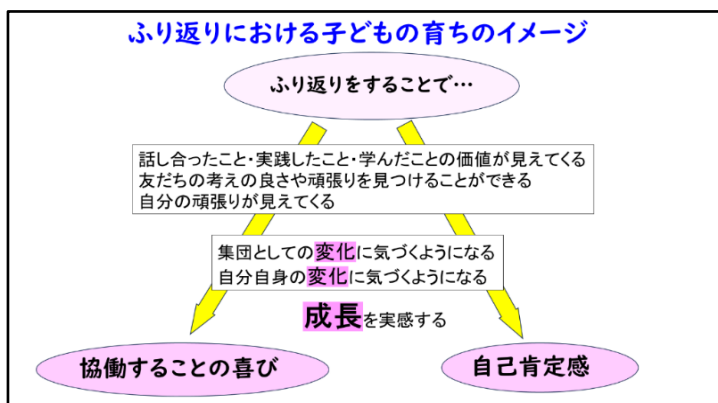
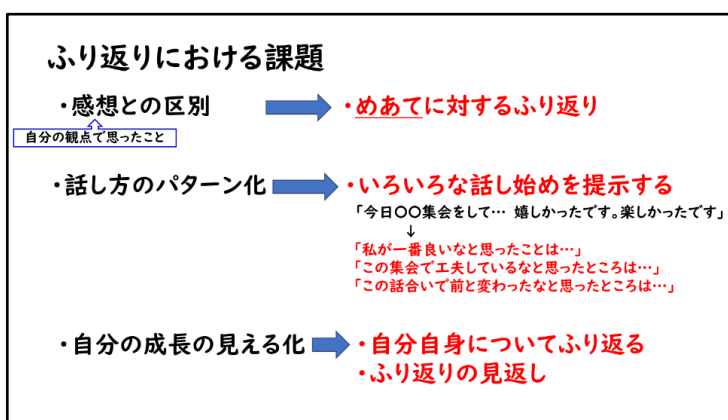
そこで取り上げる議題についても、学級における生活上の困り事を議題化することも提案された。学級で困っていることや学級の課題としていることを取り上げ、どうすればその課題を解決できるのか話し合う。解決策を考え、実践していくことで学級での生活をより良いものにしていく。自己決定して自分のめあてに向けて取り組むのは学級活動(2)である。しかし、学級の課題についてみんなで話し合い、みんなで解決策を考えて実践するのは、学級活動(1)である。

### 【ふり返りの指導について】

本校ではふり返し活動に力を入れている。それは自分や集団としての考え方や活動の様子を見つめ直し、価値づけすることで、自分や友だちの良さが見えてくるからである。これを継続して行っていくと、自分や集団の変化に気づくようになっていく。

具体的には学級会の話し合い、集会活動や児童会活動、学校行事等、特別活動全般において行っている。また各教科学習においても同様である。全校で行う集会活動後のふり返しでは全校生の前に各学年から 1 名ずつ出て、ふり返しを発表するのが常である。またふり返しは「きらきらファイル」(キャリアノート)に書くようにしている。そうすることで、1 年間のあゆみがつながる。一つ一つの活動が点で終わらず、線となり、それが次の学年にも活用できるようにすることで、自分の成長が実感できるようにしている。そこから自己肯定感が育まれると期待している。

子どもに任せるだけでは毎回同じようなふり返しになってしまう。教師による指導や働きかけが必要であることを校内研で確かめた。特に今年度は自己肯定感を高めることをねらいとしているので、どんな視点で集会に参加し自分の良さを探すのか事前指導があると発言に自信がない子も発言しやすくなるだろう。児童集会の前にめあてを意識させたり、あまり発言の機会がなかった子どもに声をかけふり返りの言い方を指導したりすることで、より多くの子どもに発言の機会を与え、自信をつけさせたい。



## 【校内研究の流れ】

- 4月 9日 理論研「今年度の方針について」
- 4月 25日 ミニ研修会「やってみよう学級会」
- 4月 28日 教科部会「2年生の教材研究」
- 5月 12日 共同研究「美座小学校研究授業参観」
- 5月 19日 理論研「悩み相談会」「教科との往還について」
- 5月 26日 教科部会「4年生の教材研究」
- 5月 28日 校内研「事前研究会 5年1組学級活動(1)」(講師：常木先生)
- 6月 3日 全学年公開授業日 全校研「5年1組学級活動(1)」  
事後研究会(講師：杉田先生 常木先生)
- 6月 30日 教科部会「1年生の教材研究」
- 7月 23日 理論研「1学期をふり返って(授業・委員会活動・集会活動など)」
- 8月 20日 美座小学校・秦野小学校との特別活動教育合同研究
- 9月 24日 理論研「2学期の方針について」「資質・能力表の検討」
- 9月 29日 教科部会「3年生の教材研究」
- 10月 22日 公開研究会授業のための議題検討(講師：常木先生)
- 10月 26日 教科部会「6年生の教材研究」
- 10月 30日 全学年公開授業日 全校研「4年1組学級活動(1)」  
事後研究会(講師：杉田先生 常木先生)
- 11月 10日 理論研「模擬学級会を通して」「公開研究会の議題、授業検討」
- 11月 18日 特活と教科との往還について(杉田先生によるオンライン研修)
- 11月 25日 ミニ研修会「議題と柱の設定の仕方」
- 12月 2日 ミニ研修会「指導案の書き方」
- 12月 4日 共同研究「美座小学校研究授業参観」
- 12月 25日 理論研「2学期のふり返り」「公開研究会の議題、授業検討」
- 1月 9日 公開研究会授業のための指導案検討(講師：常木先生)
- 1月 22日 公開研究会(講師：杉田先生 常木先生)

## 3. 特別活動と教科等との往還についての研究

今年度は、これまで研究を積み重ねてきた「特別活動と教科等との往還」について研究を深め、より具体化していくことになった。教科等との往還については「教科部会」で研究を深め、全員で単元作りや授業づくりに取り組んでいく。

### 【往還の捉え方】

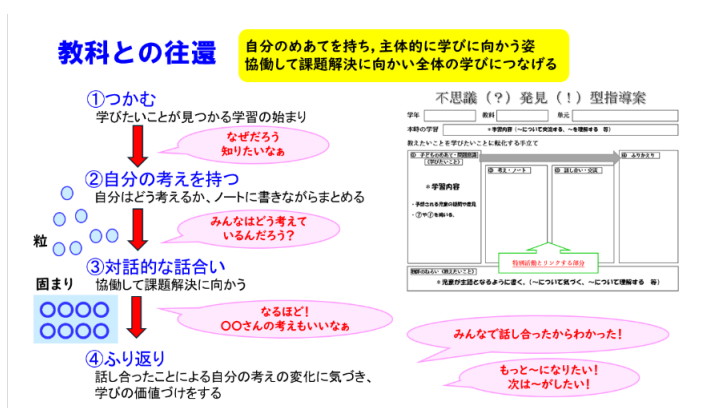
往還とは、二つの事柄を行ったり来たりして循環させることである。本校では特別活動の研究を通して、特別活動で培った力を教科や総合的な学習の時間で活かす、または教科で身に付けた力を特別活動で活かすことを「特別活動と教科との往還」と捉えている。

特別活動でつけた力を各教科の学びに活かすためには、教材分析や板書の仕方、授業の組み立て方、単元づくりと様々な項目についての研究も必要である。

**教科との往還**

自分のめあてを持ち、主体的に学びに向かう姿  
協働して課題解決に向かい全体の学びにつなげる

教科部会では右の図のように授業を組み立てることで、特別活動と教科との往還を意識した授業づくりが出来る考えた。



2 年生 国語科「かんさつ名人になろう」の授業検討

かんさつきろく文を書くために、どのような観点でメモをするのか子どもたちに考えさせる。教科書には「大きさ」、「色」、「形」、「数」、「におい」、「さわったかんじ」の6点の観点が示されている。これらを子どもたちが自分でつかむことができないか考えたい。

・自分たちで育てているミニトマトを普段から観察させ、大きく成長したところによく見る時間を取り、前と比べて変化したところを考えさせる。「前と比べて、かわったことはないかな」と投げかけると子どもたちは「大きさが変わった」「色が変わった」などと答えるだろう。そこで、教師が「何の大きさ？」などと問い、より見る物を具体的にしていく。葉の大きさ、茎の高さ、茎の太さなど。観察する観点を自分でつかむことができる。

- 例えば「前は……だったけど、今は……になっている」

・「②自分で考える→③友だちと交流して考える」の流れ 授業の形態を考えていく。勉強の仕方がわかれば、子どもたちが自分で学ぶことができる。学級会を自分たちで進めているように、学びたいことを自分たちで学ぶことができるようになる。

- ・ 赤い花を描かせると大きさがばらばらな花を描く。黄色の 1cm の花を描かせると形や種類がばらばらになるだろう。ではどのようなところを見て、記録文をかけばかんさつ名人になれるか考えさせる。
- ・ 国語科の学習なので、より具体的に表現しているものを評価する。成長した部分に注目できるように観点を持たせる。
- ・ 国語科の授業なので、語彙を増やし、自分で表現できるようにしていく。

4 年生 国語科「一つの花」の単元計画検討

- ・「一つ」の意味について考えさせたい。なぜ題名が「一つの花」なのか考えさせることで、作者の意図を考えさせる。
- ・平和について自分の考えをまとめさせたい。

## 2.意見交流を通して

### A グループの考えた計画

単元のねらい 身に付けさせたい力		<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語で心にのこったところ、大事なところがどこか分かる。</li> <li>・本を紹介する力をつけ、読書力につなげる。</li> </ul>	
第1次	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画を立てる。</li> <li>・成果物を見て読みたくなる→作ってみたい</li> </ul>	並行読書
第2次	2	・一つの花を一人で読む。視点を持たせる。	
	3	・登場人物の会話、行動から登場人物の思いをたしかめる。	
	4	「1つだけ」にこめられた登場人物の思いを想像する。	
	5	・題名にこめられた思い	
第3次	6	本の紹介をする。(成果物、帯、ビブリオバトル)	↓

- ・ビブリオバトル 好きな本の伝えたい部分をどんな言葉でつたえるか考える。
- 「一つの花」をモデルに友だちと繰り返し出てくる言葉を探していく。「一つの花」の筆者の意図を考えることで、他の本の筆者の伝えたいことを考える。
- ・帯を作る場合は、大事な言葉を選ぶ力を身に付けさせる。

### B グループの考えた計画

単元のねらい、 身に付けさせたい力		<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語で心にのこったところ、大事なところがどこか分かる。</li> <li>・本を紹介する力をつけ、読書力につなげる。</li> </ul>
第1次	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先にアニメなどで想像しやすくしておく。</li> <li>・初めに「何について学習するか」計画を立てる。(初発の感想) わからないことを出し合い、深めていく。</li> <li>・私にとっての平和をテーマにする。</li> </ul>
	2	・内容を捉える。(戦争の背景の理解)
	3	・出てきたことを整理しよう(しぼる) (ゆみ子のくらしをくらべる)
第2次	4	1 テーマずつ考える 例:戦争中のくらし
	5	1 テーマずつ考える
	6	1 テーマずつ考える 例:「一つだけにこめられた思い」
第3次	7	平和についてあなたの考えをまとめよう。「自分がどう考えたか」を大事にする。平和宣言文を書く。

- ・自分たちにとっての平和について意見を書かせる。並行読書で多読させ、「一つの花」と似ている点や共通点、相違点など比べながら読む方法も良いかもしれない。
- ・友だちとの対話を通して、自分の考えが変わったり深まったりする。自分の成長につながり、自分の良さに気づくことができる。
- ・対話して意見を交流する。学んだことをふり返りで書き留めていく。友だちと対話することで考えが変わったことを書き留めていく。

## 3.まとめ

- ・対話とは、相手と向かい合って、2人でお互いに話すこと。自分の考えをきちんと伝えた上で、相手が話す内容の意味を追求しながら話を進めていくこと。

- ・対話によって、子どもたちが自分の意見を深め、良さに気づくことにつなげていきたい。

### 第3回教科部会

#### 1年生 算数科 「かずしらべ」の授業検討

##### 1.授業構想

- ・ものの数を絵グラフに表し、数の多少を比較するなどして、事柄の特徴をとらえる。
- ・ねらい「ものの数を種類ごとに分かりやすく整理する方法について考えることができる。」

##### 2.意見交流を通して

###### A 案

つかむ	かごをみて気づいたことを交流する。 ・果物がばらばらでくらべにくいなあと感じさせ、何が一番多いか調べようと意欲を持たせていく。
さぐる	一人で操作して見通しを持たせる。(オクリンクプラス) 予想される児童の考え ・つなげる ・ならべる ・はしをそろえる
くらべる・見つける	2つの意見をくらべ、大きさがそろっていないと比べにくいことに気づかせるようにする。
ふり返り	まとめ 数を比べるには、大きさをそろえること、はしをそろえることが大切であることに気づく。

###### B 案

つかむ	かごをみて気づいたことを交流する。 ・果物がばらばらでくらべにくいなあと感じさせ、何が一番多いか調べようと意欲を持たせていく。
さぐる	自分で比べる方法を考える(オクリンクプラス)
くらべる・見つける	提出ボックスを見て ぱっと見てわかりやすいのはどれか交流する
ふり返り	まとめ 数を比べるには、大きさをそろえること、はしをそろえることが大切であることに気づく。

- ・問いかけの言葉が重要である。気づかせたいことに迫り着くためにどのように発問すればよいか検討する。

「見やすくなるならべ方はないかな。」

「どれが多いかな。」

「ぱっと見てわかるならべ方はどれかな。」

##### 3.授業をしてのふり返り(後日)

- ・導入では、子どもたちから出てほしい反応が出ていた。ばらばらの果物を見て、「わかりづらい、動かしたい、並べたい」など。子どもたちの気持ちを引き出せた。
- ・交流と話し合いが難しかった。先生がいくつかピックアップして、説明させてもよかった。班での話し合いが難しかった。進んでいなかった班もあった。
- ・めあてを子どもの言葉から作ったので、数えやすい並べ方を考えようにしたが、そもそも数えなくてもどれが多いか分かるのがグラフの良さなので、「数えなくても分かる並べ方を考えよう」とした

らよかった。

- ・教科の学習なので、何が正解なのか、まとめないといけない。どれもいいねとはならない。
- ・対話を取り入れるには、根拠を持って対話できることを目指す。なぜそう思ったのかをとことん聞く。

#### 第4回教科部会

#### 3年生 社会科 お店ではたらく人びとの仕事 ～食品ロスについて～

##### 1.授業構想

【単元名】お店ではたらく人々の仕事

【目標】

知識・技能

- ・販売の仕事が、消費者の多様な願いを踏まえ、売り上げを高めるように工夫して行われていることを理解する。
- ・見学や調査を行ったり、地図などの資料で調べたりして、白地図などに情報をまとめる。

思考力、判断力、表現力

- ・消費者の願い、販売の仕方、他地域や外国との関わりなどに着目して、販売に携わっている人々の仕事の様子を捉え、それらの仕事に見られる工夫を考え、表現することができる。  
(消費者がよく買い物をする店や買い物の工夫、商品の品質管理、売り場の並べ方、値段のつけ方、宣伝の仕方、他地域や外国との関わりなどを調べる。)

学びに向かう力、人間性

- ・社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度を養う。
- ・より良い社会を考え、学習したことを社会生活にいかそうとする態度を養う。

【単元計画】

第1時 地域にはどんな店があるのだろう 買い物調べにつなげる

第2時 どのようなお店によく行くのだろう

買い物調べの結果から単元を貫く学習課題を考える

大きな学習課題「たくさんのお店があるのに、なぜスーパーマーケットで買い物する人が多いのだろう」

第3時 なぜスーパーマーケットで買い物する人が多いのだろう 予想

第4時 なぜスーパーマーケットで買い物する人が多いのだろう 仮説・検証の方法

第5時 スーパーマーケットで取材(店員さんとお客さん)

第6時 なぜスーパーマーケットで買い物する人が多いのだろう 検証とまとめ

第7時 商品はどこからくるのだろう(産地調べ)

第8時 もうからないのに、なぜフードロスをへらす取り組みをしているのだろう(本時)

環境のことを考えた取り組みをなぜスーパーがしているのか考えることから、企業もSDGsに取り組み、環境に優しい会社を目指していることを知る。またフードロスを減らすことが、廃棄量を減らし、在庫管理にも恩恵をもたらし、お店の利益にもつながることを理解する。

(第9時 スーパーマーケットとコンビニとのちがいは何だろう)

比較することでそれぞれの良さがあがり、消費者の願いによりお店を使い分けていることに気づかせるようにする。

第10時 スーパーマーケットのくふうを つたえよう

【できれば取り扱いたい教材】

- ・ネットスーパー(マンダイ、関西スーパー) ・移動販売

## 2.意見交流を通して

### ○グループに分かれて授業づくり

- ・学習課題は適切か。
- ・対話による思考の深まりを促すには、どう授業を組み立てればよいか。
- ・子どもたちが学びたいと思えることが、学ばせたいことにつながるように。

### ○交流したこと

#### A グループ

- ・「もうからないのに」という言葉で思考がせまくなるので、いけない。
- ・前時に「フードロス」について調べる時間を取り、ある程度知識を得た状態の方が考えやすいのではないか。
- ・予想される児童の意見にはどのようなものがあるか。  
「もったいないから。」「役に立つから」「ごみがふえるから。」  
→考えが浅い意見ばかりになってしまう→事前の知識がいる
- ・対話の入れ方については、2段階にして対話することで、友達の見方考え方を広げる。1段階目は同じ予想をしたグループで。2段階目は違う予想をした人とグループになって交流すると、考えを広げることができる。
- ・対話の根拠を子どもたちが持てるようにする。当て物のクイズにならないようにする。
- ・実生活、学校生活につなげる。机上の空論にならないように。給食の食べ残しなどもつなげて食の教育についても考えられるようにしていく。

#### B グループ

- ・どんなふうに工夫して仕事をしているかについておさえていきたい。スーパーマーケットではそれがどんなものかを考える。
- ・割引シールなど身近なものから考えていく。「なぜ割引シールをはるのだろう。」
- ・何か特別なことをするには理由がいる。何のためにくふうしているか気づかせたい。

## 3.まとめ

- ・対話を取り入れるには、根拠を持って対話できることを目指す。なぜそう思ったのかをとことん聞く。
- ・児童の生活に近い切り口から導入をしていくことで、考えたくなる学習につなげていく。

## 第6回教科部会

### 6年生 国語科 「海の命」

#### 1.授業構想

- ・単元の作り方をどうしているか。
- ・並行読書をして、最後になぜ太一は瀬の主をうたなかつたのかに迫る。
- ・物語文の単元を構成する方法を考えて学年の縦のつながりも作っていききたい。。

## 2.意見交流を通して

### グループの交流

- ・「海の命とは何か」を中心の問いとして考えていく。
- ・3人が太一の生き方や考え方にどのような影響を与えたのかを読み深める。母の「美しいおばあさんになった」とわざわざ書いている理由に迫る。最後の6行を丁寧に読みすすめる。
- ・作者の立松さんがどのようなことを伝えたいのかを考えていく。
- ・1年生から根拠を繰り返し伝えていき積み重ねていく。情景描写などでもそれぞれの学年にあっ

た形で指導していく。

- ・登場人物に対する人柄を感じられるようにしていく。こんな生き方をしてみたいというところに思いが向くようにしていく。
- ・並行読書では命のシリーズを読むと良い。物語は中心人物が変容していくことに着目することが面白さにつながる。
- ・太一自身がどのように変わっていったのかを追っていく。
- ・クラスで3冊ほどを読み、一緒に読んでいるものを深めていき十分に深まった後、違う本を読んだ人たちとも交流してく。
- ・命シリーズでは、狭い範囲での並行読書になるが、中心人物の変容であれば、より枠を広げた本を選べる。教科書にも紹介がある。

#### 特別活動と教科等との往還について 研修会（杉田先生による研修）

今年度、公開研究会で教科と総合的な学習の時間の授業も公開することになった。教科との往還についてより理解を深めるために、杉田先生に依頼し、杉田先生と研究生の方に具体的な実践例を通して講話していただいた。

#### 1.1. 特別活動から教科への応用視点

特別活動で実践されているアプローチには、教科の学びを促進する要素が豊富に含まれている。

- **ユニバーサルデザイン(UD)の視点：**
  - 特別活動では、特別な支援を必要とする子や理解が難しい子にも分かりやすいよう、思考ツール(探究、比較、分類など)や活動プロセスが可視化されている。
  - これは授業における「見通し」(ゴールとプロセスの提示)や板書の構造化に応用でき、全ての子供が主体的に学ぶための基盤となる。
- **多様な他者を認める力の育成：**
  - 特別活動は、困っている子を助けたり、うまく表現できない子をフォローしたりする「学びに向かう集団」を形成する上で中心的な役割を担う。
  - この集団としての力は、教科における協働的な学習活動を円滑にし、誰一人取り残さない環境を構築する上で不可欠である。
- **合意形成と意思決定：**
  - 学級会における「合意形成」のプロセスで培われる、公平に人の話を聞く力や、表現しきれない意見を代弁する力は、教科でのディスカッションやグループワークの質を高める。
  - 生徒指導の機能でもある「自己決定」の場面を設けることは、子供が自らの学びを自分で決める主体性を育む。

#### 1.2. 教科から特別活動への応用視点

教科、特に算数科などで用いられる思考法は、特別活動の質的転換を促す可能性がある。

- **問題解決的アプローチの導入：**
  - 特別活動の学級会における提案理由は、「協力」「絆」「仲良く」といった漠然とした言葉に留まりがちである。
  - これを算数の問題解決のように、「何が問題で、どうしたいのか」を明確にする形式にすることで、議論の焦点が定まり、45分という限られた時間内での収束が可能になる。
  - 学級会での体験を「まとめ」として言語化し、活動の価値を自覚させることも、教科における学びの形式を応用した有効な手法である。



## 2. 特別活動が育む力と教科への応用

特別活動が育む具体的な能力と、それが教科の学習にどのように貢献するかを詳細に分析した。

特別活動で育む主要な力	内容・特徴	教科への応用
学びに向かう 集団作り	困っている子を助け、表現できない子をフォローするなど、誰一人取り残さない協働的な関係性を構築する。	グループ学習や協働的な問題解決において、円滑なコミュニケーションと相互扶助を促す。
ユニバーサル デザイン(UD)	思考ツール(探究、比較、分類など)やプロセスを可視化し、子供に見通しを持たせる。	授業のゴールとプロセスを明確に提示し、板書を構造化することで、全ての子供の主体的学習を支援する。
自己決定	「～しなさい」ではなく、複数の選択肢から子供自身がどうしたいかを選び、決定する機会を提供する。	学習方法や課題へのアプローチを子供自身が選択する場面を設けることで、学習への当事者意識を高める。
合意形成	公平性や他者への配慮を基盤に、集団としての意思を形成する。教科における課題解決とは異なるプロセス。	ディスカッションにおいて、多様な意見を調整し、より良い結論を導き出すための基礎的な態度とスキルとなる。
思考スキル	比較、統合、活用、論理的思考、批判的思考といった高度な思考力を、具体的な活動を通して育成する。	教科で学ぶ知識や技能を活用し、より複雑な課題に対して論理的かつ多角的に考察する力を支える。

## 3. 教科と特別活動の連携に関する実践事例

### 3.1. 国語科における実践

- **問いの探究とフリートーク：**学習単元の冒頭で子供たちから生まれた「問い」を板書に貼り出し、子供たちが自ら問いを選んで読みを深める。授業の最後には、異なる問いに取り組んだ子供たちが自由に意見を交流する「フリートーク」の時間を設ける。
- **効果：**子供たちは自身の考えを発表するだけでなく、「誰々さんの問いと自分の問いのこういうところが繋がっていた」といったように、多様な視点を関連づけて思考を深めることができる。これは、特別活動で育まれる他者の意見を尊重し、統合していく力の発露である。

### 3.2. 算数科における実践

- **多様な解法の共有と選択：**1つの問題に対して、まず一人で考え、その後、多様な解き方を「出し合う」。子供たちは他者の考えを聞いた上で、自分に合った解き方を選択し、実践する。
- **効果：**うまくいかない場合は再び集団で知恵を出し合い、より難易度の高い問題に直面した際には、別の解法を選択し直す柔軟性も育まれる。これは、特別活動における「自己決定」と「協働による問題解決」の要素を教科に応用したものである。

### 3.3. 総合的な学習の時間における実践

- **「リアリティ」の追求：**特別活動を基盤とした総合は、単なる調べ学習や発表で終わらない「リアリティ」を持つ。例えば、地域の観光プランを作成するだけでなく、実際にタクシー会社と連携してツアーを実施したり、栽培したリンゴを自分たちで値付けして販売したりする活動が挙げられる。
- **鍵となる要素：**成功の鍵は、活動が子供たちの「これをやりたい」という内発的な動機に基づいていることである。教師主導のテーマでは知識理解に偏りがちだが、子供たちが主体となることで、合意形成を行いながら社会に働きかける、迫力のある学びが生まれる。

#### 4. 特別活動と学力の相関関係に関する考察

特別活動と学力の関係性について、注目すべきデータと考察が示された。

##### 4.1. 文部科学省調査に見る相関

過去の文部科学省の調査結果によると、特別活動（特に学級活動）に熱心に取り組んでいると回答した学級ほど、学力が高い傾向が見られる。この相関関係は10年前の調査でも同様の結果が示されており、再現性が高い。

- **重要な点：**この効果は「個人」の資質能力よりも「集団」に対して強く現れる。つまり、「特別活動に熱心な子供個人の学力が高い」という関係性以上に、「**特別活動に熱心な子供が多く集まっているクラス全体の学力が高い**」という結果が出ている。

##### 4.2. 関係性による学力の向上

この結果は、特別活動の効果が子供と子供の「関係性」の向上を通じて学力を押し上げていることを示唆している。「学び合う集団作り」が、学力向上のための重要な基盤となっている可能性が高い。

##### 4.3. 学力下位層の引き上げ効果

特別活動への取り組みは、学力が高い層の子供をさらに伸ばすというより、**学力が低い層の子供たちを引き上げる**という特徴を持つ。これは、誰一人取り残さないという特別活動の理念が、学習面においても効果を発揮していることを示している。

#### 5. 連携実践における重要事項と課題

##### 5.1. 学級活動（内容(1)と(2)）の正確な理解

学級活動の目標や手法を正しく理解し、混同しないことが重要である。

- **学級活動(1)：**集団でなければ解決できない課題について「**合意形成**」を目指す活動。子供たちが司会等を行い、主体的に話し合いを進める。
- **学級活動(2)：**日常生活や学習への適応など、個人的な課題について「**意思決定**」を促す活動。一人一人の答えが異なってよく、基本的には教師が授業形式で指導する。

**注意点：**個人の努力で解決すべき生活課題（例：静かに給食を食べる）を(1)の学級会で扱うと、相互監視やペナルティの導入といった方向に進みがちになり、集団が個人を攻撃する構図を生む危険性がある。議題が「組織的に解決すべき問題」であるかどうかの見極めが不可欠である。

##### 5.2. リアリティと子供の主体性の確保

特に総合的な学習の時間との連携において、子供の「自分事」として活動を捉えさせることが極めて重要である。「先生がやらせたい活動」になってしまうと、学びは表層的なものに留まり、特別活動がもたらすはずの「リアリティ」や「迫力」が失われる。子供たちの自由度を確保し、「やってみよう」という思いを実現する場として学習を設計する必要がある。

##### 5.3. 指導案における連携の明示方法

教科の授業公開において特別活動との連携を示す際は、教科の指導案の形式を基本としつつ、その中に特別活動との関連を明確に示す項目を設けることが推奨される。例えば、「特別活動で身につけた力の活用」といった項目を立て、そこで図や文章を用いて、授業のどの部分で特別活動の成果が活かされているかを具体的に記述する方法が有効である。

## 2 本年度 研究の取り組み





# 学級活動のあゆみ



## 1年1組 学級活動

学級目標 『えがお』

### 【1学期】

#### 4・5月 きょうしつであそぼう たいいくかんであそぼう たもくてきしつであそぼう

1時間の学級会の中で、「教室」、「体育館」、「多目的室」といった場所で、何をしたらみんなが楽しめるか話し合い、決めたことをそれぞれの場所で行った。話し合いを繰り返し取り組む中で、司会グループの役割や話し合いの流れを理解していった。決めたことを実践する中でも、もっとこうしたら良いと思うことを出し合い、より良いものを考えながら取り組んだ。

#### 5月 かかりをきめよう

「1年1組がもっと楽しくなるようなかかりをつくりたい」という思いから、みんなで学級にあったら良いなと思う係を考えた。それぞれの発想で意見を出し合い、似ているものをまとめて、係をきめた。それぞれの係が準備や相談をして、楽しい活動を考え取り組んだ。

#### 7月 1ねん1くみ めいろたからさがししょうかい

「たのしい宝探しを考えて、みんなで楽しい時間をすごしたい」と思いから、「どんな宝をかくすか」を考えた。折り紙でつくったものをもらえたらうれしい、当たりはずれがあると残念に思う人がいるなど、みんなのことを考えた意見が多く出た。集会準備でも折り紙が苦手な児童に寄り添う姿も見られ、みんなで集会をつくりあげることができた。



### 【2学期】

#### 10月 あきまつりしょうかい

「運動会で使ったはっぴを着て、季節にぴったりの秋祭りをしたらみんなが笑顔になると思うから」という理由で秋祭り集会を行った。どんな屋台があったら楽しいかをみんなで話し合い、小グループに分かれて準備を行った。小グループの中で、どうしたら楽しい屋台が実現できるか考え、それぞれが責任をもって準備に取り組むことができた。みんなが楽しめる集会だったが、ルールがみんなで共有できず混乱してしまう場面があった。



#### 10月 1ねん1くみ わくわく アスレチックリレーしょうかい

前回の集会で、どんなに楽しいことでも、みんなが分かるものではないと楽しめないことを課題として共有した。そこで、みんながルールを分かって楽しめる障害物リレーをみんなで考え集会を行った。オリジナルの障害物を考えていく中で、実際にやってみたり、質問したりしながら、話し合いを行った。やってみたらできないことに気付いたり、もっとこうしたら良くなるといったことが明確にわかったり、話し合いの中でより良いものを考えることができた。集会では、ルールの確認をこちらが細かくすることがなくても、混乱することなくリレーに取り組むことができた。もっとやりたいという声も多く出て満足のいく集会となった。

#### 11月 1ねん1くみ 生きものパークをつくろう

前回の集会のふりかえりで、「わたしのアイデアが中々選ばれない。」という言葉をもとに、みんながアイデアがたくさん入った集会をしたいという願いをもとに、動物園や水族館のような「生き物パークをつくろう」という集会を行った。話し合いでは、たくさんのアイデアが出て面白い発想も多かった。しかし、意見がたくさん出たことで、意見がうまく伝わらなかったり、話し合いがまとまらなかったりという課題があった。細かなところは任された担当者が考えること、みんなに伝わる言い方になるように意見を伝えることが必要であることをみんなで確かめた。集会では、折り紙やタブレットで用意した生き物を「見るコーナー」、「クイズコーナー」、「遊ぶコーナー」など様々なブースをつくり、子どもたちの発想力を生かした集会となった。



## 2年1組 学級活動

学級目標 『人の気持ちをかんがえて なかよくできるクラス』

### 【1学期】

#### 4月 多目的室でできる遊びを考えよう

室内で、みんなでできる遊びを話し合った。20分話し合い、20分で集会をした。

#### 5月 楽しいクラスになる係を作ろう

「みんなが楽しめるクラス」にするために、係についてみんなで話し合いを行い、この係を作った。決まった後は、休み時間に発表するために係のメンバーと時間を見つけて練習をしたり、プレゼントを作ったりするなど意欲的に活動する姿が見られた。

#### 6月 苦手な人も楽しめるドッジボール集会

休み時間にドッジボールをする人が増えてきたので、クラスみんなで取り組んでみたいと意見が出た。ボールを投げるのが苦手な児童が複数名いたので、みんなが楽しめるドッジボールについて話し合いを行った。話し合いの中では、苦手な児童に「どのようにすれば怖くないか」と質問したり、ボールを投げる様子を実演したりすることで、児童の間でイメージを共有した。集会では、「みんなが楽しめる」をキーワードに話し合ったものの、途中で困ってしまう児童や参加しにくい児童がいたので、途中で集まり、その場で話し合いをした。ルールのもやもやなところが、「みんなが楽しめる」につながっていなかったことがわかった。次の集会に生かせる課題が多く見つかった集会になった。

### 【2学期】

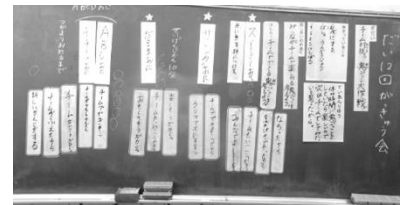
#### 10月 ウルトラス音読集会をしよう

1学期から取り組んでいる音読を、班のみんなで取り組みたいという思いから、音読集会が提案された。「どんな賞をつくるか」について考え、それぞれの班が目標をもって取り組むことができるよう話し合いをした。様々な賞が提案され、仲間分けをした後、ラベリングするのが非常に難しかった。当日は話し合いで決まった役割を果たそうと意欲的に動く姿が見られ、話し合いで決まっていなかったことも、その場で決めながらスムーズに集会を行うことができた。



#### 11月 チーム対抗！おにごっこ大作戦

休み時間におにごっこをしているととても楽しいので、次はチームでできるおにごっこがしたいという思いから、おにごっこ集会が提案された。チームでできるおにごっこを既成のものからオリジナルのものまで出し合い、「チームでできる」というところに焦点を当てて話し合いを行った。集会では、途中でルールがわからなくなった際にもう一度みんなで確認し、状況に合わせて司会が進めながら、時間も予定通り進めることができた。



#### 12月 じゃんけんパワーでみんな仲良し集会

クラスでもっと仲良くなるために、みんなが知っている遊びをしたいということで、じゃんけん集会が提案された。さらに、前回のおにごっこ集会をふりかえり、「チームで仲を深めるためには、チームの中で話し合いができたり、作戦を立てられたりできるものが良いのではないか」という話が出た。ふりかえりを生かすためにもう一度チームで取り組もうという話になった。話し合いの中では、オリジナルルールのじゃんけんが多かったせいか、ルールの確認が多く、実演しながらみんなでイメージの共有はできた。しかし「チームの仲を深める」というところに焦点を当てて話し合いを円滑に進めることができなかった。集会では、前回のおにごっこ集会よりもチームの中で話し合いをする時間が多くあった。しかし、準備不足なところがあり、始めるまでに時間がかかってしまったり、ルール説明が足りずその場で質問が出たりした。ふりかえりでは、今回はチームでの仲を深めることができたが、次回は事前準備をもう少し行えるようにしたいという意見が出た。



### 3年1組 学級活動

学級目標 『 安心つなげよう かがやく 3-1 』

3年生は、司会グループを中心に話し合いを進められるように計画委員会で十分に話し合うこと、より多くの人の意見が活かされるように合意形成することを大切にしてきた。集会を通してどのようなクラスの姿を目指すのかを話し合いと集会の前に確かめ、前回の課題を次の学級会で解決できるようにつながりを意識して議題を選定してきた。

#### 【1学期】

4月 **みんなが楽しくなるかかりをきめよう**

5月 **学級目標をきめよう**

担任が司会をして、クラスの課題とどんなクラスにしたいか出し合い、目指したい姿を共有した。みんなの願いが安心という言葉に集約されることで合意形成を図り、「安心つなげよう かがやく 3-1」に決まった。



6月 **わかるかな？みんなのひみつを知ろう！集会**

まだ友だちのことを知らないことがあるのもっと知りたいという願いから提案された。友だちのことを知るために神経衰弱や伝言ゲームをすることになり、どうすればもっとお互いのことが分かるかという観点で工夫を考えることができた。

7月 **楽しもう！1年生と3年生でなかよくなろう集会**

1年生の名前と好きな物、顔を早く覚えてなかよくなりたいという願いから提案された。ばくだんゲームとダンスをする際に、1年生のことをよく知ることができるように、工夫を考えることができた。



#### 【2学期】

9月 **1学期のかかりを見直してクラスが楽しくなる かかりを考えよう**

10月 **みんなで遊ぼう！ 楽しいドッチビー集会（ミニ集会）**

話し合いに時間がかかってしまうのが課題だったため、話し合いを時間内に終わらせ、集会をすぐに実施することを狙った。時間内に終わらせることができなかったため、決まっていないルールは、集会をしながらその都度話し合い、確認した。司会グループが抜け目や落ち度がなく確実に準備できていたので、みんなが楽しめる集会となった。

11月 **にこっと安心 きょだいすごろく集会**

巨大すごろくをやってみたいという児童の願いと学級の課題としていた「話を聞く」力を高めたいという願いから選定された。話を聞くことで楽しめるようにマスを工夫して考えていたが、集会をしてみると、待ち時間しゃべってしまい、お互いの話を聞けず、進行できない場面があった。人を大事にする聞き方に課題があることが明確になった。

12月 **いへんをさがせ！わくわく8番教室集会**

「8番出口」というゲームをみんなでやってみたいという願いから選定された。前回の集会では待ち時間が長く、友だちの話を聞くことがあまりできなかったという課題があった。班ごとに順番に間違いを探すので、前回の課題を解決するために「待つ間も楽しめるやり方」を柱に話し合った。前回より工夫して、他の学級に迷惑をかけないように意義のある待ち方を考えられたことに価値があった。待ち時間がなく、もっとみんなが同時に楽しめるような集会をしたいという次に考えるべき課題が見えてきた。



#### 4年1組 学級活動

学級目標 『 むずかしいことも くじけない心をもって みんなで取り組み みんなでのびる。  
ひとりひとりの思いをうけとめながら 話し合いで解決する。 』

#### 【1学期】

##### 4・5月 係を決めよう 学級目標を決めよう

毎日の学校生活をより楽しいものにするために、どのような係があればよいかを考えて話し合った。希望者がひとりになった係もあったが、取り組みたいという思いを尊重した。1学期は、特に「豆知識係」「漫画係」が頻繁に発信し、内容や発信の仕方にも工夫が見られた。

児童たちが1年間で目指す姿を考える中で、時間を少しかけながら学級目標について考えた。たくさん意見が出たので、長くなったが、児童一人一人の考えや言葉を大事にしながら文章化した。

##### 6・7月 思いやりのあるデザイン博覧会

1学期の最後に、学級で集会をしたいという提案を受けて、今までとは異なる少し発展性があるもの考えることになった。丁度、万博がニュースで取り上げられる時期だったので、集会から「博覧会」という名前に、お店ではなく「パビリオン」という言葉を使う案が出た。国語科で「思いやりのデザイン」の学習を終えた時だったので、受け取る側としての願いも話し合いに取り入れるようになった。希望する「パビリオン」とメンバーの名前を教室の後ろの黒板に示し、それぞれの準備の進捗状況を各パビリオンで表示していた。すると、どのパビリオンも、計画的に準備を進めるようになっていった。それぞれのパビリオンの内容は、本当によく工夫されているので感心したのだが、全体を回ると時間が予想以上にかかってしまい、時間設定が2学期の課題となった。

#### 【2学期】

##### 9・10月 行事を成功させよう 班づくり

2学期は、運動会と音楽会という大きな行事が続いた。それぞれ、自主練習が大事になるが、みんなで互いに声を掛け合って練習を進めていくために、どうすれば良いかを話し合った。どちらの行事でも、進んでリーダー的な役割をして、練習しようという声掛けをする児童がいるだけでなく、受け取る側も即練習を始め、意欲的な姿がたくさん見られた。

また、班づくりも班長会議で話し合い、めあてをもってメンバーを構成していった。生活面だけでなく学習面でも、班の中で互いに協力できるようになった。2学期の終わりまでには、どの児童も班長を経験している。



##### 11・12月 仲良くなってくださいね集会

2学期の学級会の話し合いの議題を考えたとき、1番多かったのが他学年との集会で、特に6年生との集会という意見が圧倒的に多かった。初めは、いつも委員会活動などで自分たちを引っ張ってくれているので、ありがとうを伝えることをめあてとしていたが、講師に教えていただき、まずはもっと仲良くなる集会にすることにした。話し合いの結果、ペアになったりチームになったりする中で、待ち時間や作戦でたくさん話をする機会が生まれるのではということで、ミニ運動会をすることになった。運動が苦手な人も楽しめるようにと、内容とルールを考えた。「ぐるぐる人間じゃんけん」「室内半周リレー」「キンボール運び」の3つのゲームに決定した。ルール内容を、それぞれのゲームの担当に任せ、集会の司会進行は、学級会係と希望した児童に任せることにした。1学期の課題の時間設定がやはり難しく、シミュレーションを行うことで、改善していった。当日の集会では、6年生の協力のもとで、とても楽しい集会にすることができた。児童たちは、達成感を得ることができて大満足だった。



## 5年1組 学級活動

学級目標『めりはりをつけて みんなでHAPPY』

### 【1学期】

#### 4月 5年生になって～なりたい自分になるために～：学活(3)

どんな5年生になりたいかを考えるにあたり、学校目標・担任の願いを知り、またどんな学級にしたいか、どんな6年生になりたいかを併せて考えることで、目指す自分の姿を思い描けるようにした。目指す自分の姿に近づいているか、毎学期ごとにふり返りをしながら、年間通して自分を見つめ直す時間を設定している。

#### 4月 学級がより楽しめる係を決めよう(1)

「協力して係の活動をすると、みんなが楽しくなり仲よくなっていくから」という思いで話し合った。これまで取り組んできた係活動以外にも、学級全体で楽しめるもの、互いのことが分かるものなどを出し合い、決めることができた。学期末には自分たちの活動をふり返り、さらに工夫できることを考えるようにしている。

#### 5月 5年1組HAPPY集会をしよう：学活(1)

提案理由「遊ぶとき、いつも同じ人だから、いろいろな人と楽しく交流して仲良くしたい」という思いから選定された議題である。いろいろな人と交流するために『何をどのようにするか』という柱で話し合った。細かなルールまで決めなければ、全員が楽しめる集会にならないことに気づいた。



#### 5月 自主学習どうしてる～学ぶことが将来につながるために～：学活(3)

自主学習は何のために取り組んでいるのか話合いながら、その意味について考えた。ファールルの生き方を題材にしたことで、将来の夢やなりたい自分に近づくために改めて取り組みたいことを考えることができた。そうすることで、自主学習の内容がそれまでと変わってきた。学習内容を交流することで、そこからも学び合うことができた。

#### 6月 みんなのことを知ろう集会：学活(1)

提案理由「みんなのことをくわしく知らないから、友だちにインタビューしてみんなのことがもっと分かるクイズを作って交流したい。」という思いから選定された議題である。答えが分かった時には歓声が上がり、友だちの新しい一面が発見できた集会になった。集会後は友だちのことを紹介した言葉を掲示し、さらに楽しむことができた。



### 【2学期】

#### 9月 自然学校の思いで残そう集会：学活(1)

提案理由「自然学校のことをテーマにしたNGワードゲームをすることで、リーダーさんや友だちとたくさん話して思い出を作りたい」という思いから選定された議題として、自然学校の最終日に行った集会である。プログラムの最後にこの集会を設定したことで、現地で思い出を話し合うことにより良い締めくくりとなった。互いが自然学校をどのような思いで過ごしていたのか、共有する時間にもなった。



#### 10月 みんなで盛り上がろう ダンスパーティー集会：学活(1)

学級の中には、恥ずかしくて踊ることに不安を感じている友だちが多くいることを学級の課題として捉えているところから、提案理由「クラスのみんなが全力で踊れるようになりたいから、6年生の力を借りて大きな振り付けで楽しみたい。そして運動会に活かしたい。」で選定された議題である。いつも元気に踊っている6年生に憧れを持っていることもあり、6年生と合同で学級会をした。



6年生とグループを組み、一緒になって楽しんで踊る姿が見られ、運動会での演技に対して自信を持つことができた。

#### 11月 音楽でも盛り上がろう ライブ集会：学活(1)

10月に引き続き、学校行事を見据えた取り組みである。提案理由を「大きな声で歌えない人もいるから、楽しく元気に歌える集会をして、音楽会に活かしたい。そして聞いている人に感動してもらえる音楽会にしたい。」とし、話し合った。ライブ感を出すように工夫したことで、みんなが知っている歌を楽しんで歌う姿が見られた。

#### 12月 生活を見つめ直そう～学級目標を達成するために～：学活(2)

5月に決めた学級目標を確認し、学級としてどの程度達成できているのか、ふり返った。そこから見えてきた課題について、自分はどんな方法で取り組むのかを考え自己決定した。1週間取り組んでふり返った時に、自分で取り組むことを設定したにも関わらず、充分取り組めていなかった反省が多く見られたため、取り組む期間を延長すべきではないかという声があがった。2週間後のふり返りでは、今後も引き続き取り組んでいきたいと思う児童が多数いた。

本学級では、学級目標『TKG(楽しく・協力・元気)』を学級経営の中核に据え、学級活動(1)における話し合い活動の充実を目指して実践を行ってきた。「楽しく」は、安心して意見を出し合える雰囲気づくり、「協力」は、友だちの意見を受け止め、つなげながらよりよい考えを創り出す姿、「元気」は、自分たちで決めたことを主体的に実行し、学級をよりよくしようとする前向きな行動として捉えている。昨年度より本校の研究テーマが「選択型」から「創造型」へと移行したことを受け、「どのような話し合いを目指すのか」という点を明確にしながら取り組んできた。

「創造型」の話し合いを実現するため、2 つの視点を大切にした。1 つ目は「出し合う」である。従来のように教師が話し合いの柱を示すのではなく、集会や活動を行うために「何を決める必要があるのか」を児童自身が出し合い、そこから話し合いの柱を設定するようにした。来年度から中学生となることを見据え、教師の助言に依存せず、見通しをもって話し合いを進める力の育成を意識している。

2 つ目は「深める」である。柱決定後の話し合いを、単なる意見の比較・選択に終わらせず、意見をつなげながら考えを発展させていく段階と位置付けた。学級会ノートにはあらかじめ自分の意見を書かず、話し合いの中で考えをつくっていく形を取り入れ、「マジカルバナナ式」と名付けた方法を用いた。前の発言を受けて「○○と言えば…」とつなげながら発言することで、話し合いを連続的に深めていくことを全体で共有している。話し合いの流れについていくことが難しい児童に対しては、司会やフロアによる交通整理やヘルプを行いながらも、意見を流さず受け止め合う話し合いを大切にしている。

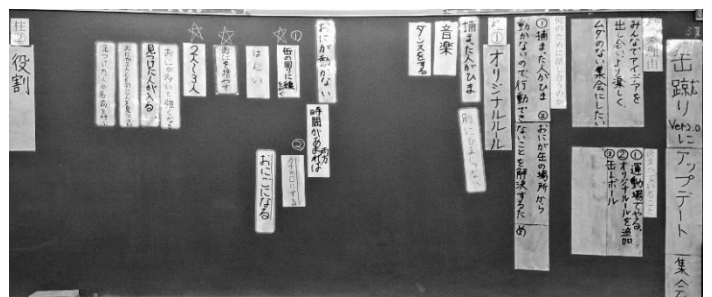
1 学期は、議題「マスコットキャラ」「動物王国」に取り組んだ。これらの議題は、学級全体でイメージを共有しやすく、誰もが意見を出しやすい内容である。まずは話し合いに参加すること自体の楽しさを感じながら、自分の考えを言葉にする経験を重ねた。また、「集会を行うために何を決める必要があるのか」を出し合うことで、話し合いの柱を自分たちで設定する力を育ててきた。友だちの意見を聞き、「それなら」「それに付け加えて」と反応する姿が少しずつ増え、話し合いを学級全体で進めていく感覚が育まれていった。

2 学期は、1 学期に培った力を基盤として、より課題意識をもった議題「光明メリハリ研究所」「缶蹴り ver2.0」に取り組んだ。「光明メリハリ研究所」では、学校生活の中にある課題を自分事として捉え、改善策を話し合いによって創り出すことを目指した。単なる意見の列挙ではなく、「なぜそう思うのか」「それをすると何がよくなるのか」といった視点で意見をつなげ、実行可能な取組へと具体化する力が高まった。

「缶蹴り ver2.0 アップデート集会」では、通常のルールで活動を行った上で課題を出し合い、「捕まった人がひまになる」「鬼の動きが少ない」といった問題点を共有した。これらを踏まえ、話し合いの柱を「オリジナルルール」と設定し、音楽を流す、ダンスの動きを取り入れる、別の動きを加えるなどの意見を「マジカルバナナ式」でつなげながら話し合いを深めていった。その結果、全員が活動に参加し続けられる工夫が生まれ、運動場で実施する内容について合意形成を図ることができた。

話し合いを重ねる中で、「どの意見を起点に深めていくかを選んだ方が、新しい発想が生まれるのではないか」という児童の声が上がった。そこで、複数の意見を一度並べ、その中から深めたい意見を選択する形へと改善した。このように、話し合いの進め方そのものを見直し、よりよい話し合いを創り出そうとする姿が、自治的な学級活動として育ってきている。

議題を通して話し合いを積み重ねることで、児童同士の発言がつながる割合が高まり、「せっかく言ったのに取り上げられない」という経験が減ってきた。一人一人の意見を大切にしながら、考えを広げ、具体化し、よりよい考えへと学級全体でつないでいく姿が見られるようになっている。今後も、全員が参画し、合意形成を図る話し合いを大切にしながら、自治的な学級会の実現を目指していきたい。



## 【1 学期】

### 4・5 月 ようこそふたばへの会

今年度は 1、2、5、6 年生の新しい仲間が増え、ふたば学級はみんなで 21 人となった。「ふたば学級のことを紹介したい」「新しく仲間入りした友達と仲良くなりたい」という思いからこの議題が生まれた。みんなで楽しむことができるように、2 年生以上の学年で話し合い、「王様ドッジ」と「こおりおに」の 2 つのゲームをすることにした。低学年の友達がボールに触りやすくなる工夫を考えたり、走るのが苦手な友達がこおりおにを楽しむことができる工夫を考えたり、自分が楽しいだけではなく、みんなが楽しい時間を過ごすためにはどんなルールがよいのかについて、話し合ってきた。

この集会をするのがみんな待ち遠しく、わくわくしながら当日は体育館に集合した。高学年の児童は司会やルール説明をわかりやすく進めることができ、低学年の児童はゲームを楽しみながら集中して話を聞く様子も伺えた。最後に高学年の児童から「低学年の友達が楽しんできてうれしかった。」というふり返りもあった。

### 6・7 月 ふたば The リレー集会

前回の集会で仲良くなることができたが、「もっとみんなと仲を深めたい」「友だちと協力したい」という思いから、リレー集会をすることになった。ただリレーをするだけではなく、チームで協力してゴールを目指すことで、みんなの仲を深められると考えた。

一人の意見からみんなの意見へと広がり、チーム分けも高学年を中心に話し合っただけで決めることができた。集会は 2 回に分け、運動場と体育館で行ったが、とても盛り上がり、勝っても負けても楽しむことができた。

## 【2 学期】

### 9 月～ おうちの人に感謝の気持ちを伝えよう

毎日お世話になっているおうちの人に感謝の気持ちを伝えたいという思いから、自分たちに何ができるのか、何をすれば感謝の気持ちが伝わるのか話し合った。「プレゼントを作りたい。」「料理を作って食べさせてあげたい。」「手紙を書きたい。」といった意見が出た。その中から、ピザを作っておもてなしをすることに決まった。

おうちの人を案内するにはどうすればよいのか、お店屋さんになりきってロールプレイをしてみんなに見せてくれた児童もいた。実演することで言葉

ではイメージしにくいことも相手に伝わりやすいことに気づくことができた。一人では意見を出しにくい児童も異学年で関わることで、意見が出しやすくなっている。高学年が低学年に優しく寄り添う姿がふたば学級では自然と見られる。高学年の姿を見てあこがれ、司会の進め方、意見のまとめ方を低学年は学んでいる。この力が交流学級でも生かされることを願っている。



# 校内研究会

## 学習指導案

1 年 1 組      2 年 1 組  
3 年 1 組      4 年 1 組  
5 年 1 組    6 年 1 組    ふたば



- 1 議題 みんなのことを知ろう集会をしよう  
(ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決)

2 議題選定の理由

○ 本学級の児童は、高学年になった喜びを感じ、素直な気持ちで学校生活を送っている。しかし中には、集団生活に不安を感じて教室に入りづらい児童、友だち関係が築きにくい児童、自分の意思が表せない児童、学習面で支援が必要な児童など、様々な課題を持っている側面もある。そこで始業式から「だれもが安心して過ごせる学級」を目指し、誰一人取り残さないという仲間意識を持つことができるよう、日々の学習活動に取り組んできた。学級目標を決める時にも全員の思いを出し合い、『めりはりをつけて、みんながHAPPY!』と決めた。このHAPPYという言葉には「優しい声かけ」「協力」「安心」「笑顔」と全員の願いが込められている。この目標に向かって、学級全体で進もうとしているところである。

○ 本議題は、「4年間共に過ごしてきた仲間であるが、まだまだ知らないことがある。」「日々の関わりに偏りが見られる。」という課題を見据え、お互いのことをもっと知ることによってみんなが安心して教室にすることができるようにしたいという願いで選定されたものである。これまで知らなかった友だちの新たな一面を発見することで、これまでの関係がさらに深いものになると期待している。また班で問題を作ることで、お互いのことをもっと知ることができ、相談しながら問題に答えるという協働して解決する経験は、より良い人間関係形成につながる議題であると捉えている。

○ 話し合い活動では、限られた時間で全員のすることについて知り合うために、どのように問題を出して答えるのかについて考える。「この方法で友だちの新たな一面が伝わるのか」「この方法で班で準備したものが十分に活かされるのか」を観点に、話し合いを進めるよう計画を立てさせておきたい。また自分の考えを分かりやすく伝えること、友だちの発言を想像しながら聞くことが具体的な話し合いを生み、合意形成に結び付くということも確認しておきたい。一方、司会は出来るだけ多くの意見でまとめていくことを目標に掲げている。そのためにも全員が話し合いの内容を理解しているかを確認しながら進行すること、分からないことは質問して理解できるようにすることがフロアに伝えられるよう支援したい。ふり返りの時間には、集会に向けてのめあても書くことで、前回の集会活動での課題を改善することも意識させたい。そうして実践を重ねる度に、自分たちが成長していることが実感できるようにしたい。

3. 目指す子どもの姿

- ・学級にとってより良いものを考え、全員で話し合って決めようとする姿。
- ・友だちの考えを本気で聞き、少数意見も大事にしながら話し合いを進めようとする姿。

4. 評価規準

より良い生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を より良くしようとする態度
「問題の出し方と答え方」について具体的に話し合い、整理しながら決めていくことを理解している。	一人一人の新たな一面が出るような活動になるように考え、合意形成を図り、実践している。	友だちの新たな一面を発見することを楽しみにしながら、実践活動に向けて協働して取り組もうとしている。

5 事前の活動

日時	児童の活動(☆全員 ★計画委員会)	指導上の留意点・支援
5月19日 休み時間	★議題を選定し、提案者の思いを聞く。 話し合いの日時を決定する。	学級目標につながる話し合いになることを観点に議題選定する。
5月22日 朝の会	☆自分の考えを学級会ノートに書き、司会グループに提出する。	提案理由にそった観点を共有した上で活動の具体的なイメージや細案を書くよう助言する。
5月28日 休み時間	★論点を設定し、観点に沿った話し合いができるように計画する。	出される意見を予想して話し合いの進め方を計画し、司会グループの全員がイメージを持っておくようにする。

## 6 児童の活動計画（別紙）

## 7 本時のねらい

○友だちの新たな一面が発見できる方法を具体的に想像して話合うことができる。

## 8 教師の指導計画

話合いの順序	指導上の留意点・支援	目指す児童の姿 【評価の観点】（評価方法）
話合いのめあてを確認する。 決まっていることを確認する。		
話合いをする 柱1 問題の出し方と答え方  <b>比べる</b> 【問題の出し方と答え方】 ・問題の内容（人を当てる・その人の特徴を当てる） ・問題の提示の仕方（書いて見せる・問題を読む） ・出し方（1人ずつ・4人一斉に・全員分を机に置く） ・答えが分からなかった場合は ・答え方（各自で・班で相談して）  <b>まとめる</b> 司会がまとめる。  決まったことの確認	<b>比べる</b> ・問題の出し方を整理しながら板書するよう計画しておく。 ・時間配分も併せて考えるようにする。 ・問題の出し方と答え方を具体的に伝えているか確認するよう助言する。 ・みんなが楽しく活動できるための工夫についても考えるようにする。  <b>まとめる</b> ・司会のまとめに対して合意できないことがないかフロアに確認し、全員の意思表示を待ち、合意形成をする。  どのようにして決まったかをまとめて発言するよう助言する。	<b>【主】</b> 具体的に想像できない意見に対しては、聞き返して確認している。（司会）  <b>【思・判・表】</b> 出し合った意見について、観点到に沿って話し合っている。（フロア発表）  <b>【知・技】</b> 話し合ったことが活かされるような結論を提案している。（司会） 補足や訂正等の意思表示している。（フロア発表）
教師の話聞く	学級全体のことを視野に入れ、具体的に理由付けした発言について価値づける。 多くの意見を引き出し、整理しながら話合いを進行した司会グループを称賛する。	
話合いを振り返る ①司会グループ ②フロア	学級にとってより良いもの考えたか、多くの意見で合意形成につなげることができたかについて振り返るよう助言する。集会に向けての思いを引き出す。	<b>【主】</b> 自分または学級が考えた過程をふり返ろうとしている。集会に向けて考えようとしている。（ノート・発表）

## 9 事後の活動

日時	児童の活動	指導上の留意点・支援	目指す児童の姿 【評価の観点】（評価方法）
6月6日（金） きらきらタイム	集会準備 ・友だちにインタビューをし、問題を考える。	提案理由に沿った問題になるよう、確認をする。	<b>【思考・判断・表現】</b> 友だちの知らない一面を引き出す質問をし、問題を考えている。
6月10日（火） 6校時	集会活動	友だちの知らない一面を発見したことに対して、価値づける。	<b>【主体的に取り組む態度】</b> 集会のめあてを確認し、協働して良い集会にしようとしている。



## 1. 各学級の公開授業者のふり返し

### (1 年生)

係をきめようについて話し合った。遊び以外の話を決めるのは初めてだった。実演しながら話をしていた。ダンスが嫌い、見るのも嫌な子に対して「無理に全員見なくてもいい。」と発言できていた。一生懸命伝えるのをがんばっていた。

### (2 年生)

どのように意見を集約すれば良いのか難しかった。迷いながら進めてしまった。話し合いの中で足りなかったことを子どもたちがふり返ることができた。次の学級会に生かせるようにしたい。

### (3 年生)

自分の秘密をどうやって知ってもらうのか話し合った。イメージの共有で終わった。実演を促すとがんばっていた。伝言ゲームのジェスチャーをどうやってするのかの話になっていたので、方法の話にできれば良かった。

### (4 年生)

「万博をしよう」ではあるが、万国博覧会ではない。相手の願いを聞いてデザインしていくというのを目標にしていく。こんなパビリオンを作ってほしいという逆の発想から進めていく。イメージが具体化して話し合いができた。子どもたちにゆったりと任せていきたい。

### (6 年生)

マジカルバナナのように意見をつなげていきたいと話している。価値のある話し合いをしていきたい。

### (ふたば)

いつも通りの自由な雰囲気の中で話し合いができた。司会がみんなの思いを聞こうとがんばっていた。寄り添って聞く場面が見られたのが良かった。

## 2. 授業者から

子どもたちの課題・・・不登校傾向。朝からそろわない。

自分の考えが正しいと思って意見がぶつかり合う。声が大きい子に流される。被害的に感じて自分の意見を言えない。みんなで話し合いができるように、みんなが意見を言えるように、をスタートに。

子どもたちのイメージが広がりすぎて、話し合いができない。一つ一つ押さえていく。計画委員でどんな順番にするのか話し合っておく。

今までは、ルールが細かいところまで決まっておらずうまくいかなかった。どのようにすると楽しめるのかルール作りに重きを置くことにした。子どもたちは自分たちの話し合いに対して良い評価をしている。今までと比べて他の人も決めるようになってきた。みんなが気持ちよく活動できている。進め方は良かったのか考えていきたい。

## 3. 討議

### (グループ A)

- ・柱が良かった。細かく 4 つに分けて分かりやすかった。子どもたちの実態に即していた。
- ・①の話で具体物を見せていたのが良かった。イメージできた。



・③の話の際に具体的なイメージができていなかった。実演できると具体的なイメージができ、話合いがスムーズにできたのではないかな。

#### (グループ B)

- ・周りを責めない話合いができていた。
- ・柱の考え方、配慮が必要な子たち、4つの柱で良かった。細かいため矛盾することもあるが、柱が決まっていたので、膨らみにくかった。
- ・学年の特徴もあるので、担任に任せたい。
- ・③の話が重くなってしまった。停滞してしまった。

#### (グループ C)

- ・イメージの共有が丁寧。共有できていないと話合いができない。良い手立てだった。
- ・柱をどうやって立てていくのかが課題。提案者の気持ちを大切にしていこう。
- ・教師側のねらいをしっかりと持って議題の柱を立てていくことが大事。落としどころが難しい、決めづらい時にどうするのか。提案者から再度思いを聴き、提案理由について深めていくのも大事である。

#### (グループ D)

- ・学級の実態の見立て、子どもへの対応が丁寧。ルールを決めていくことが大事。丁寧にされている。
- ・問題の内容に縛りができてしまう。問題の出し方にしぼって良かった。
- ・国語で友だちにインタビューするのが思い出に残っている、そのことが今回の議題につながっている。
- ・話合うことをどう見つけていくか。論点がずれてしまう。「みんなにとって」この形が良いのでは、と考えればずれていけないと思うが、難しい。自分の思いが出てしまう。

### 4. 常木先生より

- ・12年前はただ先生の話聞いている学級会だった。先生も子どもたちも学習している。
- ・1年生が楽しく話をしている。話をしたことを実践している。楽しいと思える時間だと思えていることが良かった。
- ・2年生はしっかりと話をするのは難しい。まとめようとする姿が良かった。子どもたちと作っていく学級会が良い。
- ・3年生は慣れてきている。何を話し合えば良いのかを考えていく。提案者の意見をみんなで考えていく。計画委員会の必要性。
- ・4年生は光明っぽくなってきた。どんどん子どもにまかせていく。
- ・5年生は柱「問題の出し方」①小柱②小柱…一つずつ解決して全員で納得する。今の実態、学級の実態によって授業の進め方も変わる。
- ・6年生は今までと変わりなく話合いができています。サバイバル集会、サバイバルという言葉については考えてほしい。
- ・提案理由を中心に。何をしたいのかどうやってみんなに伝えるのか。楽しい、うれしいだけではなく違う言葉を提案理由に入れていく。
- ・提案理由の中から柱を決めていく。計画委員で柱立てするが、低学年はみんなでも良い。柱立てをみんなで行い、共通理解していく。学年、学級の実態で変わっていく。話合うことを見つけるのもみんなです。
- ・意見と意見がつながる話合いへ。何を話し合っているのか、意見をつなげるのにはどうすれば良いのか。意見のまとめとしてふり返ったときに「良かった」「これが課題だ」がわかれば良い。

## 5. 長期研修生、杉田先生より

(長期研修生から)

分からないと言えるのは当たり前ではない。周囲の子が気づいて司会の子に伝える。他の学校にはない。分からないと進まない。6年生は論点が違ってくると、司会に戻してと言っている。子どもから出てくる。5年生は社会参画が低い。建設的な意見が少ない。ブラッシュアップされているので建設的な意見は出しにくい。教師の発言、要求、子どもに任せている。臨機応変に対応できる場面が増えると良い。

つながり率が高い。選ぶ学級会になったのでつながりは高い。みんなにとって決めていく。嫌な子はいないかなと尋ねる、話すのは恥ずかしい子がいると思うから、覚えられない子もいるから、慮る姿勢がある。提案理由は、みんなのことを知らない、だからどうすればいいの？と具体的であった。温かい学級会であった。

(杉田先生より)

- ・さらに積み上げる研究課題を見定める。
- ・積み上がっている。上級生の姿を見ている。共有できることの範囲を広げていく。人権、特支でも重要。
- ・話し合いの巧みさ、黒板がきれいというと上手な学校があるが、光明は子どもの姿に感激する。
- ・今後やることはないのか、まだある。美座小と一緒にやることで相互作用がある。
- ・2年生は子どもが分かっている。子どもから学ぶ。
- ・3年生は光明の特長である、スルーしない、誰一人取り残されないことを実践しているが、時間がかかる。人の言っていることに耳を傾ける→いい大人になる。  
最後まで聞いて、と子どもが言う。女子に多い。授業中も言っている。まわりくどいことも最後まで聞ける。先生が中心だと置いていってしまう。
- ・4年生は先生が後ろにいるのに出てしまう。子どものつまずきが分かってしまう。教師が出ないようにする。それをしないと子どもが育たない。ほめるポイント、良いことをほめてあんな子になりたいと思う。ほめられたいと思わせられるか。学習も心も伸びる。こんな人にしたいというのを徹底的に願う。
- ・ふたばの児童が代表委員会に出ている。代表委員は毎回同じでなくて良い。クラスのリーダーを格付けする。
- ・支援級で学級会をする。本来はできないと思う。子どもも半分は聞いていない。全然違うことをしている。
- ・6年の児童の寛容性と粘り強さはすごい。次元の違う話をしても続けていく。集中しないことも許されている。
- ・2年生は体育館でドッジボールをしていた。とれる子と投げる子は同じ。ふり返りで次につなげている。もう1回ドッジボールをする。クラスづくりにつながる。
- ・積み上げる、重ねるという考え→4年生 ずっといるとパターン化してしまう。
- ・1年生から代表委員会に出ている。全児童において児童会活動をする。主として高学年が運営に当たる。他の学校では代表委員会は5, 6年。代表委員会=集会委員会となっている。
- ・転入生がきたら、その子のために係活動をする。人に役立つ喜びを感じることが重要。困っている人のために動く。人を助ける心が大人になっても生かされる。世界平和、地球の未来、人づくりウェル

ビーングにつながる。

- ・細かく話合いをする。論点整理。つながり率は高い。
- ・2つから選ぶ話合い。AorBで選ぶ。1年生にプレゼントを渡そう。個人か学級か。学級に渡すのか。それ以外のことは出てこない。
- ・弱点を比べる。練りあがっていくというメリットはある。道徳的になってしまう。一つの方法ではない、それぞれのデメリット、メリットを挙げていく。効率は提案理由にない、人間関係で決まってしまう。「論点しっかりしてないよね」「いいことに気付いたね」
- ・拡散する→アイデアは良いがやるが増える。量を増やさずに質を高める。より具体的に。新しい考えとは何か、教師側も子ども側も知っておく。
- ・メモをとる→実用化するには。
- ・ふり返りの時に自分のことをふり返ることができる。自分の力で世界を変えるという数値は低い。良かったことをふり返りにする。自分に対する価値づけ。がんばった姿をふりかえる。
- ・議題にストーリー化。自分がこうやったから変えられた。集団の形成、自尊感情が低い。わがままと自惚れとの紙一重である。日本の自尊感情は低いと認められている。だれかがやってくれる。自分の自信を持って核心に。

これからの課題は…

- ・公平に聞く。人を差別区別しない。
- ・新しい考えを身につける。つながりから合意へ。思考が深まる、練りあがる話合い。
- ・「まとめる」で合体へ持って行ってしまうと新しい考えにならない。
- ・条件付き賛成、同じものに条件を付ける。困っていることを解決していく。反対と言わない。
- ・工夫を決めていく。たし算ができる。比べられないものを比べてしまう。

## 6. まとめ

- ・12年目を迎えてもやることはたくさんある。整理できた。
- ・アンケートの数値が低い部分への手がかりもわかった。タブレットの活用も考えていきたい。

第4学年1組 学級活動(1) 指導案

2025年10月30日(木) 5校時

児童数 27名

指導者 富岡 淑佳

1. 議題 友だちになってくださいね集会 ～ 6年生と交流しよう ～  
(ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決)

2. 議題選定の理由

○ 本学級の児童は、互いにそれぞれの個性を理解しているので、集団から外れる行為をしている友だちがいると、誰かが必ず声を掛けることができている。また、どんなときも、のびのびと自分の思いを伝えることができる児童もいる。しかし、4月当初は、伝えられる児童が限られており、大半の児童は、自分から声を出すことが少なかった。そこで、学級目標を「むずかしいことにも くじけない心をもって みんなで取り組み みんなでのびる。ひとりひとりの思いをうけとめながら 話し合いで解決する。」と決め、この目標を意識させる機会を設けるようにしていった。2学期になってからは、授業で、集会で、自分の考えや感想を進んで言おうと意欲を見せる児童が増えてきている。

○ 本議題は、「集会や初めての委員会活動・クラブ活動で、いつも私たちが引っ張ってくれている6年生にお礼を伝えたい。」「そのために、まずもっと仲良くなっていきたい。」という願いのもとで設定されたものである。1学期の集会「思いやりのデザイン博覧会」では、「自分がやりたい」という思いだけでなく、「受け手の思い」を大事にしながら工夫するということ、「自分の頑張りを実感し、友だちの良さをを知る」ことができた。しかし、時間配分が上手くできなかったため、準備の時間や当日の集会を延長せざるを得なくなってしまったという課題が残った。今回は、前回の集会のふり返りを想起させて、「6年生に楽しんでもらえるように工夫する。」ことと、6年生にとっても貴重な1時間なので「しっかりと時間配分を考える。」ことを念頭に置くことから始める。集会をその場限りの満足で終わらせるのではなく、回を追うごとに力が積み上げられていると自分たちで実感できる議題になると考える。

○ 話し合い活動では、時間配分を考慮したうえで、6年生に楽しんでもらえる集会の内容について考える。今まで、意欲的に発言する児童の勢いに押され、話し合いの観点がずれていくことが、しばしばあった。また理由が明確でまとまりのある良い発言があっても、その発言をした児童が、後の友だちの発言に傾いてしまうということも少なくなかった。そこで、司会グループは、観点が明確になるような話し合いの進め方、比較する内容が分かりやすい板書をめあてにして準備しておく。また、フロアは、話し合い活動における具体的なめあてを一人一人がもっておく。ふり返りの時間で、自分の良さや友だちの良さを具体的に考えられる話し合い活動にしていきたい。

3. 目指す子どもの姿

- ・ みんなで考えを練りあげていく中で、より良い集会の形を学級全体が理解している姿。
- ・ 友だちの考えに共感したり、相違点について向き合ったりしながら、話し合いを進めようとする姿。

4. 評価規準

より良い生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を より良くしようとする態度
「6年生に楽しんでも仲良くしてもらえる内容」について、イメージを具体的にもって考えを出し合い、比較し整理しながら決めていくことを理解している。	見通しをもって計画的に話し合いを進め、自他の意見や状況を尊重し合いながら合意形成を図っている。	学級の一員という自覚をもち、提案理由に即して進んで自分の考えを伝えたり、友だちの考えを吟味したりして、話し合い活動に取り組もうとしている。

5. 事前の活動

日時	児童の活動(☆全員 ★計画委員会)	指導上の留意点・支援
10月22日 学級会	☆1学期の集会のふり返りを想起し、良かったところや課題を共通理解する。 ☆集会の内容について、自分の考えを学級会ノートに書いて提出する。	・ ふり返りの作文を読み返し、話し合い活動で続けていく良いところ、問題点を整理する。 ・ 自分の考えを、理由を明確にして学級会ノートに書くように助言する。
10月27日 休み時間	★提出されたみんなの考えを読み、内容ごとに分類する。	大きくグループに分け、内容を集約するように支援する。
10月28日 休み時間	★論点を設定し、観点に沿った話し合いができるように計画する。	話し合いの進め方や整理の仕方を計画し、司会グループの全員がイメージを持っておくように助言する。

6. 児童の活動計画（別紙）

7. 本時のねらい

○1 学期の集会のふり返りを活かし、6年生に楽しんでもらいながら仲良くなることができる内容を考えようとしている。

8. 教師の指導計画

話合いの順序	指導上の留意点・支援	目指す児童の姿 【評価の観点】（評価方法）
話合いのめあてを確認する。 決まっていることを確認する。	話合いについて、一人一人のめあても確認する。	
話合いをする 柱1 集会の内容 （小柱①）「出し物やブース」「ゲーム」のどちらにするのか。 <b>比べる</b> ・出し物やブース 劇 紙芝居 スクラッチ 工作 絵を描く 自己紹介 など ・ゲーム ぐるぐるじゃんけん 鬼ごっこ ジェスチャー クイズ など <b>まとめる</b> 「出し物やブース」か「ゲーム」のどちらにするのか、司会がまとめる。 （小柱②）ゲームの内容を決める。	<b>比べる</b> ・事前に計画委員会が分類、整理した短冊を見ておくように、全員に伝えておく。 ・意見の良さと問題点が、分かりやすく黒板にまとめられているか、全員に確認するように、司会グループに声をかけをする。 <b>まとめる</b> ・司会のまとめに対して合意できないことがないかフロアに確認し、全員の意思表示を待ち、合意形成をする。  1時間の時間配分を考えること、次の学級会で準備が可能であることを、全員に確認する。  次の学級会での話し合いがスムーズに進められるように、司会グループから提案をする。  どのようにして決まったかをまとめて発言するように助言する。	<b>【主】</b> 話合いの観点が、全員に分かるように話合いを進めようとしている。（司会）  <b>【思・判・表】</b> それぞれの考えの良さ、問題点を受け止めて、自分の考えを深め広めている。（フロア発表）  <b>【知・技】</b> 話し合ったことが活かされるような結論を提案している。（司会）
柱2 役割		
決まったことの確認		
教師の話聞く	学級全体のことを視野に入れ、具体的に理由づけした発言について価値づける。意見を引き出し、整理しながら話合いを進行した司会グループを称賛する。	
話合いをふり返る ①司会グループ ②フロア	学級にとってより良いもの考えたか、多くの意見で合意形成につなげることができたかについてふり返るよう助言する。集会に向けての思いを引き出す。	<b>【主】</b> 自分や友だちの良さを見つけ、自分のめあてをふり返ろうとしている。（ノート）

9. 事後の活動

日時	児童の活動	指導上の留意点・支援	目指す児童の姿 【評価の観点】（評価方法）
11月5日（水） 朝学習	ゲームの内容・役割決定	誰もが楽しめるように、ルールを工夫することを確認しておく。	<b>【主体的に取り組む態度】</b> 合意形成したことをもとに、進んで計画を立てようとしている。（観察・計画内容）
11月26日（水） 5校時	集会のシミュレーション	各グループが、時間設定を意識した進进行を観点にして話し合う。	<b>【思考・判断・表現】</b> 集会の流れをイメージして、進行业や準備の仕方を練り直している。（観察・発言の様子）
12月22日（月） 6校時	集会活動	練り直したことを確認して集会に臨むようにする。	<b>【主体的に取り組む態度】</b> 6年生と積極的に関わり、誰もが楽しい集会を実践しようとしている。（観察）

## 1. 各学級の公開授業者のふり返し

### (1 年生)

議題は、障害物リレーをしよう。大切にしたいのは「みんながルールを守る」「安全」。  
実演して確かめながら進めた。比べるところで理由を言うのが難しかった。

### (2 年生)

議題は、ウルトラ音読集会をしよう。全員が理解するのが難しかった。決めていったことが難しかった。  
決める内容がぼんやりしていた。みんなが分かるように決めたかった。  
柱は「みんなで達成してできる賞」にしたが、仲間分けが難しかった。

### (3 年生)

議題は、巨大すごろく集会をしよう。マスの内容を考える。このすごろくをすることでクラスにどんなかなと考えさせた。話を聞いていないとできないマスを考えさせたかったが、どんなマスを設定した  
いかに固執して決められなかった。

### (5 年生)

議題は、ライブ集会をしよう。柱 1 だけでは決められないことに司会が気付き、柱 2 も併せて考えるべき  
だと発言できた。

### (6 年生)

クラスの課題から集会を創る。めりはりがつけられない課題を解決する集会を考えていく。メリハリピ  
ース集会。例えば、20m シャトルランをして合図で計算問題を解くなど。学級会ノートはあえて書かず、  
その場の発想で出し合う。

### (ふたば)

3, 4 年だけで話し合った。今回はおうちの人にありがとうを伝える行事でどんなことをするか話し合っ  
た。4 年生は司会で役割があるとしようとする。実際お店をする体験をしながら確かめていった。友だち  
への声かけや関わりを基本にしながら今後も取り組んでいきたい。

## 2. 授業者から

- ・学級会の難しさを感じている。議題を決めるところからむずかしい。
- ・今回の議題は、今年はまだ他学年との交流をしていない、そして高学年として一緒に活動することが多  
い 6 年生にお礼をしたいという思いから提案された。お礼を言う前に仲良くなることから始めること  
にした。「友だちになってくださいね集会」
- ・收拾つかないことが予想された。
- ・一人一人の意見を拾っていくことができなかった。教師の出番が迷った。口をはさんでしまった。
- ・本当は「いつもありがとう集会」をしたい。まだ知らない子もいるから、まずは仲良くなりたい。
- ・スクラッチは興味を引く自信がある。だから次回にしたい。劇の子たちも 2 回に期待している。
- ・名札を作っておきたい。自分の事を知っておいてほしい。共通理解しておいてほしい。

### 3. 討議

討議の柱「教師の入り方」について

- ・教師の介入のタイミングは、
  - ①子どもたち一人一人の思いを引き出すとき
  - ②点にこだわって細かい所に固執しているとき
- ・返していくところは提案理由やめあて
- ・ふり返りはめあてがはっきりしていた。
- ・形式的になりがちだが、気持ちのところが大切にしていた。話し合いが深まっていった。子どもたちの心ややる気に繋がる。
- ・話し合いをまとめるのが難しい。教師の介入のタイミングは、軌道修正するときや価値づけするときである。話し合いを始める前に、条件を絞る。どんなゲームをするのか。いつ？場所？明確にしておくと考えやすい。
- ・話し合いの修正は教師が介入するべきところ。ここに子どもたち自身が気付けるようにしたい。全員が通る声で発言している。話し手を見て聞いている。学活の1時間1時間を大切にしたい。委員会活動などにつながる。
- ・子どもたちの話し方と聞き方がよかった。ピンとくる言葉を共有したい。
- ・挨拶がナチュラル。特別活動の偉大さを感じた。人として成長する。どんな意見でも受容している。相手意識が高い。多数決で決めるのはどうなのだろう。少人数の意見を大切にすることの大切さは分かるが、時間が限られている。教師の介入は少なくしていく。計画委員会からの意見を出すときに背中を押していた。決まるまで時間がかかっており、どのようにしたら合意形成できるのか。
- ・多数決はなるべくとらない。出し物を生かすゲームとは…？出し物とゲームを時間を半分ずつにする案もあったが、どちらも大事にする。多数決は簡単には取らない。低学年であれば教師が合意形成の仕方を手本で見せる必要もある。

### 4. 常木先生より

- ・子どもたちが生き生きしていた。長年取り組んできた成果である。子どもたちと共に歩んできた結果が表れている。他と比べられない良さがある。温かさ・優しさがある。
- ・1年はよく教師が司会をすることが多い。子どもの横に教師がいて、司会を務めていた。児童集会等で学んでいる。生き生きしていた。上手く2年生につなげていってほしい。自分の言いたいことが言えている。3学期の終わりには自分たちだけの力で進めていきたい。
- ・2年生の音読大会で何を決めるのか。賞を決める。音読大会でどのようにしていくのか。個人？グループ？音読大会の内容、今まで習ったものを言うのか。全員？一人ずつ？今日の柱は計画委員会の中で話し合い、司会グループが中心となって進めていってほしい。
- ・3年のすごろく集会。どんなすごろくにするのか。どこですか。立体？平面？いろいろなアイデアを出し合う。
- ・5年生は音楽会を成功させるために、次6年生として引っ張っていきたい思いがある。関係づけて話し合いを進めなければいけないことに気づいた。児童会活動につながる。代表委員会にも提案する。
- ・6年生はめりはりがついているように感じる。朝から機敏に動いていた。主体的に行動する力を4、5

年に教えてあげてほしい。

- ・ふたばは、3年生が頑張っていた。おうちの人に感謝を伝えたい気持ちがあったので、しっかり話し合っていた。

- ・4年生は良いところがたくさんあった。グループの席で、話し合いがしやすかった。多数決は避けてほしい。多数決をとるために話し合っているのではなく互いの思いを伝え合い、決めていくもの。理由付けもできていた。司会グループの案は後出しになっていたもので、先に出しておくべきだった。話し方、聞き方が立派である。国語科との往還をしてほしい。特活は教育活動のベースの部分。教師の出どころは考えてほしい。

## 5. 長期研修生、杉田先生より

### (長期研修生より)

光明小のすごいところは、型に縛られず子どもの願いや思いを大切にする。実演している。全員が納得して決めている。4年生は社会参画の力がある。「仲良く」の具体化がたくさん出てきている。人間関係形成の視点で言うと、Aさんの「6年生の中に運動の苦手な人がいたらどうするか。」という発言について。6年生のことを思いやる、この発言を追求していきたい。教師の介入は多かった。フロアと司会グループとの乖離。それぞれの気持ちの置き所が人によってばらばらだったため、論点がずれていく。まとめが難しいと思っている子がいた。論点を絞っておくことが大事。6年の授業は提案性がある。論点が整理されているのでつながりがある。センテンスが長い。中学校では集会の場がなかなかない。生活の問題に焦点を当て、自分事としてとらえているかが大事。集会でしたことが日常につながるのか。決まったことに対して自分はどのようにするのか。おもしろいのは美座と光明の学級会。つながり率は41%であった。記録を待つ子、運動が苦手な子のことを心配する子。公平に考える子、人権的に大事にする子。今回は6年生にとってどうなのか。学びに向かう集団になっている。教師の発言率は40%。後出しで教師側からの提案があった。だから教師主導。焦点化をして、あとは子どもに任せる。子どもたちを信じて見守る。みんなが「いいねえ」と集団としての声が大きくなったら言いにくいと感じる子がいた。そのような声も子どもが拾うことができればよいのでは。

### (杉田先生より)

- ・研究課題に終わりがいい。だからこそ研究は続いている。授業と生活の2面。教師の共同体がどうか。没入感の高い授業だった。子どもを引き付けている。子ども目線の授業づくり、学び合う子ども集団。学び合う教師集団、児童集会で涙する参観者。特活の子どもの面倒を見るのは子ども。教科と特活の往還。特活としての子ども目線。特活としての対話的で深い学び。子どもがファシリテートしている。特活では、事前指導は教師が口を出してよいが、授業は口を出さない。
- ・多様性を許す。誰一人取り残さない。
- ・日常で叱れない先生はだめ。だめなものはだめ。正義が通らない。
- ・みんなで創る学級会。それはみんなで創る授業。だから往還する。人を思うことが大事にされている。だからセンテンスが長い。理由をしっかりと伝えている。結論より理由。あなたの思いはどこにあるの？そこを聞きたがっている。
- ・解決しないといけない。ゆるい。1時間で収められるようにしてあげる。どこか一部を取り上げる。誰



かが代表で決める。確認をとるだけ。自分の思いを何とかわかってもらいたい。だから質問が多い。教科の授業で生きる。司会が台本なしで進む。ついてこれている？わかっている？時間はかかるが意味がある。論点整理しながら進める。

- ・全員参加を目指すには、2年生にとってはレベルの高い柱であった。子どもたちはしたかった学級会だったが、難しかった。教師が司会をしていた。提案理由、議題は6年生レベル。
- ・1年生は分かり合いに徹底していた。教師が作った台本を読むことに意味があるのか。
- ・3年生はマスへのこだわりが強いから出し合いで終わった。子どもは張り切った。時間内に追われなかったらやれないと言ったらどうか。
- ・特別支援学級は、交流学級のより良い生活づくりのために学級会に参加して、社会の形成者としての資質能力の双方を学びつつ、さらに支援級のより良い生活づくりのために自立活動として実施してもらっている。
- ・5年生は子どもに慮りの言動があふれる学級会であった。司会者への評価。司会が全員のメモを活動計画に活かす。
- ・6年最高学年としてのプライドを感じる。家族みたいな学級会。主張と合意。クラスの理想像を教師と子どもで共有できている。
- ・4年生は前回の学級会がすばらしかった。みんなの意見が学習規律と言葉の力を感じる学級会。二者択一して論理的に比べさせたかった。教科目線の学級会。先生目線の学級会。指導観を変えるのは難しい。
- ・公平に接する、多様な他者を受け入れる、民主的に決める、これら进行评估すべきである。建設的な意見をつないで考える。粘り強く自分の考えを伝えようとする。日本は、型にはめる。同調圧力が怖い。だから不登校が増えている。学級は空気を読めと教えてしまう可能性がある。ちゃんと言いたいことが言えているのか確かめなければいけない。
- ・学級の旗をつくる問題解決 PDCA タイプ特活、これに DO を加えるともものすごい力となる。
- ・教師は見守り、口を出さない助言（子どもにどうしたらよいかを考えさせる）、賞賛（評価）、価値づけをしていくことで、ファシリテーターを育てる。

#### 合意形成とは

- ・我慢できる（自分の意見が通らないことは仕方ないと思う）
- ・妥協できる（折り合いをつけられる）
- ・受け入れて前に向かうことができる（自分の思いとはちがうけれど決まったことには気持ちよく協力する）

# 1. 議題 1年1組 生きものパークをつくろう (ア 学級や学校における生活上の諸課題の解決)

## 2. 議題選定の理由

○ 本学級の児童は、「えがお」という学級目標を共有して、学級会に取り組んできた。1学期には、人に笑顔にしてもらうのではなく、「自分たちでみんなが笑顔になることを考えよう」をめあてに、「迷路宝探し集会」をした。2学期には「秋祭り集会」をして、協力して準備に取り組み集会を自分たちで作り上げた。しかし、そこで考えた内容のルールがみんなでも共有できずに、楽しめない時間も一部生まれた。その課題から、みんなが分かるルールの集会をすることをめあてに「障害物リレー集会」を行った。そこでは、自分たちで考えた障害物のルールを全員で共有し、ルールを間違えることなく笑顔で行える集会となった。一方で、みんなのアイデアを取り入れることができず、一部の意見のみで集会ができていると感じている児童もいたことが課題として残っている。4月から話し合い、集会を繰り返す中で、司会グループの役割や話し合いの流れを徐々に理解してきた。分からないことを質問して理解しようとしたり、課題のある意見に対して改善策を考えたりして、みんなでもよりよい集会を作り上げようとする姿が見られるようになってきた。しかし、一つ一つの意見を共有するのに時間がかかり一部の意見で話し合いが進むことが課題である。

○ 本議題は、「みんなが大好きな水族館や動物園を合体させたものをみんなで作りたい。また、校外学習をお休みして動物園に行けなかった人たちともいっしょに楽しみたい。」という思いから提案された。水族館や動物園は、行ったことがある児童が多くイメージがしやすい。また、今回の議題では、生き物の種類を考えるのではなく、「見る」、「遊ぶ」、「知る」など多様な視点から集会の内容を考えることで、より多くの児童の意見を取り入れる話し合いに適している。また、多様な意見が出ることでそれぞれの意見の良さが明確になる。そして、似ている意見を分類してまとめていくことで、より多くの意見を生かして集会を作り上げることが期待できる議題である。

○ 話し合い活動では、「どんなコーナーをつくるか」を柱にして話し合う。話し合い活動では、全員が意見をもって、話し合いに臨めるように学級会ノートに意見を事前に書いておく。その時に提案者の具体的なイメージを伝えて、より具体的に考えられるようにする。また、絵を書いたり実際に用意したり、意見を伝えるための準備をしておくこととも伝える。話し合いの中では、友達の意見を理解するために質問して、みんなが分かろうとする姿勢で聞けるように声かけしていく。「比べる」では、どれがいいか発表するのではなく、似ている意見を分類していくことで、まとまりを作り、協力して準備ができるようにまとめていく。司会グループは、「出し合う」の段階まで台本を使いながら、自分たちで進められるようにする。話し合いを深めるために「比べる」の段階からは、教師が司会となり話し合いを進めていく。細かな部分を決めるのではなく、細かな部分は、役割の児童に任せることで、より多くの児童の意見が反映され、みんなで作る集会だと実感できるようにしたい。

## 3. 目指す子どもの姿

- ・自分の意見を相手に分かるように伝えようとしている姿。
- ・意見を比べて、似ているところを見つけ分類し、より多くの意見を生かそうとしている姿。

## 4. 評価規準

より良い生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を より良くしようとする態度
「どんなコーナーをするか」で出し合った意見を提案理由に沿った理由で比べて、合意形成することを理解している。	より多くの意見を取り入れてまとめることができないか考え、合意形成を図ろうと話し合っている。	自分の意見を発信したり、分からないことを共有したりしながら、集会の実現に向けて協働して取り組もうとしている。

## 5. 事前の活動

日時	児童の活動(☆全員 ★計画委員会)	指導上の留意点・支援
11月14日(金) 休み時間	★議題を選定する	・学級目標、前回の学級会の課題を観点にして、議題を選定する。
11月19日(水) 特別活動	☆自分の考えを学級会ノートに書き、司会グループに提出する。	・自分たちで、できるかどうかを考えながら、提案理由に沿って具体的に書くように助言する。
11月19日(水) 昼休み	★出された意見を分類整理し、話し合いの進めかた、板書を考えて見通しをもつ。	・司会グループと一緒に意見を確認し、どのように分類するかイメージしておく。

## 6. 本時のねらい

- ・出し合った意見を理解して、似ているところを見つけ分類し、まとめながら話し合いができる。

## 7. 児童の活動計画（別紙）

## 8. 教師の指導計画

話し合いの順序	指導上の留意点・支援	目指す児童の姿
話し合いのめあてを確認する。 決まっていることを確認する。	司会グループと確認しながら予め板書しておく	
話し合いをする  柱1 「どんなコーナーをするか」 出し合う 見るコーナー ・しゃしん ・おりがみ クイズコーナー ・〇×クイズ ・なきごえクイズ ・これはなんでしょうクイズ あそぶコーナー ・フラミンゴわなげ ・さかなつり ・うさぎにえさやり やってみるコーナー ・しゃしんをどうぶつととる ・いろぬり ・おりがみをおる くらべる ・出し合った意見の同じところを見つけて、「見る」「遊ぶ」「クイズ」「やってみる」などに分類する。  まとめる ・司会グループが決まったことを確認する。	・司会グループと共有した話し合いの進め方をフロアとも共有して話し合いを進める。  柱1 出し合う ・児童が理解できていない様子のときは質問するように声をかけをする。 ・言葉だけでなく実際に書いたものや実演をして見せることで、同じイメージを全体で共有できるようにする。 ・動物や魚の種類を発表しそうなときは、役割で考えることを伝える。  くらべる ・にている意見をまとめていくことで協力してできることを声かけする。 ・時間、場所、物については、教師ができるかどうかの判断をして伝えるようにする。 ・分類が難しい意見を取り入れる方法がないか考えるように促す。  まとめる ・決まったことと役割で考えることをめいかくにして伝えられるようにする。	【主】 ・自分の考えを具体的に伝えようとしたり、分からないことを質問したりして、理解しようとしている。（フロアの発表）  【思・判・表】 ・提案理由に沿って、出し合った意見の似ているところを見つけくらべている。 （司会・フロアの発表）  【知・技】 ・提案理由に沿って、全員が理解できるように意見をだしている。 （フロアの発表）
教師の話聞く	提案理由に戻っている姿、分からないことを意思表示できている姿を価値づける。	
話し合いをふり返る ① 司会グループ ② フロア	話し合いでの自分について、また友だちについて感想を発表する。	【主】自分や友達の良さを見つけ、めあてをふり返ろうとしている。

## 9. 事後の活動

日時	児童の活動 （☆全員 ★計画委員会）	指導上の留意点・支援	目指す児童の姿 【評価の観点】（評価方法）
12月9日（火） 休み時間	☆分類した意見のコーナーごとにやることを考え準備していく。	コーナーごとにやることの合意形成ができるように声かけしていく。	【主体的に取り組む態度】 友達と協力して、コーナーを作ろうとしている。（観察）
12月19日（金） 特別活動	☆生きものパークの集会をする。	自分の役割に責任をもって取り組めるように声かけしていく。 集会をよりよくしようと実践している児童を価値づけしていく	【思考・判断・表現】 実践の中で振り返り、より良い集会にしようと協力している。（観察）

## 1. 授業実践者による振り返りと課題認識

- ・ 当初のクラスの課題：子どもたちの個々の考えが学級全体の目標として共有・集約されていない点。
- ・ 本時のねらい：「生き物パーク」というテーマで多様な意見を引き出し、それらをまとめ、最終的に学級目標である「笑顔」に繋げること。

授業中に感じた主な困難点と原因分析

実践の中で、当初の計画からの軌道修正を余儀なくすることになった。

### ・ 議題設定の難易度

特に、前回の成功体験である「障害物リレー」の計画との対比が重要である。リレーでは、子供たちが「道具を触らせてちょっとやってみる時間」が確保されており、具体的なモノを介した**身体的・感覚的な活動**を土台に話し合いが進められた。しかし今回は、そのような具体的な足場がないまま、純粋に**抽象的・言語的な活動**へと移行した。この発達段階上の大きな飛躍を、授業設計が十分に支えきれなかった点が、困難の根源にあった。

### ・ 抽象的な議論の限界

・ 具体的なイメージを喚起するものがない中で、子供たちは言葉だけで自分のアイデアの全体像を伝えなければならず、相互理解が極めて困難な状況が生まれた。

・ 計画からの軌道修正 指導案では、出された意見を分類する「ラベリング」を計画していたが、「そもそも意見が共有できていない」という的確な判断から、途中で断念した。そして、より現実的な「みんなが分かってできそうなものをあげる」ことに焦点を絞った。これは、子どもたちの混乱した状況を的確に捉えた、実践者による柔軟かつ適切な判断であった。

研究会への問いかけ

これらの内省を踏まえ、以下の2つの論点を提示した。

- (1) 話し合いの前に、どう準備しておくべきだったか？
- (2) 今回の話し合いの結果を受けて、この後どのように活動をまとめていくべきか？

## 2. 参加者による授業分析と具体的な改善提案

### 中核的な課題の特定：発散しやすい議題設定と共有されたゴールの欠如

参加者の議論の中で、今回の話し合いが困難を極めた根本的な原因は、議題設定そのものにあったと診断された。

- ・ 「広がりすぎた時に全く同じことになる」「ゴールがこれではっきりしない」と発言し、今回の議題が子供たちの思考を発散させやすく、収束点が見えにくい構造であったことを指摘した。
- ・ 「似ている考えをまとめていこう」というめあては、一見すると子供たちの思考を促すように見えるが、1年生にとって「似ている」という概念自体が抽象的すぎた。その結果、子供たちは「どこに向かって話を進めていいのかわからない」状態に陥り、自分のアイデアを説明することに終始してしまい、クラス全体で意見を練り上げていくという本来の目的に到達することが困難になった。

## **事前準備における具体的な改善案**

この中核的な課題を踏まえ、参加者からは話し合いの「前段階」で実施可能な、具体的な改善案が複数提示された。

### **(1) カテゴリーの事前提示（ラベリングの補助線）**

「見るコーナー」「遊ぶコーナー」「クイズコーナー」といったカテゴリーの枠組みを、話し合いの始めに教師が提示しておくという提案である。この支援策は、単に思考の負担を軽減するだけでなく、子どもたちに求める思考の質を根本的に変える。すなわち、ゼロから概念を生成する高度に抽象的な「分類」という課題を、提示された枠に当てはめる具体的な「仕分け」という課題へと転換させるのである。この足場かけが、建設的な意見交換の土台を作ると考えられる。

### **(2) 意見共有・理解の時間の確保**

本格的な話し合いに入る前に、まず出された個々の意見について「これどういうこと？」と全員で確認し、理解を深める時間を十分に確保することの重要性が指摘された。これにより、誤解や無理解から生じる議論の停滞を防ぎ、話し合い全体の質と効率を高めることができる。

### **(3) 構造化されたノート指導**

ある参加者は、ノート指導の重要性を強調した。単にアイデアを書かせるだけでなく、「提案理由」や「どのコーナーでやりたいか」を意識させながらノートを記述させる指導が有効であると提案した。例えば、「見るコーナー」「遊ぶコーナー」といった欄をあらかじめノートに設けておくことで、子供たちの考えは事前に整理され、話し合いの場でより明確な意見表明が可能になる。

## **授業中のファシリテーションに関する考察**

### **評価されるべき点**

授業者が、子供たちから出された実現が難しそうな意見に対しても、「否定的な意見をできるだけポジティブに変えていた」姿勢や、計画通りに進まない中で「瞬間的に切り替えた判断」は高く評価された。これは、子どもたちの発言意欲を尊重し、学びの主体を守ろうとする教師の基本的な姿勢を示すものである。

### **今後の改善点**

将来的に子供たちが自律的に司会進行できるようになるためには、教師がそのモデルを示す必要がある。その際、大人の視点で議論を整理するのではなく、「1年生でもできるような進め方」を意識することが重要であると指摘された。具体的には、ある子供の意見を受け止め、「意見を繋いで返し、みんなに問いかける」（例：「Aさんは数のことを言ってるけど、みんなはどう思いますか？」）という司会技術を教師が示すことで、子どもたちは話し合いの進め方を具体的に学ぶことができる。

## **3. 今後の展開に向けた具体的な方策**

研修の最終目的は、議論を具体的な教育活動へと繋げることにある。本研究会では、今回の授業で出された子供たちの多様なアイデアをどのように集約し、次の活動へと発展させていくかについて、実践的なロードマップが示された。

### (1) アイデアの整理と可視化

「見る」「遊ぶ」「クイズ」といった、事前に教師が用意したカテゴリーに分類し、活動の全体像を子どもたち全員が見える形で可視化する。これにより、自分の意見や友達の見解がどこに位置づけられるのかが一目瞭然となる。

### (2) 自己決定に基づくグループ形成

次に、可視化されたコーナーの中から、子どもたち一人一人が「自分が一番やりたいもの」を主体的に選び、そのコーナーに自分の名前を貼るなどの方法で意思表示を行う。このプロセスは、どのコーナーで活動するかを自分自身で決定する経験となり、全員の意見が尊重されると同時に、活動への当事者意識が醸成される。

### (3) コーナー内での協働と具体化

同じコーナーを選んだ子供たちでグループを形成し、その中で具体的な活動内容を話し合わせる。例えば、クイズコーナーでは「鳴き声クイズと昆虫クイズを合体させて、もっと面白いクイズにしよう」、遊ぶコーナーでは「キリンとフラミンゴで輪投げを作ろう」といったように、複数のアイデアを組み合わせて、発展させたりする協働的な活動が生まれる。

### (4) 「やってみる」ことからの学び

この意見が示すように、1年生の発達段階を考慮すると、計画段階で完璧を目指すのではなく、まず試行錯誤してみる経験が重要である。その際、\*\*「先生は絶対手を貸さない」\*\*という姿勢が求められる。子供たちが自分たちの力で挑戦し、困難に直面した時に「どうすればできるか」を考えるプロセスを見守ること。この経験を通じて、子供たちは「自分たちにできること」を実感として学び取る。

この一連のプロセスは、当初の目当てであった「みんなのアイデアが入るように」という目標を実現しつつ、他者と協力して物事を進める**合意形成能力**と、自分たちの力でやり遂げる**自己効力感**を育む上で、極めて有効な方策であると結論付けられた。

## 4. 本実践から得られた教育的示唆

### 低学年における「分類」という思考の難しさと足場かけの重要性

- ・「似ているものをまとめる」という活動は、大人にとってはわかりやすく思えるが、1年生にとっては抽象的な概念に基づいて思考する、非常に高度な知的活動である。今回の実践は、この「分類」という思考の壁を改めて浮き彫りにした。子供たちが主体的に思考するためには、教師が「見る」「遊ぶ」といった具体的な「枠組み」や「カテゴリー」を提示する「足場かけ」がいかに重要であることを示している。適切な足場かけがあって初めて、子供たちは安心して自分の考えを表現し、整理することができる。
- ・「隣の子が言いたかったことを代弁したりとかね」といった子どもたちの姿が話題に上がった。昆虫コーナーを提案した児童は、昆虫が苦手な子も楽しめるようにと発言したが、その背景には「（自分は）うさぎアレルギーやから触られへんねん」という、他者の状況を自分事に置き換える深い思いやりがあった。学級会は単に物事を決定する場ではなく、他者の意見に真摯に耳を傾け、その意図や背

景を思いやる態度を育む、**人間関係形成の重要な場**なのである。こうした姿勢は、廊下の歩き方や集会での聞き方といった学校生活全体の規律の基盤となり、その育成は喫緊の課題である。

### 目的共有の徹底

「ノートを書く前に提案理由をしっかりとみんなで読む」という意見は、活動の原点に立ち返ることの重要性を教えてくれる。「何のためにこの活動をするのか」という目的を、活動の節目節目で子どもたちと徹底的に共有することが、議論の方向性を見失わず、質の高い学びへと繋げるために不可欠である。目的が共有されていれば、子どもたちはより本質的な視点から意見を出し合い、建設的な議論を展開することができるようになる。

## 5. まとめ

この実践は、低学年が抽象的な議題に取り組む際の認知的な壁や、具体的なイメージを伴わない意見共有の限界といった、指導上の重要な課題を明確に示した。

同時に、その課題解決に向けた研究会の議論は、「カテゴリーの事前提示」による思考の足場かけ、「ノート指導」を通じた思考の整理、「目的共有の徹底」といった、明日からの授業に活かせる数多くの実践的な改善策を導き出した。特に、多様な意見を排除するのではなく、コーナーごとに分かれて「まずやってみる」という今後の展開案は、子どもたちの自己決定と協働性を育む上で非常に示唆に富むものであった。

## 補足（事後研の後に出てきた意見）

### 話し合いを練り上げていく手立て

- ・ラベルを示さずに子どもたちにラベルを考えさせる。
- ・多様な意見をまず計画委員会で仲間分けする。仲間分けできない意見は、全体に問いかけて思考を促す。仲間分けしたものを全体に提示し、どんなラベルをつけたら良いかみんなで考えていく。そうすると子どもの言葉でラベルを考えることができる。

## 第2学年1組 学級活動(1) 指導案

2025年12月9日(火) 3校時

児童数 37名

指導者 濱田 梨乃

- 議題 ジャンけんパワーでみんな友だち集会をしよう  
(ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決)

### 2. 議題選定の理由

○ 本学級の児童は、友だちに優しく接し、思いやりをもって行動する姿が多く見られるようになってきている。話し合い活動においても、提案理由を意識して話し合おうとする姿が見られ、集会では「みんなで楽しく」を意識して活動に取り組むことができている。遊びを通して多くの友だちと関わり、自分の思いを相手に伝えようとする姿も少しずつ育ってきている。一方で、自分の思いを優先してしまい、友だちの意見を十分に聞けなかったり、折り合いをつけることが難しかったりする児童も見られる。そこで、本活動を通して、相手の考えを受け止めながら、自分の思いとの折り合いをつけ、合意形成を図る話し合いができるようにしていきたい。

○ 本議題は、「じゃんけんは楽しいし、チームでするともっと仲良しなクラスになれる」という思いから選出された。誰もが参加しやすく、勝ち負けを楽しみながら関わることでできるじゃんけん大会を議題として設定した。また、友だち同士の関わりを深め、よりよい人間関係性を育てていくことができると考えた。加えて、本活動をチーム対抗で行うことにより、個人の勝敗にとらわれるのではなく、仲間と声をかけ合い、励まし合いながら取り組む姿を育てたい。話し合いを通して進め方や工夫を話し合い、合意形成を図ることで、自分たちで活動をつくり上げていく自治的な経験を積ませたい。また、学級のことを自分事として考え、行動する社会参画の意識を高めるとともに、学級全体に自治的風土を育成することをねらいとして、本議題を設定した。

○ 話し合い活動では、チームで協力することを意識しながら話し合いに参加し、よりよい活動を実現しようとする姿を期待する。自分の意見を進んで発表するとともに、友だちの考えをよく聞き、考えの違いを受け止めながら合意形成を図る態度を大切にしたい。また、話し合いの中で納得できる意見に出会った際には、考えを修正したり、別の視点から考え直したりするなど、柔軟に思考する姿も育てたい。さらに、遊び方や進め方について工夫を出し合い、発想力を働かせながら話し合いを深めることで、互いを認め合う人間関係性を育成するとともに社会参画の意識を高め、学級全体に自治的風土を醸成していく。

### 3. 目指す子どもの姿

- ・「チームで協力すること」を観点に話し合いを進め、比べようとする姿。
- ・「私にとって」ではなく「みんなにとって」を考え、折り合いをつけ、合意形成しようとする姿。

### 4. 評価規準

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
「チームで協力すること」について、イメージを具体的にもって考えを出し合い、比較しながら決めていくことを理解している。	経験をもとにイメージを共有し、様々な意見や状況を尊重し合いながら合意形成を図っている。	提案の理由に沿って自分の考えを伝えたり、友だちの意見をよく考えたりしながら、話し合い活動に主体的に取り組もうとしている。

### 5. 事前の活動

日時	児童の活動(☆全員 ★計画委員会)	指導上の留意点・支援
12月4日 朝の会	☆集会の名前・提案理由を整理する。 集会の内容について、自分の考えを学級会ノートに書いて提出する。	・整理したことの内容を分かりやすくまとめるように助言する。自分の考えを、理由を明確にして学級会ノートに書くように助言する。
12月5日 休み時間	★提出されたみんなの考えを読み、内容ごとに分類する。	大きくグループに分け、内容を集約するように支援する。
12月8日 休み時間	★論点を設定し、観点に沿った話し合いができるように計画する。	みんなの意見の分類・集約をもとに、話し合いの進め方や整理の仕方を計画し、司会グループの全員がイメージを持っておくように助言する。

### 6. 児童の活動計画(別紙)



7. 本時のねらい

○クラスみんなで仲良くなることができる内容を考え、合意形成することができる。

8. 教師の指導計画

話合いの順序	指導上の留意点・支援	目指す児童の姿 【評価の観点】(評価方法)
話合いのめあてを確認する。 決まっていることを確認する。	話合いについて、一人一人のめあても確認する。	
話合いをする 柱1 集会の内容 どのじゃんけんにするか。 <b>比べる</b> ・じゃんけんリレー ・じゃんけん玉入れ ・MVP じゃんけん ・じゃんけんすごろく ・だるまじゃんけん  決まったことの確認	<b>比べる</b> ・事前にどのようなルールか共有しておく。 ・「チームで取り組むこと」を観点に比べるよう、助言する。 ・3つ決めるとい話し合いのゴールを設定することで、話合いに見通しが持てるように助言する。  <b>まとめる</b> ・司会のまとめに対して合意できないことがないかフロアに確認し、全員の意思表示を待ち、合意形成をする。  1時間の時間配分を考えること、次の学級会で準備が可能であることを、全員に確認する。	<b>【主】</b> 話合いの観点が、全員に分かるように話合いを進めようとしている。(司会)  <b>【思・判・表】</b> それぞれの考えの良さ、問題点を受け止めて、自分の考えを深め広めている。 (フロア発表)  <b>【知・技】</b> 話し合ったことが活かされるような結論を提案している。(司会)
教師の話聞く	学級全体のことを視野に入れ、具体的に理由づけした発言について価値づける。意見を引き出し、整理しながら話合いを進行した司会グループを称賛する。	
話合いをふり返る ①司会グループ ②フロア	学級にとってより良いもの考えたか、多くの意見で合意形成につなげることができたかについてふり返るよう助言する。集会に向けての思いを引き出す。	<b>【主】</b> 自分や友だちの良さを見つけ、自分のめあてをふり返ろうとしている。(ノート)

9. 事後の活動

日時	児童の活動	指導上の留意点・支援	目指す児童の姿 【評価の観点】(評価方法)
12月11日 きらきらタイム	役割の決定・準備	一人一人が自分の役割に責任を持って取り組めるよう、活動内容を具体的に確認し、必要な材料や手順を助言する。	<b>【主体的に取り組む態度】</b> 自分の役割を理解し、責任を持って準備をやり遂げようとしている。
12月16日 3校時	集会活動	合意形成したことに基づき、自分の役割を全うできるように見守り、支援する。	<b>【思考・判断・表現】</b> チームとしてのじゃんけんの仕方を考えている。

# 第3学年1組 学級活動(1) 指導案

2025年11月5日(水) 5校時

児童数 28名

指導者 澤田 強志

- 議題 にくっと安心！きょ大すごろく集会をしよう  
(ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決)

## 2 議題選定の理由

○本学級は、素直で友だちのために進んで動く児童が多い。しかし、相手の思いを最後まで聞いていなかったり、決めつけて話を進めたりすることでトラブルになることが多い。また、学級会や授業では間違いを恐れ発言しない児童が発言力のある児童に頼り、一部の児童を中心に話し合いが進んでしまう。自分たちで学級をより良いものにしていこうという意識はあまり高くない。そこで全員が自信を持って自分の意見を話せるように、授業中にペアや小グループの交流を取り入れたり、学級のために動いている児童の行動を値打ちのあることだと価値づけたりしている。学級目標である「安心つなげよう かがやく3-1」に返り、友だちへの思いやりや学級全体のための行動を評価することで、自分たちで安心できる学級を創り上げていく意識を高めているところである。

○本議題は、「やったことがないので巨大すごろくをみんなでしてみたい」「この集会を通して、学級の課題である『話を聞く』ことをできるようにしたい」という願いを元に選定されたものである。すごろくはシンプルな遊びでルールも分かりやすい。マスの内容を考えたり、すごろく集会をどのようにするか考えたりなど工夫を考えられるポイントが多い議題である。学級の課題について全員で共有し工夫を話し合うことで、学級をより良いものにしたいという思いを引き出すことが期待できる。

○話し合い活動では、友だちの意見を全員が理解しながら進められるように、実演などを取り入れることでイメージの共有を図る。司会グループと事前にフロアの意見を確認しておき、発言が苦手な児童がどのタイミングであれば発言しやすいか、相談しておく。また発言の偏りがあった時に、意見を聞けていない友だちに声をかけるといった手立てを共に考えておく。フロアには、友だちの意見を真剣に聞くことを確認し、何について話し合っているかわからなくなったときには困り事をみんなと伝えようと伝えておく。合意形成の際には司会グループ、フロア共に、提案理由を元に学級のことを考えて、意見を合わせる、条件をつけて賛成するといった方法を使うように促す。話し合いの流れを予想しておくことで、自分たちで合意形成できるようにしていきたい。

## 3. 目指す子どもの姿

- ・学級にとってより良いものを考えようとする姿
- ・友だちを尊重しながら話し合いに参加し、みんなが納得できるように合意形成しようとする姿

## 4 評価規準

より良い生活を築くための 知識、技能	集団や社会の形成者としての 思考、判断、表現	主体的に生活や人間形成をより良く しようとする態度
話を聞くことを楽しみながらできるように工夫を考え、その理由を比較し、合意形成していくことを理解している。	楽しみながら話を聞く工夫を考え、意見を活かし合いながら合意形成を図り、協力して実践している。	お互いの意見を尊重しながら話し合いを進めようとしている。 友だちのがんばりや良さを次の話し合いに活かし、日常生活の向上を図ろうとしている。

## 5 事前の活動

日時	児童の活動 (☆全員 ★計画委員会)	指導上の留意点・支援
10月27日(月)	★議題を決定する。 ★提案者と計画委員会で提案理由を整理する。★場所、日程、大まかなやり方を決めておく。 ★柱を考える。	・マインドマップを使い、話し合うべきことと決めておくべきことを確かめるようにする。
10月30日(木)	☆すごろくでどんなマスを作るか話し合う(柱1)	
11月4日(火)	☆自分の考えを学級会ノートに書く。 ★学級会ノートを元に、話し合いの計画を立てる。	・司会グループと全員の学級会ノートを確認し、出される意見を事前に分類して話し合う観点をしぼっておく。

## 6 本時のねらい

○楽しみながら話を聞くことに取り組めるような工夫を考え、意見を活かし合いながらまとめることができる。

## 7 児童の活動計画（別紙）

## 8 教師の指導計画

話合いの順序	指導上の留意点	目指す児童の姿 【評価の観点】（評価方法）
話し合いのめあてを確認する。 決まっていることを確認する。	司会グループと確認しながら、予め短冊を仲間分けし、話し合う観点をしばっておく。	
話し合いをする 柱2 「どことなくふうをするか」 出し合う 予想される意見 ・話を聞かないといけないマスを作る。 ・話を聞いていなかったら脱落する。 ・小さな声でお題を言う。  比べる  まとめる	出し合う ・事前に計画委員会が分類、整理した短冊を見ておき、何から話し合うか考えるように伝えておく。 比べる ・提案理由に沿って発言するよう助言する。 ・それぞれの意見の良さを比べるよう声をかける。 ・意見を分類、整理するよう促し、比べやすいようにする。 ・短くまとめられるように黒板記録に助言する。 まとめる ・それぞれの意見の良さを活かしながらまとめるよう司会グループに伝えておく。 ・司会の提案に対して納得できるかフロアに確認し、全員の意思表示を待つように助言する。	【主】 お互いの意見を尊重しながら話し合いを進めようとしている。 （司会・フロア発表） 【思・判・表】 出し合った意見について、賛成の理由を比べながら話し合っている。（フロア発表） 【知・理】 ・話を聞くことを楽しみながらできるように工夫を考え、その理由を話している。（フロア発表）
柱3 「やくわり」  決まったことの確認	事前に司会グループで必要な役割を考え、提案できるようにしておく。  どのようにして決まったか分かるように発言するよう助言する。	
教師の話聞く	・提案理由に沿って話ができていた児童や合意形成ができるような考えを出した児童の発言を取り上げ、評価する。 ・司会グループに具体的によかった点を全員の前で紹介することで、次の実践活動への意欲を高める。	
話し合いをふり返る	話し合いで自分が努力したこと、友だちの意見の良さ、話し合い全体のよかったところを書くように助言する。	【主】友だちの良さを次の話し合いに活かそうとしている。（ノート・発表）

## 9 事後の活動

日時	児童の活動（☆全員★計画委員会）	指導上の留意点・支援	目指す児童の姿 【評価の観点】（評価方法）
11月12日（水） 5校時 11月14日（金） きらきらタイム	☆柱2役わり について話し合い、自分の担当を決める。 ☆準備	具体的に決まっていなかったことが出てきたときには、みんなに呼びかけ、話し合うように助言する。	【思考・判断・表現】 話し合いで決まったことを共有して、準備を進めている（観察）
11月18日（火） 6校時	☆集会活動。	自分と友だちのよかったところに目を向けてふり返られるように助言する。	【主体的に取り組む態度】 提案理由に沿って集会を実践しようとしている。（観察）

1. 議題 缶蹴り ver2.0へ アップデート 集会  
(ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決)

2. 議題選定の理由

○ 本学級の児童は、素直で何事にも前向きに取り組み、活動を楽しもうとする姿が多く見られる。縦割り活動では下級生に自然と声をかけ、高学年としての役割を意識しながら関わるなど、自治的風土を育てる基盤が形成されつつある。また、話し合いにおいては、意見を比べるのではなく深めることを大切にしようとし、イメージを共有しながら課題解決型の話し合いを目指している児童も多い。一方で、「自分が」「自分たちが」楽しければ良いという思いが前に出てしまい、話し合い活動の中で自分の考えを押し通そうとする児童がいることも課題である。そのため、話し合う論点を明確に持ち、友だちの意見の意図や気持ちを踏まえて伝え方を工夫し、合意形成を図ろうとする態度を身に付けることが求められる。意見が苦手な友だちに声をかけたり、「みんなが納得できる決め方」を意識して働きかけたりできる児童も多いことから、人の気持ちを考えながら、状況に応じて意見を出し合い、学級の仲間として、また高学年として互いに高め合える学級づくりを進めていきたい。

○ 本議題は、6年生で一度体験した「缶蹴り」をより楽しく、より良い集会にすることをねらいとして設定したものである。前回の体験から、「捕まった人がひまになってしまうこと」「鬼がスタートの缶から動かず活動が単調になること」という課題が明らかになった。これらを解決するために、単に意見を出し合うだけでなく、体験をもとに課題を明確にし、より良い方法を探る課題解決型の話し合いを行うこととする。また、一つ一つの意見を比べるのではなく、意見を組み合わせたり、関連付けたりしながら深めていくことで、合意形成につなげていきたい。本議題を通して、児童が学級の一員として主体的に社会参画し、自治的風土を高めていくことをねらいとする。

○ 話し合い活動では、課題意識を共有し、論点を明確にした上で話し合いを進める姿を期待する。捕まった人の過ごし方や、鬼の動き方などについて、自分の考えを根拠とともに伝えるときに、友だちの意見の意図を理解しながら、話し合いを深めていくことを大切にしたい。また、異なる意見については対立させるのではなく、折り合いをつけたり、合体させたりしながら、より良い案としてまとめていく力を育てたい。さらに、話し合いの結果を「自分たちで決めたこと」として受け止め、納得感をもって実践しようとする態度を育成し、合意形成を通して自治的な学級づくりにつなげていきたい。

3. 目指す子どもの姿

- ・鬼の動き方や、捕まった人の過ごし方について課題意識をもち、自分の体験をもとに根拠を示して意見を出したり、友だちの提案の意図を考えたりしながら、より良い遊び方について合意形成を図ろうとする姿。
- ・話し合いで決まったルールや工夫を学級の決定として受け止め、捕まった友だちに声をかけ合ったり、鬼役の動きを意識したりしながら、全員が楽しめる「缶蹴り」に主体的に社会参画しようとする姿。

4. 評価規準

より良い生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を より良くしようとする態度
「捕まった人がひまになる」 「鬼が動かない」という課題を共有し、相手の意見を掘り下げたり、具体化したりしながら深めていくことを理解している。	缶蹴りの体験をもとに、捕まった人や鬼になった人について、自分の考えを伝えたり、友だちの意見を受け止めたりしながら、より良い遊び方を決めようとしている。	缶蹴りの課題を自分事として捉え、捕まった人の気持ちや鬼の立場を意識しながら意見を出し、決まりづくりに当事者意識をもって関わろうとしている。

## 5. 事前の活動

日時	児童の活動（☆全員 ★計画委員会）	指導上の留意点・支援
11月19日 休み時間	☆普通のルールである缶蹴りをする。	・課題を見つけ、次に活かすことができるように助言する。
11月27日 休み時間	★「捕まった人がひまになること」 「おにがスタートの位置から動かない」という課題を共有する。	それぞれの経験をもとに課題を共有することができるように支援する。

## 6. 児童の活動計画（別紙）

## 7. 本時のねらい

- ・相手の意見を共有することを中心に、より具体的なイメージを持ちながら話し合いを深め、みんなが納得できるルールへと合意形成を図ることができる。

## 8. 教師の指導計画

話し合いの順序	指導上の留意点・支援	目指す児童の姿 【評価の観点】（評価方法）
話し合いのめあてを確認する。 決まっていることを確認する。	話し合いについて、一人一人のめあても確認する。	
話し合いをする 柱1 オリジナルルール 出し合いながら、深める ・鬼が動かない →・制限時間を決める→～秒 ・動くことができる範囲を決める→大きさや形 ・見つかった人がひまになる →・音楽をかける→どんな曲 ・鬼になって探す→増えすぎたらどうしよう まとめる 柱2 役割  決まったことの確認	出し合いながら、深める ・友だちの考えを聞き、具体的なルールやイメージを共有し、クラスにとってより価値のあるものにまとめるよう助言する。  まとめる ・司会のまとめに対して合意できないことがないかフロアに確認し、全員の意思表示を待ち、合意形成をする。  ・どのようにして決まったかをまとめて発言するように助言する。	【主】話し合いの観点が、全員に分かるように話し合いを進めようとしている。（司会） 【思・判・表】それぞれの考えの良さ、問題点を受け止めて、自分の考えを深め広めている。（フロア発表）  【知・技】話し合ったことが活かされるような結論を提案している。（司会）
話し合いをふり返る ①司会グループ ②フロア	学級にとってより良いもの考えたか、多くの意見で合意形成につなげることができたかについてふり返るよう助言する。	【主】自分や友だちの良さを見つけ、自分のめあてをふり返ろうとしている。（ノート・発表）
教師の話聞く	学級全体のことを視野に入れ、具体的に理由づけした発言について価値づける。意見を引き出し、整理しながら話し合いを進行した司会グループを称賛する。	

## 9. 事後の活動

日時	児童の活動	指導上の留意点・支援	目指す児童の姿 【評価の観点】（評価方法）
12月19日 (5校時)	集会活動	役割が全うできるように支援する。	役割に責任を持ったり、話し合ったルールに基づいて、臨機応変に集会に取り組もうとしている。

ふたば（知的 自閉・情緒） 学級活動（1）指導案

2025 年 12 月 10 日（水） 1 校時

児童数 21 名

第 1 学年 3 名 第 2 学年 4 名 第 3 学年 2 名

第 4 学年 5 名 第 5 学年 4 名 第 6 学年 3 名

指導者 一二三 琢磨 池内 純 栗之池 陽子

- 1 議題 おうちの人に感謝の気持ちを伝えよう  
（ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決）

2 議題選定の理由

○ 本学級の児童は、お互いの意見を大事にしながら、まずは少人数での話し合い活動に取り組んできた。その経験が交流学級での話し合い活動や集会活動に活かされてきている。1 学期の初めには、新しく特別支援学級に入級した友達を迎えるために「ようこそふたばへの会をしよう」という議題で、話し合い、集会を開いた。新しく入級した友達にも楽しんでもらおうと各自が自分の役割を果たしていた。また「ふたば THE リレー集会」では 1 年生から 6 年生までが楽しめるリレーの工夫を考えた。ふり返りでは「グループの友達と協力できた。」と言った児童がおり、集会を通してさらに仲を深めることもできた。高学年は低学年に優しく接することもできている。特別支援学級在籍児童数も 21 名と増え、全員がそろって同じ観点で意見を出し合い、比べ合うところに難しさを感じている。そのため、議題によって学年をしぼって話し合い活動に取り組んでいるが、全員の思いが大切にされるような話し合いになるよう積み重ねているところである。

○ 本議題は、「いつもお世話になっているおうちの人に、ありがとうの気持ちを伝えたい。」「みんなで協力して調理活動をしたい。」という願いから選定されたものである。普段おうちの人に感謝の気持ちを伝えることはあまりないが、今回の経験を通して、自分の思いをおうちの人に伝えることができる議題である。また、調理活動を通して、役割分担することや協力することの大切さを考えることができる。どんな役割があるのか、どんなことが工夫できるのかについて考えることで、思考に広がり生まれると期待している。

○ 話し合い活動では、自分たちが作った料理を食べてほしい、おうちの人に喜んでもらいたいという思いは、全員で共有することができた。提案理由を理解し、自分たちができる活動を考えさせる。具体的にロールプレイをして、何が必要なのか考えたり、どんな言葉がけをすれば良いのか考えたりすることで、意見を出しやすくする。相手の気持ちを考えながら活動することで、お互いが気持ちよく活動できることを感じてほしい。自分の意見を通すだけでなく、友達の意見も取り入れてより良い集会ができるように支援していく。

3 目指す子どもの姿

- 自分の意見をわかりやすく伝えたり、友達の意見を聞いたりすることができる姿。
- 集会について具体的な場面を想像して、自分たちにできることを見つける姿。

4 評価規準

より良い生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を より良くしようとする態度
みんなが協力して活動するための工夫について話し合うことを理解している。	なかよく活動する方法を具体的に考え、自分たちにできることを決めている。	決まったことを生かしながら、協働して集会に取り組もうとしている。

5 事前の活動

日時	児童の活動（全員で行う）	指導上の留意点・支援
10 月 27 日 ふたばタイム	☆議題を選定する。 ☆活動計画を立てる。	何を、何のために話し合うのかを全員で確認し、見通しが持てるようにする。
10 月 30 日 ふたばタイム	☆みんなで協力できる内容について考える。	具体的な内容について意見が出せるように助言する。

6 児童の活動計画（別紙）

# 7 本時のねらい

○おうちの人が喜んでくれるための方法について、具体的に考えることができる。

○意見を交流し、自分たちにできる工夫を決めることができる。

# 8 教師の指導計画

話合いの順序	指導上の留意点・支援	目指す児童の姿 【評価の観点】（評価方法）
話合いのめあてを確認する。 決まっていることを確認する。		
<b>話合いをする</b> <b>柱</b> おうちの人にありがとうの気持ちを伝える工夫 <b>しぼる</b> ・ピザの具材 ・接客 ・注文の取り方 ・役割分担 <b>深める</b> ・ピザの具材を決める。 ・低学年と高学年でペアを作る。 ・調理と接客に分かれる。 ・必要な役割を決める。 <b>まとめる</b> 決まったことを確認する	<b>しぼる</b> ・どこを話し合うと良いのか、一つに決めて話し合いを始めるようにする。 <b>深める</b> ・具体的な場面が想像できるよう、絵や図で伝える方法もあることを助言する。 ・これまでの経験を思い出し、そこからどんな工夫ができるか考えるように声をかける。 ・ロールプレイをして実際に必要な役割について考えさせる。 <b>まとめる</b> ・出た意見が自分たちにできるか、確認するよう促す。	<b>【知・技】</b> ・柱に沿って、自分の考えを具体的に伝えている。 （発言の様子） <b>【思・判・表】</b> ・実際の場面を想像しながら、考えている。（観察） ・全員が話合いの内容を理解しているか、確認しながら進行している。（進行の仕方）
教師の話聞く	・自分の考えを具体的に伝えたり、質問したりしたことについて評価する。 ・全員で話合いを進めようとした司会グループについて具体的に賞賛する。	
話合いを振り返る	・集会に対する思いが出せるように支援する。	<b>【主】</b> 意欲的に自分の役割に臨もうとしている。

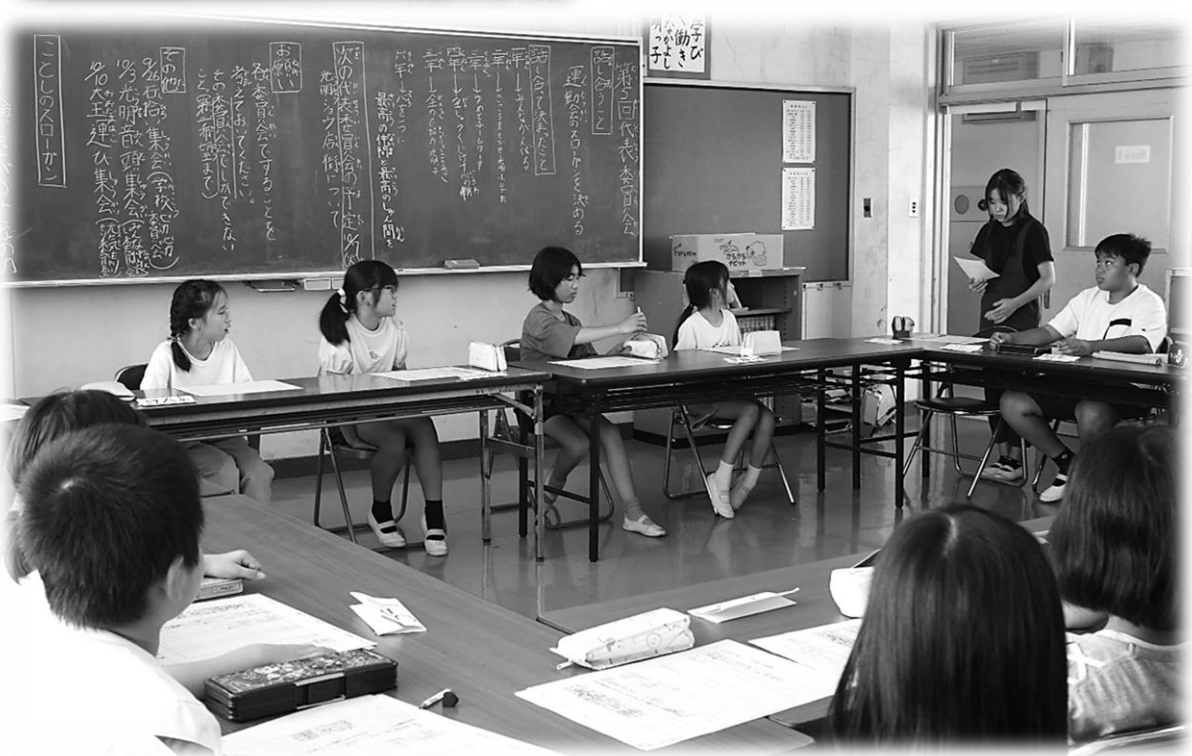
# 9 事後の活動

日時	児童の活動	指導上の留意点・支援	目指す児童の姿 【評価の観点】（評価方法）
12月17(水) 1校時 ふたばの会	具体的な活動内容を話し合い、計画を立てる。	事前に高学年と打ち合わせをしておき、主体的に活動できるようにする。	<b>【主体的に取り組む態度】</b> 合意形成したことをもとに、進んで計画を立てようとしている。（観察・計画内容）
2月27日(金) 5校時 ふたば参観	グループで協力して、おうちの人をおもてなしする。	話合いで決まったことを確認して集会に臨むようにする。	<b>【思考・判断・表現】</b> 協力して活動したり、友達の良さを見つけたりしながら実践している。（観察）





# 3 個人研究



## 【不思議発見型指導案の作成について】

「主体的に子どもが学ぶ姿を引き出したい。」そんな思いから生まれた指導案である。教師の教えたいことを子どもの学びたいことに転化するためには、導入の部分での教師の投げかけが重要である。そこで「なぜ?」「分かってほしい」という子どものつぶやきが出てくると自分でめあてを持てるようになる。この指導案を用いて授業を考えることで、個別最適な学びと協働して学ぶことを取り入れる授業を作ることを目指している。また、特活と教科との往還を研究するための手立てとしても、この指導案を活用している。特活のどのような力を活かすことができるのかについて「特活とリンクする部分」を矢印のテキストボックスで示している。

### 不思議（？）発見（！）型指導案

月 日 校時
学年 
教科 
単元

本時の学習

教えたいことを学びたいことに転化する手立て

① 子どものめあて・問題意識  
(学びたいこと)

② 考え・ノート

③ 話し合い・交流

④ ふり返り

↑  
 特活とリンクする部分

↑  
 特活とリンクする部分

教師のねらい(教えたいこと)

## 【授業の流れ】

### ①子どものめあて・問題意識

- 子どもから疑問が生まれる話題提示をする。教師の教えたいこと → 子どもの学びたいこと

### ②考え・ノート

- 自分の気づき・分からないことをノートに書く。
- 絵や図、吹き出しなどを入れて自分なりにまとめる。
- 画一化したノートにしない。

### ③話し合い・交流

- 意見の積み重ねで課題を解決する。
- 交流の中でさらに生まれる疑問やつぶやきから深める。

### ④ふり返り

- めあてに対してふり返る。
- 学びを自分の言葉でまとめる。

◎教師のねらい

子どもの実態を見て、つけたい力を明確にする。

## 不思議（？）発見（！）型指導案

9月5日 | 校時

学年

1年

教科

さんすう

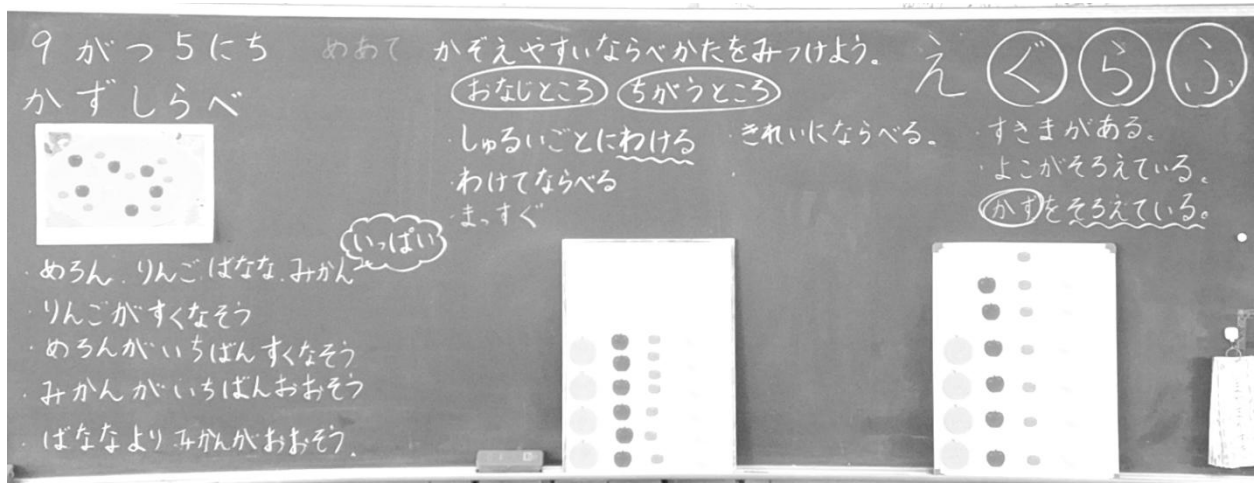
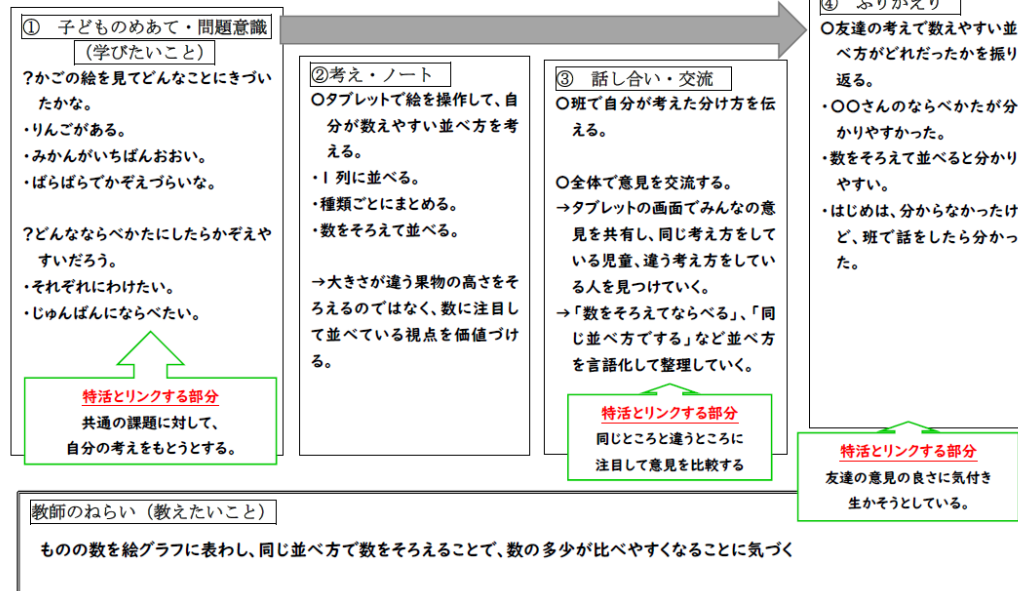
単元

かずしらべ

本時の学習

かずを かぞえやすい ならべかたを かんがえよう。

教えたことを学びたいことに転化する手立て



## 【実践をふり返って】

算数で初めてグラフを取り扱う単元で、自由にタブレットで絵を操作して並べる活動を行った。お互いの並べ方を一覧にして共有することで、種類ごとに分けること、まっすぐにならべたら見やすいことに自分たちで意見を出し合いながら気づくことができた。しかし、「どの並べ方が数えやすいか」という問いには、観点をもてず、各々が自由な感覚で選んだことで、グラフの良さが、理解できていなかった。数えなくても視覚的に一番多い、少ないが分かる、同じ数の物が分かるといった良さが伝わる発問や観点を与えて交流する必要があった。

タブレットを使うことで、自分の意見をもち共有することが、どの児童でも行えた。一方で、相違点、共通点を比べるための観点がはっきりしなかったことで、交流を深めることが難しかったことが課題として分かった。

# 不思議（？）発見（！）型指導案

6月2日5校時

学年

2年生

教科

国語

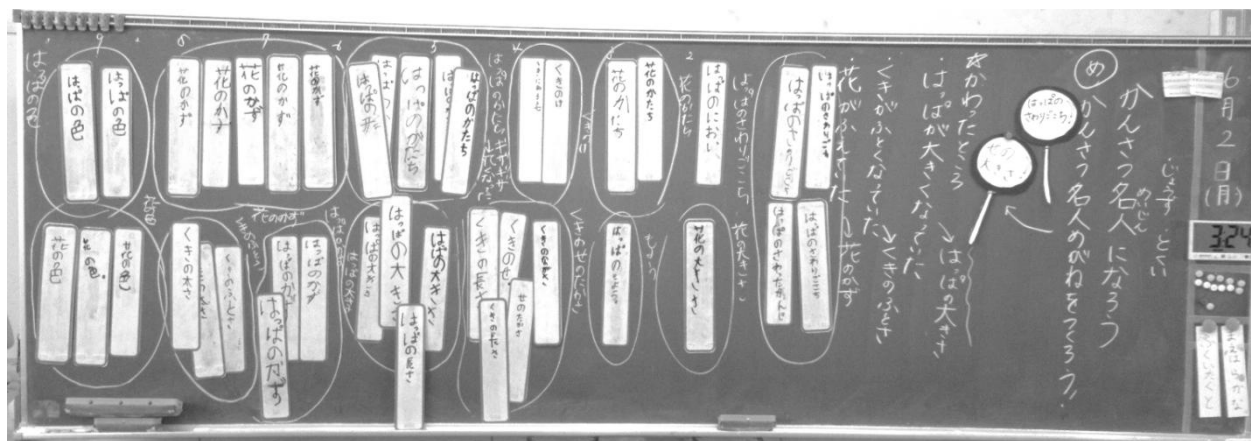
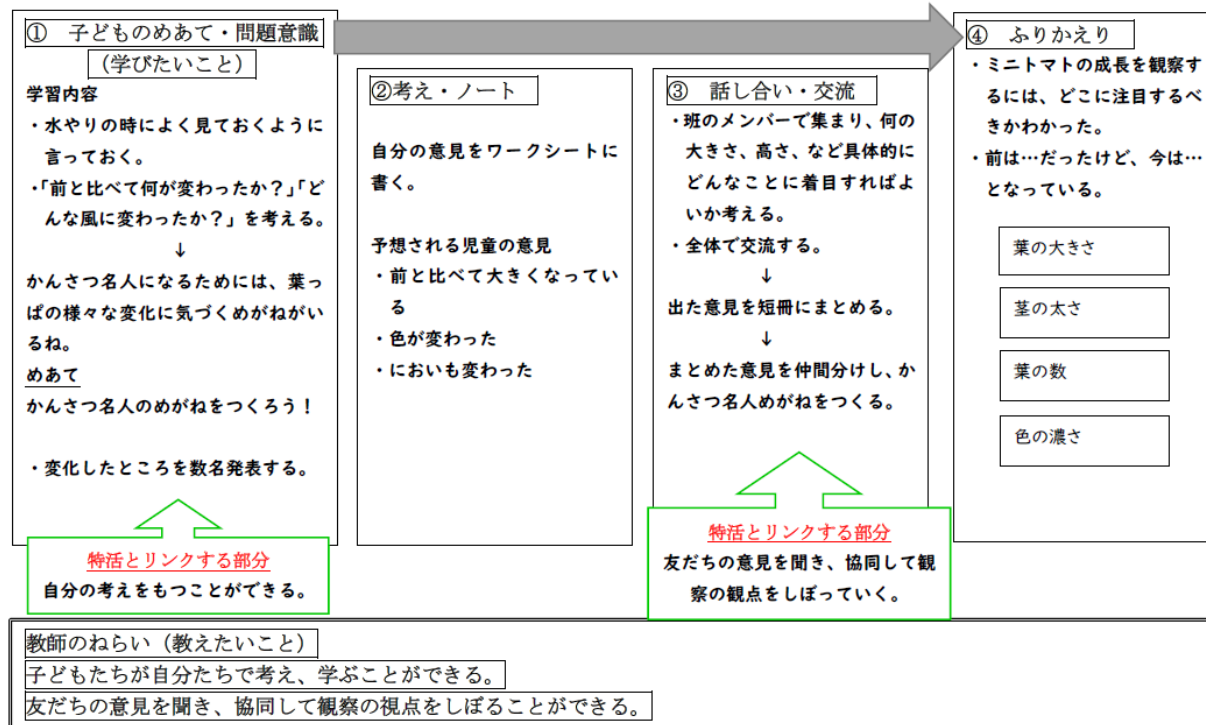
単元

かんさつ名人になろう

本時の学習

かんさつ名人になろう

教えたことを学びたいことに転化する手立て



## 【実践をふり返って】

本単元では、「かんさつ名人のめがねをつくろう」というめあてのもと、観察の視点を整理する活動を行った。児童は、前時までの観察をふり返し、「葉の大きさ」「色の濃さ」など、具体的な着眼点を自ら挙げる事ができた。特に、出てきた意見を自分たちで仲間分けする場面では、友だちの意見に耳を傾けながら、共通点を見つけ出そうとする協同的な学びの姿が見られた。一方で、仲間分けの際にラベリング(分類項目)が多くなりすぎてしまい、情報の整理が煩雑になった点は次時の課題である。今後は、まず「大きさ・形・色」といった大きな枠組み(大項目)を提示し、その中に「花・葉・茎」などの細かな視点を整理できるような表を活用することで、より児童の考えを整理し、全体共有の質を高めていきたい。



# 不思議（？）発見（！）型指導案

12月 18日 5校時

学年

3年

教科 社会科

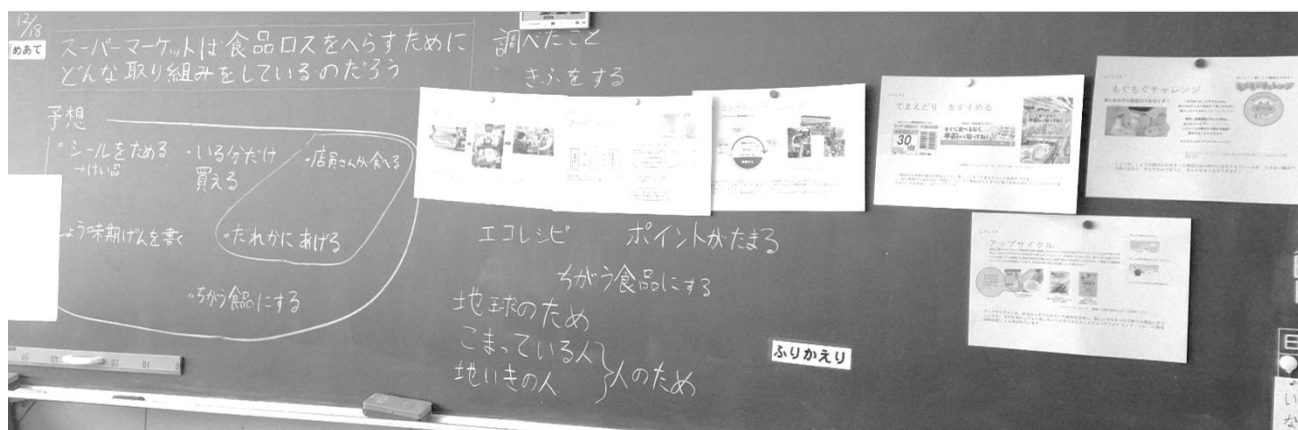
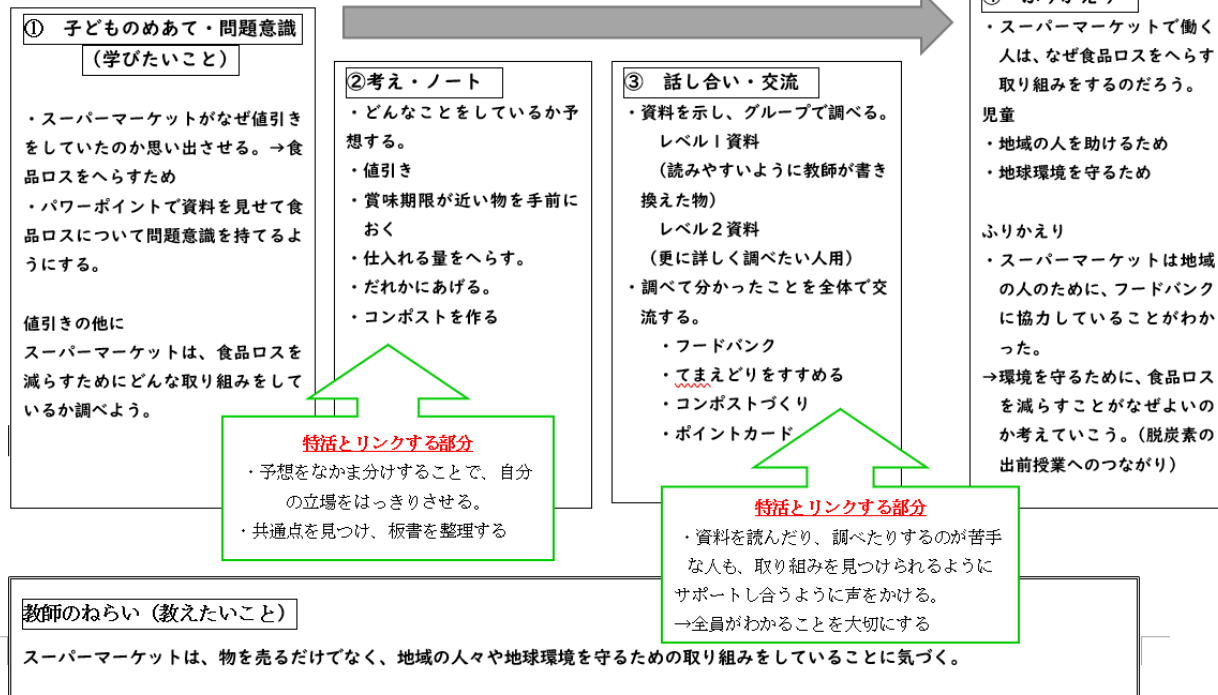
単元

お店ではたらく人びとの仕事

本時の学習

スーパーマーケットが食品ロスをへらすために どんな取り組みをしているのか調べよう

教えたいことを学びたいことに転化する手立て



## 【実践をふり返って】

スーパーの見学に行っていることもあり、経験から予想を立てることができた。資料は選べるように2段階用意をしていたが、レベル1を見る前にレベル2を見て、わからなくなっている子がいたので、資料の提示の仕方や読み方について事前に確認するべきだった。全員がわかることが大事と伝えておくことで、班で調べる時に声をかけ合う姿が見られた。全員が「わかった」と思える授業には時間がかかってしまうが、達成感を得ることができる。「わかった」と思えることを大切にしていきたい。見える課題(どんな取り組み)から見えない課題(なぜ取り組んでいるの)を考えられるように授業を組み立てていたが、時間が足りなかった。1時間の授業の中で課題解決ができるように授業を考え、自分たちで課題を解決をできたという更なる達成感を味わいたい。

## 不思議（？）発見（！）型指導案

7月 9日 3校時

学年

4年

教科

国語

単元

一つの花

本時の学習 戦時中と十年後の生活の様子を比べる中で、お父さんが託した願いとともに、私たちにとっての平和についても考えよう。

教えたことを学びたいことに転化する手立て

## ① 子どものめあて・問題意識

## (学びたいこと)

\* 十年後のお母さんとゆみ子の生活の様子は、どのように変わったのだろうか。

戦時中と十年後の様子を、一場面の学習と同様に对比させて考える。

\* お父さんの願いとは、何だったのだろうか。

ゆみ子の顔ではなく、一つの花を見つめていたことを考える。

\* 「私たちにとっての平和とは」何だろうか。

今の生活をふり返り、具体的に考える。

## ② 考え・ノート

\* 音・食べ物・色・ゆみ子の成長に視点を置いて、比較したことを表にまとめる。

・敵の飛行機や ・ミシンの音  
ばくだんの音

・一つだけ ・選べる  
・はい色 ・豊かな色  
・もらうだけ ・お昼を作る

\* 表から、お父さんが、ゆみ子に託した願いはどのような生活だったかを考える。

## ③ 話し合い・交流

① まず、班で自分が書いた表の内容を出し合う。

② 共感できた意見あれば表に印をつけ、深まった意見はメモを取っておく。

③ 全体交流をする。

④ 全体交流で作った表を見て、三場面のお父さんの思いを深める。

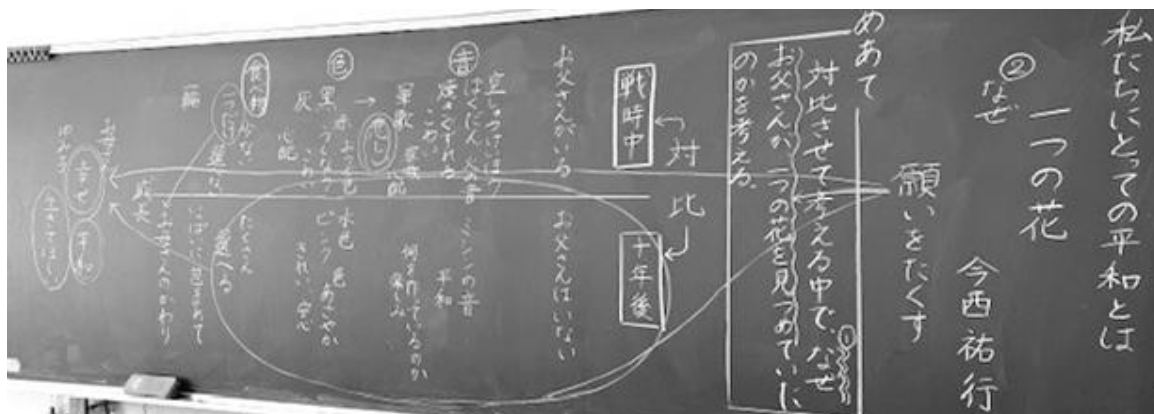
## ④ ふりかえり

・この授業で、心に残った友だちの考えと、その理由を書く。

・「私にとっての平和とは」を具体的に見つけておく。

## 教師のねらい(教えたこと)

お父さんやお母さんやゆみ子の戦時中の様子と、十年後の様子を比較して読み取る中で、自分たちの何気ない当たり前の生活の中に、平和であることの喜びや幸せがあることに気づく。



## 【実践をふり返って】

児童は、一場面から読み進めていくうちに、ゆみ子に対するお母さんやお父さんの深い愛情を捉えることはできた。しかし、戦争に行くお父さんが、なぜ、そのゆみ子を見つめるのではなく、一つの花を見つめていたのかが疑問として残った。そこで、まず、十年後のゆみ子とお母さんの生活の場面で、戦時中の生活と比較することにした。爆撃の恐ろしい音と何が作られるのかが楽しみなのかなミシンの音、一つだけとずっと強いられていた我慢と好きな物を選ぶことができる自由、ほしがって泣いてばかりいた小さなゆみ子とお母さんになってお昼を作る成長したゆみ子など、戦時中の悲しさや辛さに対し平和であることの喜びや幸せが明確に捉えられた。そして、お父さんが託した一輪のコスモスがいっばいに咲き誇っている様子や「一つの花」という題からも、ゆみ子が平和な日常の中ですくすくと成長し、幸せいっばいに過ごしてほしいというお父さんの願いを捉えることができた。また、「友だちと自由に遊べる」「好きなことが自由にできる」「食べ物の好き嫌いができる」など、今の自分にとっての「平和」を考えることもできた。今後も「平和とは」を考えることで、五年生の「たずねびと」の学習につないでいってほしい。

## 不思議（？）発見（！）型指導案

12月 5日 4校時

学年

5年

教科

社会科

単元

これからの食料生産

本時の学習 日本食料自給率が低い原因について仮説を立てよう。

教えたことを学びたいことに転化する手立て

## ① 子どものめあて・問題意識

(学びたいこと)

## 先進国の食料自給率のグラフ

「日本の食料自給率は、なぜこんなに低いのだろう？」

「日本はアメリカから多くの食料を輸入しているのに、それよりもオーストラリアやカナダの方が食料自給率が高い。」

「なぜ、オーストラリアやカナダはこんなに食料自給率が高いのだろう？」

日本の食料自給率が低いわけを考えよう。

自分たちで問いを持ち、学習課題とする。

## ② 考え・ノート

自分の考えをノートに書く。

- ・面積が狭い。
- ・農業従事者が減ったり、高齢化したりしている。
- ・食生活が、和食から洋食に変わってきたから。
- ・外国産の方が安いから。
- ・地球温暖化が関係している。

＊教科書・資料集・地図帳などで調べる。

＊これまで学習してきたことを思い出し活用する。

## ③ 話し合い・交流

班で話し合いながら仮説を立てる。

一人一人の考えを聞き合う。

比較・分類しながらボードに班としての意見をまとめる。

全体交流をする。

＊各班の意見を比較し、共通部分

や自分にはない考えを見つける。

＊新たな疑問を持つ。

互いの意見を聞き合い、広い視野で考える。

## ④ ふりかえり

全体交流の内容からふり返る。

・国土の面積を考えていなかったのが分かった！

・地球温暖化が影響していることについて、くわしく調べてみたい！

・今日立てた仮説が、本当かどうか調べてみたい！

＊新しく取り入れた考えや、今後取り組んでいきたい内容を具体的に書くようにする。

次に取り組みたい課題を見つけ、実践しようとする。

## 教師のねらい (教えたこと)

他国と日本の食料自給率を比較して、問いを持つ。それについて様々な資料を活用しながら自分の考えを作ることができる。

## 日本の食料自給率

高れい化 → 人手不足

農業、漁業、畜産業の働き手が減少

土地の広さ、使い方、気候

日本 1億2772万人  
約38万km<sup>2</sup>

オーストラリア 約769万km<sup>2</sup>

カナダ 約998万km<sup>2</sup>  
約2670万人

高れい化による人手不足

収入が安定していないので、若い世代は海外の面積が小さい人口が少ない。

食料の輸入量が増えたと結果日本の食料自給率は低くなった。

人件費が高くて輸入した方が安い。

日本の人口は減少傾向にある。

魚の取りすぎ

地球温暖化

仕事に苦しい人が増えているので、輸入が増えている。

高コスト化が進んでいる。

自給率が低いと...

↓

物の値段が高くなる

食料の輸入量が増えたと結果日本の食料自給率は低くなった。

人件費が高くて輸入した方が安い。

日本の人口は減少傾向にある。

日本の食料自給率

日本は自給率が低い。

輸入が増えている。

輸入が増えている。

日本の食料自給率

日本は自給率が低い。

輸入が増えている。

輸入が増えている。

## 【実践をふり返って】

導入においては児童自らが疑問を持つことで、主体的に学ぼうとする意欲を引き出すことを常に心がけている。本学級の児童は、日本の食料自給率が低いという認識をすでに持っていたので、世界の中の日本の食料自給率という視点で見ることができる資料を提示した。すると「なぜ日本はこれほど食料自給率が低いのか？」という疑問を自然と持つことができ、これまで学習してきた事柄と関連付けながら考え始めた。そこで関連する複数の資料をさらに提示し、仮説を立てるという課題に取り組むようにした。全体交流では、各班が着目した資料が異なったことで、それぞれが根拠とした資料を全員で一つ一つ確認しながら、食料自給率が低い原因を多角的に捉えることができるよう指導した。取り扱う資料の内容とその数については、児童の理解度を見て準備することが重要であると確認することができた。

## 不思議（？）発見（！）型指導案

12月18日4校時	学年	6年	教科	保健体育科	単元
B（バスケットボール）1グランプリをひらこう！					

**本時の学習** たくさんシュートをうつための作戦を考えよう

**教えたことを学びたいことに転化する手立て**

**見通しをもてる授業の流れ**

出し合う→比べる→まとめる

課題の共有→チームで話し合い→実践の反省を通した、課題形成

<p>① 子どものめあて・問題意識</p> <p>（学びたいこと）</p> <p>どうしたら、試合に勝てるかな？</p> <p>→たくさんシュートを打つための作戦を考えよう。</p> <p>・とにかく取ったら、ゴールの方に進もう。</p> <p>・私は苦手だから、はしっこの方にいたいな。</p> <p style="text-align: center; color: red;"><b>特活とリンクする部分</b></p> <p>チーム間同質・チーム内異質</p> <p>→チームの中に得意・不得意な子がいることを踏まえた上でのめあての形成。</p>	<p>② 考え・ノート</p> <p>ドリルゲーム</p> <p>（シュート・ドリブル・パス実践の4ブースでの練習）</p> <p>？どうしたらシュートが入るのかな。</p> <p>？思った所にボールがいかないな。</p> <p>！ボールがこわい。</p> <p style="text-align: center; color: red;"><b>特活とリンクする部分</b></p> <p>一人一人への役割の明確化</p> <p>→1チームを少人数にすることで責任をもって最後まで全うする力の育</p>	<p>③ 話し合い・交流</p> <p>練習試合</p> <p>？あのチームはたくさん点を取ってるけど、なんでなんだろう。</p> <p>！ボールの所にチームが固まっているな。</p> <p>！ボール持ったら、相手にとられるから、ボール来ないで。</p> <p style="text-align: center; color: red;"><b>特活とリンクする部分</b></p> <p>支持的風土…苦手な子に対して、どのように接し、チームを高めていくか。</p>	<p>④ ふりがえり</p> <p>！勝つためには、入っても入らなくてもシュートをうつことが大切。</p> <p>！シュートをうつ後、パスを出した後には止まっていたのが時間の無駄。</p> <p>！シュートが決まる自分の得意な場所はないかな。</p> <p>！苦手な人にも動いてもらわないと勝てないな。</p> <p>？どこにパスしたらいいの</p> <p>→それぞれのチームの作戦を交流。</p> <p>→子どもたちのふり返りを元にクラス全体の課題形成。</p>
---	---	--	--

**教師のねらい（教えたこと）**

バスケットボールの運動特性である、リバウンドの大切さがわかる。

得意な子だけでは試合に勝つことに限界があることに気づき、チーム全体の力を高める大切さがわかる。

### ルール

- ・コートはオールコートです。
- ・ジャンプボールスタート
- ・1試合、前半3分 後半3分
- ・マナー違反は相手に1点プラス（あいさつをしない・審判や相手への暴言等）
- ・ゴールに入ったら1点
- ・審判は姉妹チームから、1人ずつ出る。

### 【実践をふり返って】

バスケットボールの授業を通して、「パスがくるのが怖い児童」には、①ボールそのものに恐怖感をもつ児童と、②「取られたらどうしよう」と考え込み、動きが止まってしまう児童の2つの傾向があることが分かった。単元の初めは、技能の高い児童だけがボールに関わり、試合でも活躍する場面が多く見られた。

しかし、試合を重ねるにつれて、児童へのマークが厳しくなる中で、これまで消極的だった児童の関わりが試合の勝敗に影響する場面が増え、苦手な児童の活躍がチームの勝利につながることに気付くことができた。その結果、各チームでドリルゲームの内容を工夫し、役割を意識しながらチーム一丸となって試合に臨もうとする姿が見られるようになった。

また、得点につながるのはボールを持っている時だけではなく、スペースをつくったり、相手とのずれを生み出したりするためには、ボールを持っていない時の動きが重要であることに気付く児童も現れた。こうした学びを通して、一人一人が自分の役割を自覚し、試合に主体的に関わろうとする姿勢を育んでいきたい。



# 不思議（？）発見（！）型指導案

12月 22日 1校時

学年

ふたば1  
5年

教科

自立活動

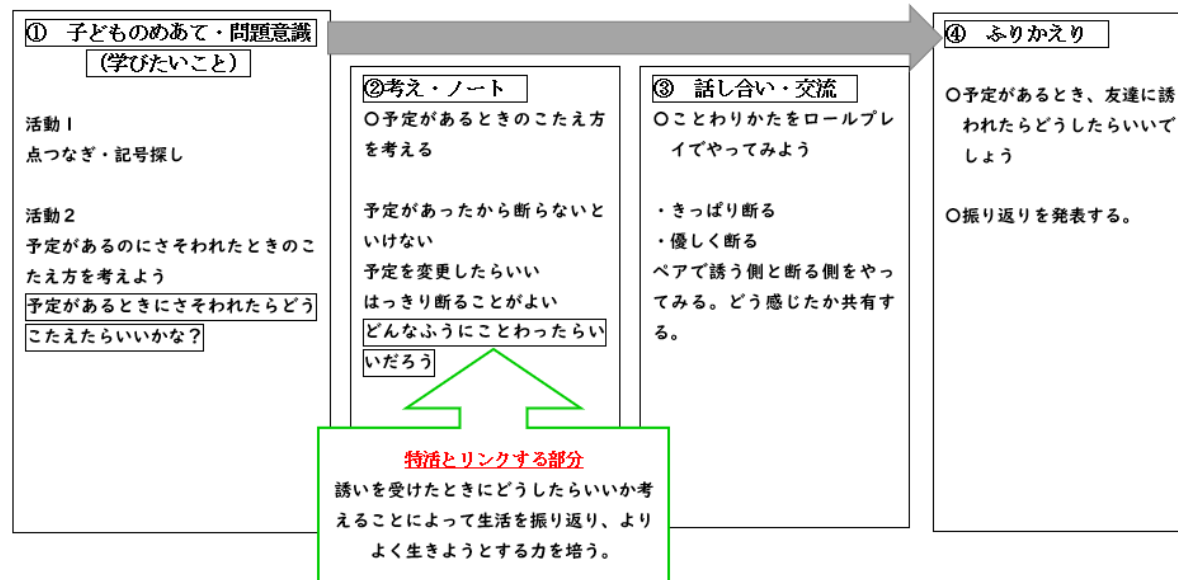
単元

予定があるのに誘われたら

本時の学習

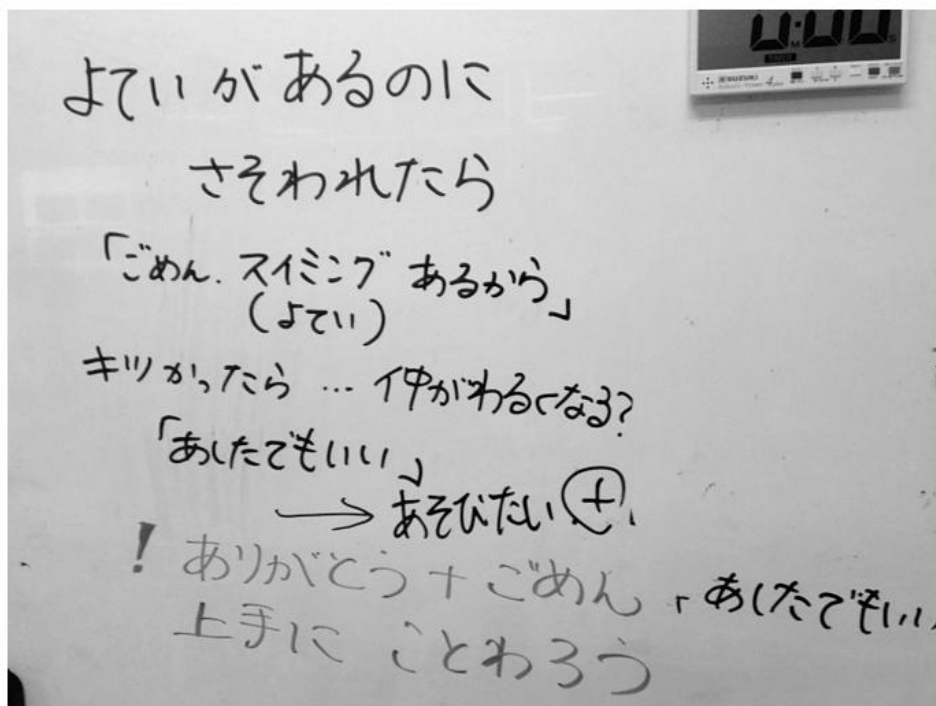
予定があるのにさそわれた時のこたえ方を考えよう。

教えたことを学びたいことに転化する手立て



教師のねらい (教えたこと)

予定があるときに誘われた場合はしっかり断る必要があり、適切な断り方があるということに気づく。



【実践をふりかえって】

5年生の児童がほかの児童との約束をダブルブッキングしてしまい、断ることができていないという状況があり、今回の自立活動を設定した。予定があるのに誘われたときに、上手に断る必要があることは児童の中の意識としてあった。児童の中からは、「次の日遊ぼう」ということで、相手にこちらも遊びたいという意図をつたえることができるという工夫が出てきた。一人一人が上手に断るための工夫を意識しながらロールプレイすることができた。

## 不思議（？）発見（！）型指導案

11月21日2校時

学年

ふたば2-1 2年

教科

国語

単元

考えたことを伝えあおう

## 本時の学習

好きな本を選んで、理由を伝え合おう。

## 教えたことを学びたいことに転化する手立て

## ①子どものめあて・問題意識

## (学びたいこと)

？今まで読み聞かせをしてもらった本の中で、どの本が一番好きかな。

？この本の好きなところはどこかな。

「友達は、どんな本を選んだかな。」

「選んだ本について、友達はどう思うかな。」

## ②考え・ノート

○ワークシートに、選んだ本の題名や理由、好きな場面などを書き込む。

- ・選んだ本を見ながら、書いていく。
- ・分かりにくいところはアドバイスをもらう。

特活とリンクする部分

発表者は、相手に伝わるようにはっきり話す。聞き手は、発表者が話しやすい雰囲気をつくる。友達の好きなものに興味を持ち、尊重する。

## ③話し合い・交流

○考えたことを、伝え合う。  
(発表者)

- ・ワークシートを見ながら、聞こえるように発表する。
- ・質問や感想がないか、聞き手に声をかける。

(聞き手)

- ・発表者の方を見て聞く。
- ・質問や感想があれば、発表者に伝える。

## ④ふりかえり

！友達の発表を集中して聞いた。

！質問や感想を考えて、発表できた。

！友達の好きな本が分かって、楽しかった。

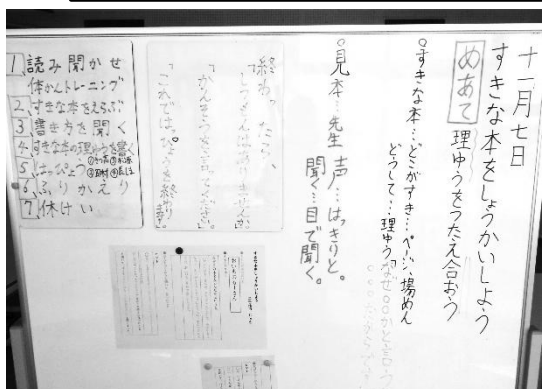
！友達が好きな本を、もう一度読みたくなった。

！みんなの好みが違うのがよく分かった。

！また面白い本があったら、みんなに知らせたい。

## 教師のねらい(教えたこと)

○友達と思ったことを交流し合うことで、昔話に関心を持ち読もうという意欲を持たせたい。



## 【実践をふり返って】

2年生は4名。普段から自分の思いを伝えたい気持ちが強い一方で、友だちの話の内容を聞き取ることは苦手な傾向がある。今回の学習では、「理由を聞くこと」を目標に取り組むことで、話の内容を聞く必要性を意識させた。みんな本が好きなため、意欲的に活動する姿が見られた。実際に友だちが好きな本の場面を見せることで、より集中して「聞きたい」「知りたい」という気持ちが表れていたように感じた。ふり返りを見ると、一生懸命に友だちが本を好きな理由を書こうとしていた。書きたい気持ちはあるものの、どのように書けばよいかわからず困っている様子も見受けられた。今後の課題として、文章の作り方について学ぶ機会を設けていきたいと考えている。

# 不思議（？）発見（！）型指導案

12月22日（月）2校時

学年

ふたば2-2  
4・5年

教科

国語科

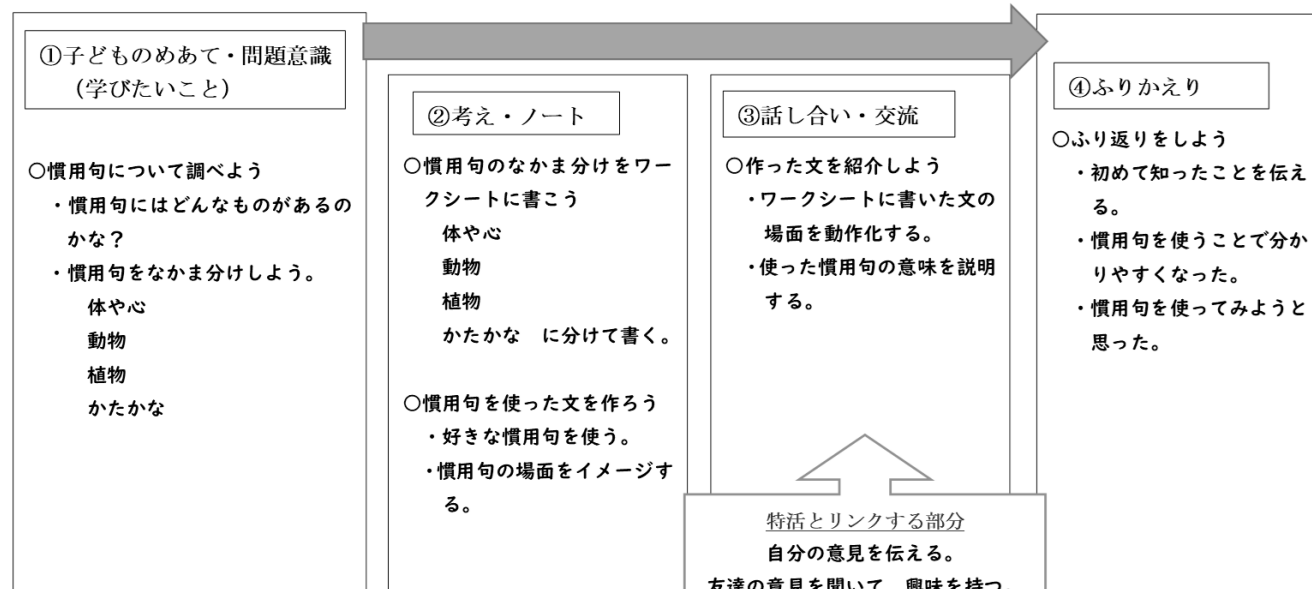
単元

慣用句を使って文を考えよう

本時の学習

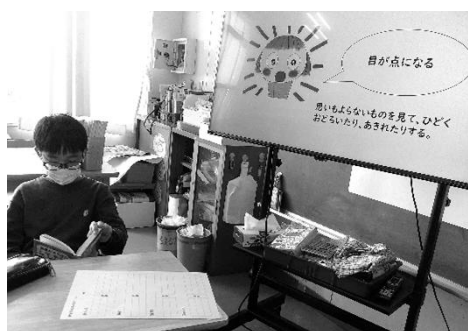
慣用句をなかま分けして、文を作ろう。

教えたいことを学びたいことに転化する手立て



教師のねらい（教えたいこと）

慣用句について興味を持ち、普段の生活に使うことができる。友達意見を聞いて自分の考えに生かす。



## 【実践をふり返って】

まず、パワーポイントを使って慣用句のクイズをしたが、児童が興味を持って学習を始められたことがよかった。そして、慣用句のイメージを持ちやすかった。個人の活動では辞書を使って慣用句を調べたが、それぞれに1冊辞書があったので、自分の興味に合わせて、自分のペースで調べることができてよかった。書くことが苦手な児童もいるが、自分の体験から例文を作ることができていた。

調べた慣用句をワークシートにまとめることに時間がかかってしまい、みんながどんな慣用句を調べたのか、どんな文章を作ったのかを交流する時間が短かったので、時間配分に気をつけて進めればよかった。今後作った文章を廊下に掲示するなど、全校生に発信していきたい。

# 不思議（？）発見（！）型指導案

12月19日(金)1校時

学年

2年生

教科

音楽

題材

くりかえしを見つけよう

本時の学習

くりかえしを生かしてつくったリズムを つなげてえんそうしよう

教えたことを学びたいことに転化する手立て

## ① 子どものめあて・問題意識

(学びたいこと)

【常時活動】リズムあそび

教師対全員

→ペアでリズムをまねこする。

【本時】おまつりの音楽

くりかえしを生かしてつくった音楽を、ペアでつなげて演奏しよう。

どうやってつなげたらよいか？

工夫してつなぎ方を考えよう。

## ② 考え・ノート

〇ペアでつなぎ方を考える。

・つなげる順番はどちらが先がよいか？  
 ・終わった感じを出すにはどうしようかな？  
 ・最後に四分休符があると終わった感じがするよ。

・楽しい感じが出る音楽をつくってみよう！  
 ・ほかの音楽もつくってみよう！

☆おまつりの音楽なので掛け声を入れてもよい。

## ③ 話し合い・交流

〇作ったリズムを発表する。

つなぎ方の工夫があれば言ってから発表をする。  
 全員でそのリズムをたたいてみる。  
 ほかにもっとよいアイデアがあればアドバイスをし、みんなでそのリズムをたたいてみる。

## 特活とリンクする部分

自分の意見を伝える。演奏を聴いたり、自分で演奏したりすることで友達の見解に対して自分の考えをもつ。

## ④ ふりかえり

〇ペアでリズムを再考し、できたリズムを提出する。

〇ふりかえりを発表する。

・つなぎ方を工夫することができた！  
 ・つなぎ方を変えたらちがう感じの音楽になった！

## 教師のねらい (教えたこと)

つなげてつくったリズムの よさや面白さを見つけることができる。

## 【子どもたちがオクリンクプラスを使って作成したリズム例】

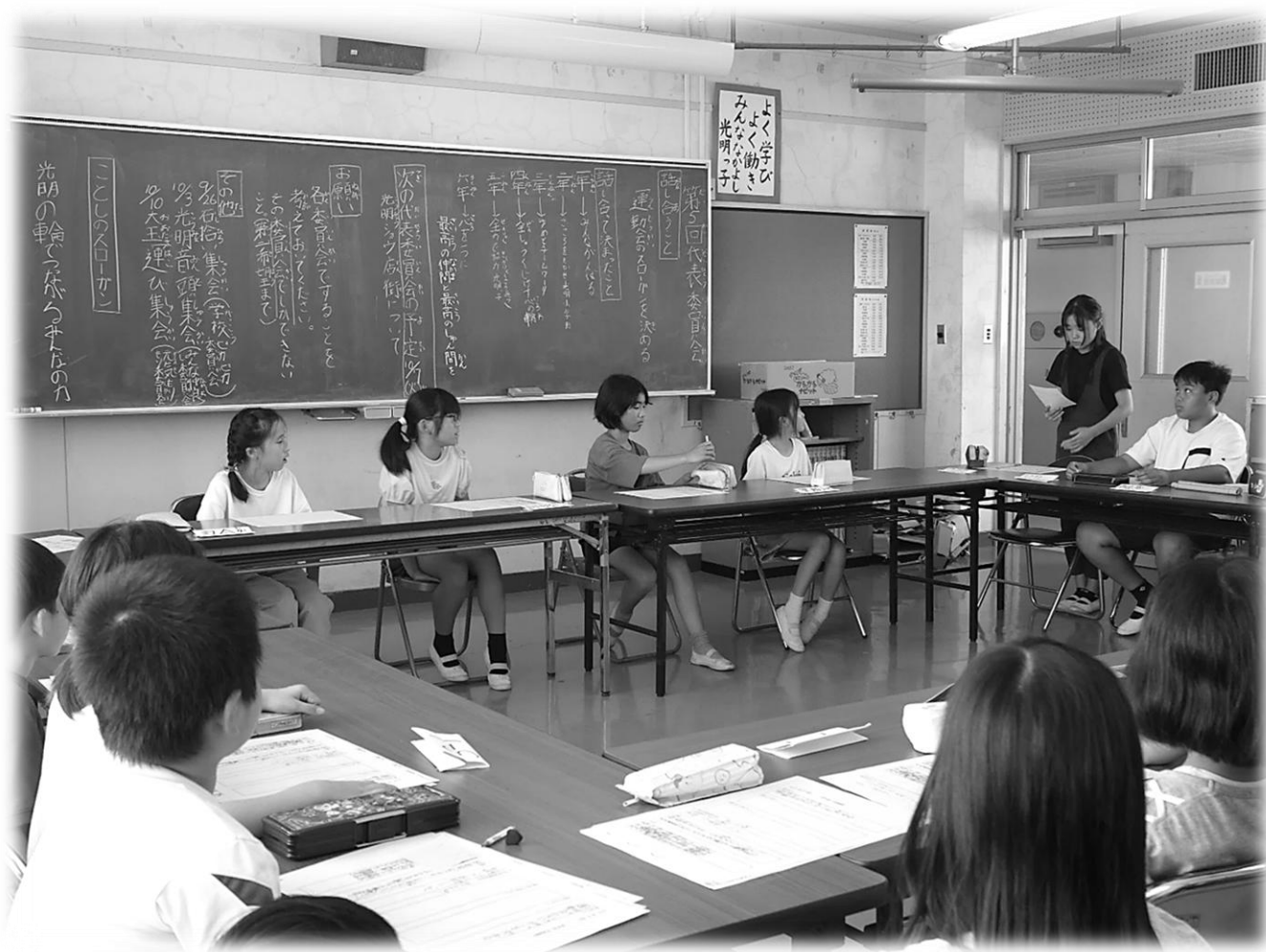
はく ● ● ● ● ● ● ● ●

はく ● ● ● ● ● ● ● ●

## 【実践をふり返って】

前時にくりかえしを使って4小節の短いリズムを作り、本時ではペアでそれをつなげて新しい8小節のリズムを作る活動を行った。オクリンクプラスを使って、ペアで共有のボードでカードを動かしながらリズムを考えた。ペアの友達と話し合っってリズムを考えたり、手をたたきながらリズムを確認して推敲したりする子どもの姿が多く見られた。作成したリズムを全体で発表し、工夫した点を述べる活動は、時間が足りず2組しかできなかったが、どのペアもただつなげたのではなく、つながり方や終わり方を考え、思いや意図をもってリズムづくりをしていた。また、8小節の中でも新しいくりかえしを作り、まとまりのある音楽をつくっているペアもいた。何よりも子どもたちが本当に楽しそうに、意欲的に授業に取り組む姿が多く見られたのがよかった。

# 4 研究のふり返りと これから





## 研究のふり返りとこれから

### (1) 学年を超えて関わる子どもたちの姿

**\*きらきら掃除で6年生がいないときに低学年をフォローする5年生の姿**

**\*困っている友だちがいたら、学年を超えてすぐに駆け寄る姿**

**\*他学年と交流する集会を行うために、一生懸命話し合う姿**

**\*代表委員会で1.2年生に困っていることがないか尋ねる高学年の姿**

**\*音楽会で他学年の友だちの良さを見つけ、懸命にふり返りを書く姿**

このような姿が、本校では様々な場面で見られる。それは学級活動でつけた力を活かして児童会活動に取り組んできたことの積み重ねによるものだと考える。児童会活動に、1～6年生で構成されている縦割り班で参加することで自然と学年を超えた関わりが生まれている。日常的に学年を超えた交流があるからこそ、全校集会の場でも自分の思いが素直に出せる。そこにはこれまでの関わりから生まれた安心感があるからであろう。

しかし子どもの様子をよく見ていると、その関わりに自分から入れない子や自分から行動するのが苦手な子もいる。そのような子に教師が気づき、指導や支援していくことが必要である。自信のない子には、話し方や方法を教える。例えばふり返りであれば、事前に練習しておくなど、自信を持たせることで自分から手を上げるようになる。教師が支援することで、子どもの力を「広げる」ことにつながると考えている。

### (2) 練り上げ創る話合いの一般化

今年度は、練り上げ創る話合い活動を目指して、選ぶ話合いと工夫を考える話合い、どちらも必要だということを前提に研究を進めてきた。いずれにしても話合いにおける提案理由と柱が曖昧だと、子どもたちが何について話し合っているのかわからなくなり、観点がずれてしまう。5年生の学級会「みんなのことを知ろう集会」は、「みんなのことをくわしく知らないから、友だちにインタビューしてみんなのことがもっと分かるクイズを作って交流したい」という思いから議題が選定された。みんなのことがもっと分かるクイズをどのように出すかについて話し合うことになり、計画委員会で話し合うべきポイントを決めていった。これが「仲を深めるためのクイズ」となっていたら、意見が拡散してしまいやすくなる。「みんなのことがもっと分かるクイズ」だとどんなことを知りたいか、どんな方法だと友だちのことをもっと知ることができるかなど、考えるべきことが明確になる。

「まとめる」場面では、「自分にとって」でなく「みんなにとって」より良い考えを創り出せるように指導、助言していくことが大切である。そのためには、合意形成の際に、より多くの人が納得できるようにまとめる必要がある。多数決で安易に決めず、少数派の意見も活かすにはどうしたらよいか話し合い、「みんなにとって」より良い考えを練り上げる。これはとても難しいが、誰一人取り残さない学校、学級づくりを目指すには忘れてはならない視点である。新しい考えをつくる、意見を合わせる、優先順位を決める、条件をつけるなど多様な合意形成の仕方を教え、経験させてきたところであり、今後も取り組んでいきたい点である。

研究を進める上で、教師が光明小の子どもたちにどんな力をつけたいか共通理解を図ることは、不可欠である。昨年度作成した「光明小でつけたい資質・能力」の表を今年度も活用するため、再検討した。1年間をふり返って特別活動でどのような力がついたか確かめる手立てとして、この表を教師が授業の中で活用し、指導に活かしているところである。

練り上げ創る話合いの一般化を目指してきたが、まだ十分とは言えない。しかしこの表を元に教師が同じ方向を向いて指導していくことで、子どもたちの意見をつなぎ、練り上げる力を高めていきたいと考えている。

### (3) 学びに向かう姿

今年度は、特別活動と教科等との往還について教科部会を通して研究を進めてきた。特活で身に付けた力を教科でどのように活かすのか、また教科で身に付けた力を教科でどのように活かすのかに重点を置いて、授業づくりを進めた。

教科部会は、

- ①授業者の思いを聴く。
- ②小グループに分かれて授業案や単元計画を考える。
- ③全体で交流する。
- ④まとめ

という進め方を基本にした。

授業の始めに自分のめあてを持てるようにするには、導入が大事である。子どもが「知りたい」「分かってほしい」と思うことが主体的な学びの始まりである。そのめあてを元に一人一人の考えを持ち寄り、協働して課題の解決に向かう。その過程は学級活動の話合いと深く関連している。「つかむ→さぐる→比べる・見つける→ふり返り」の流れで授業を構成することで特別活動と教科等の往還を目指している。

研究を積み重ねる中で、**対話**を大切にして自分の考えを深めることが、特活にも活かされるのではないかと考えた。対話とは、相手と向かい合ってお互いに話すこと、自分の考えをきちんと伝えた上で相手が話す内容の意味を追求しながら話を進めていくことである。対話を通して、自分の考えが変わったり、深まったりする。意見を交流して、友だちと対話することで考えが変わったことを書き留める。そうすることで、自分の思考、判断、表現する力も高まり、特別活動にも活かすことができる力となる。教科部会では、対話を意識しながら授業を検討していった。対話の形式についても、研究を進める中でいくつかの案が出てきた。1つは社会科の調べる学習では、同じテーマについて調べるグループ内で交流した後、違うテーマについて調べている人とグループになって交流するという形である。違う立場の意見を取り入れることで新たな気づきが生まれる良さがある。国語科の学習では、単元計画づくりの際にゴールとなる言語活動を設定し、同時に並行読書を進める。自分で選んだ本を元にテーマに迫り考えたことを表現し、交流する。作品を通して対話をすることで、作品と作品とのつながりに気づいたり、自分の考えを深めたりすることができる方法である。

実践交流を行う中で、光明小の子どもたちの課題が見えてきた。まず言葉で伝える力が弱い点である。語彙が少なく、自分の思いをうまく伝えることが苦手である。これは生活面のトラブルにもつながっている。次に聞く力にも課題がある点である。要点を捉えて最後まで聞けなかったり、相手の伝えたいことを理解するのに時間がかかったりする。相手の言いたいことをよく理解できていないまま話を進めることがある。語彙を増やし、お互いの伝えたいことを理解し合おうとする経験を積ませ、子どもたちの言語活用能力が伸ばすことができれば、学級会の意見交流でも、より深まりが生まれ、みんなにとってより良いことを練り上げる力につながるだろう。学校として、国語科の力を高めるためにはどんな手立てを考えればよいかという課題が見えてきた。

#### (4) 相手の立場に立って考える想像力

学級会や児童集会など設定された場では友だちに寄り添う優しさや思いやりが見られる一方で、低学年でも高学年でも複数のいじめ事案が生じている。平気で傷つける言葉を使ってしまう、苦手な子を仲間外れにしてしまうなど相手の気持ちを想像できない場面がある。つまり人権教育で培ってきた思いやりの心が、学級会や児童会活動以外の日常生活で活かしきれていないのである。相手の気持ちを想像する力が弱い、これは本校の大きな課題である。何が足りないのか、まだ明確に答えを出せていない。今後これを追究していきたい。

#### (5) 自己肯定感を高めるための取り組み

今年度から特別活動のふり返りを学期ごとに行うことにした。1学期の結果を見ると2024年度に比べて数値が上昇している項目がある。これは子どもが入れ替わったことにも起因していると思われるが、1学期からふり返りの項目について再検討し、項目に書かれている事柄を子ども自身に意識させてきた結果である。

数値の低さを課題としていた自分の良さやがんばりについての項目でも、肯定的な意見の数値の上昇が見られる。今後も自分の良さやがんばりに目を向け学級会や教科学習等に取り組ませたい。

2025年7月			2023年、2024年		
項目	2025. 7 (%)		項目	2024 (%)	2023 (%)
① 自分の考えを、進んで発言することができる	71		① 自分の考えを、進んで発言することができる	69	66
② 友だちの発言を、公平に聞くことができる	93		② 友だちの発言を、公平に聞くことができる	92	91
③ よりよい意見を見つけて決めるために、話し合いに参加することができる	81		③ よりよい意見を見つけて決めるために、話し合いに参加することができる	79	75
④ 話し合いを進めるための司会グループの仕事を行うことができる	86		④ 話し合いを進めるための司会グループの仕事を行うことができる(1年除く)	83	81
⑤ 友だちの発表を、自分の考えと比べながら聞くことができる	73		⑤ 話し合いが行き止まった時に、新しい考えを見つけようとする可以尝试	51	55
⑥ 自分もみんなも 納得できるように お互いのつづきを考えることができる	68		⑤ 友だちの発表を、自分の考えと比べながら聞くことができる	69	76
⑦ 話し合いの大切なことを、メモにとることができる	56		⑦ 話し合いの大切なことを、メモにとることができる(1年除く)	42	46
⑧ みんなで決めたことについて、守ることができる	95		⑧ みんなで決めたことについて、守ることができる	90	89
⑨ 自分からすすんで、話し合いや集会に参加することができる	76		⑨ 楽しい雰囲気、話し合いや集会に参加することができる	83	87
⑩ ふり返りの時に、自分のよさやがんばりについて、気づくことができる	74		⑩ ふり返りの時に、自分のよさやがんばりについて、気づくことができる	61	68
⑪ ふり返りの時に、友だちのよさやがんばりについて、気づくことができる	82		⑪ ふり返りの時に、友だちのよさやがんばりについて、気づくことができる	81	80
⑫ ふり返りの時に、次ががんばりたいことを見つけることができる	82		⑫ ふり返りの時に、次ががんばりたいことを見つけることができる	75	83

※順番が入れ替わっている項目については、矢印で示している。

#### (6) まとめ

子どもたちが協働して、いきいきと特別活動に取り組む姿に、これまでの積み重ねを感じる。今後も、どの子も自分の力を思う存分発揮して、より良い自分を目指していこうとすることができるよう、更なる取り組みを続けていきたい。教職員が一丸となり引き続き研鑽を積んでいくことによって、他者を慮りながら意見を練り上げ、主体的に学びに向かう子どもの姿が日常的に見られるような学校づくりに励みたい。



## 5 全体会・講演



◆事後研究会◆ 14:25～15:00 【各教室（低…1年・中…3年・5年・6年）】

低学年・中学年・第5学年・第6学年に分かれての意見交流

～メモ～

◆全 体 会◆ 15:15～ 【多目的室】

教育長あいさつ	宝塚市教育委員会 教育長	赤井 稔
研究概要 説明	宝塚市立光明小学校教諭（研究推進担当）	澤田 強志
研 究 助 言	市川町立甘地小学校 講師	常木 雅子 先生
講評・講演	國學院大學人間開発学部 教授	杉 田 洋 先生
	演題 「学級会で身に付けた力を生活や授業に生かす ～ 生きて働く凡庸的な能力にまで高める ～ 」	
閉会あいさつ	宝塚市立光明小学校長	福本 徳子



## ■ 國學院大學 人間開発学部 教授

元文部科学省 初等中等教育局 視学官  
日本特別活動学会 理事 全国特別活動研究会 顧問  
NHK「でーきた」番組委員

### 教職・委員歴等

- 学生時代に青少年の健全育成のためのボランティア活動に没頭する。  
このことにより埼玉県からアメリカ・カナダに派遣される。(これらの経験から教職を目指すことに…)
- 埼玉県浦和市立小学校(昭和55.4～平成10.3 4校を経験) 18年間
- 浦和市教育委員会指導主事(平成10.4～平成13.3) } 6年間
- さいたま市教育委員会主任指導主事(平成13.4～平成16.3)
- 文部科学省初等中等教育局 教育課程課 教科調査官(平成16.4～) } 11年間
- 文部科学省初等中等教育局 視学官(平成25.4～)
- 國學院大學教授(平成27.4～)
- 文部省刊行「小学校特別活動指導資料」作成協力者 ----- (平成6年)
- 小学校学習指導要領特別活動編・解説 作成協力者 ----- (平成10年)
- 小学校学習指導要領特別活動編・解説 教科調査官として ----- (平成20年)
- 文部省国立教育政策研究所 特別活動教師用指導資料 視学官として ----- (平成25・26年)
- 楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編)
- モンゴル国へのTOKKATSUの導入に関わる(モンゴル教育大学客員教授【R2まで】) (平成27・28年)
- エジプト共和国へのTOKKATSUの導入に専門家として関わる (平成28～現在)
- 「人間作り tokkatsu」net公開(2023.07) NHKクロスアップ 現代に出演(2023.12.2)
- 中央教育審議会教育課程部会特別活動ワーキンググループ委員 ----- (平成27.11～平成28.6)
- 小学校学習指導要領解説特別活動編 作成協力者 ----- (平成28.7～ H29.5)
- 文科省国立教育政策研究所 特別活動教師用指導資料 作成協力者 主査 ----- (平成29・30年)
- みんなでよりよい学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編)
- 評価規準、評価方法等の工夫改善に関する調査研究(小学校特別活動) ----- (平成31・令和01)
- (文科省国立教育政策研究所)協力者会議主査
- 小学校・特別活動映像資料協力者会議主査 ----- (令和02・令和03)
- 小学校・特別活動映像資料児童会・クラブ活動編作成に関する協力者会議主査 ----- (令和04・令和05)
- 小学校学習指導要領実施状況調査に係る問題作成委員会(小特別活動) 主査 ---- (令和04～05)
- 小学校学習指導要領実施状況調査に係る分析委員会(小特別活動) 主査 ----- (令和05～06)
- 兵庫県 兵庫型「体験教育」魅力発信検討会議 主査 (令和06.07)
- JICAチェアにて、イラク国への日本式教育Tokkatsuの啓発 ----- (令和07.02)
- 品川区市民科検討委員会委員 ----- (令和07～)

### ▶▶▶ 主な著書

- よりよい人間関係を築く特別活動 ----- 図書文化
- 特別活動の教育技術 ----- 小学館
- 学級活動指導法セミナー(中学年)子どもがもえる活動づくり ----- 明治図書

### ▶▶▶ 主な編著書・共著・監修書

- 特別活動で、日本の教育が変わる ----- 小学館
- 特別活動・キャリア教育 児童用教材「楽しい学校生活」1年～6年 ----- 文溪堂
- 平成29年度版 小学校新学習指導要領の展開 特別活動編 ----- 明治図書
- 平成29年度版 小学校新学習指導要領ポイント総整理 特別活動 ----- 東洋館
- 子どもの心を育て つなぐ特別活動 -道徳的実践へのアプローチ- ----- 文溪堂
- 特別活動で子どもが変わる！～新しい評価と指導のモデル集～ ----- 小学館
- COMPACT64 教室環境づくり ----- 小学館
- 担任がしなければならない学級づくりの仕事12か月 ----- 明治図書
- (小学校低学年・中学年・高学年編)
- 改訂対応小学校学級活動のファックス資料集 ----- 明治図書
- (低学年・中学年・高学年編)
- 担任がしなければならない授業づくりの仕事12か月 ----- 明治図書
- (小学校低学年・中学年・高学年編)
- 担任がしなければならない保護者対応の仕事 ----- 明治図書
- 小学校教師のための生徒指導提要実践ガイド ----- 明治図書
- クラブ活動アイデアブック1巻～5巻(卓球・科学・サッカー・料理・バドミントン) ----- フレーベル館

◆ メ モ ◆

Handwriting practice lines consisting of 30 horizontal dashed lines.

Handwriting practice lines consisting of 28 horizontal dashed lines.

## お わ り に

本日は校務ご多用の中、本校の研究発表会へご参集いただき誠にありがとうございます。  
今年度、子どもたちも教職員ものびのびと教育活動を行えていると感じています。

本校では特別活動の研究をはじめ12年目に入りましたが、初心に返り「何のために特別活動を研究するのか」と問い直すところから始め、どんな子どもを育て、どんな力を付けたいのかをみんなで意見を出し合いながら考えていきました。これまでも子どもたちが主体となって活動を進める姿は学校生活の様々なところで見られ、特に児童会活動においては、これまでの実践経験を活かして、自分たちで集会活動を計画し実践する力をつけています。そのような高学年の取り組みを見ながら低学年が育ち、受け継がれていく文化は本校の強みであると考えます。また、縦割り活動の取り組みから全校生のつながりが強く、日頃から学年を超えての交流が盛んです。縦割り班で歌い披露し合う歌声コンテストでは、高学年が低学年を導き、どの班も活気にあふれた、強い歌声を体育館に響かせていました。このような特別活動で培った主体性や協働性などの力を教科学習に活かし、教科学習で培った力を特別活動で活かす「教科との往還」をさらに深く具体的にどのようにしていくことで力がつくのか研究していくことで、練り上げ創る話合いができるのではないかと考え取り組んできました。このことで、子どもたちが今後より良い生活を創るだけでなく、より良い社会を形成していく人間として育っていくことを期待して「特別活動(TOKKATSU)」を今後も学級で、学校で大切にしていきたいと思っています。

本研究紀要はその研究の一端をとりまとめたものです。ご覧くださった皆さま方には、今後のために、私たちの取り組みに対してぜひとも忌憚のないご意見・ご感想をお聞かせいただきますようお願い申し上げます。最後になりましたが、丁寧にご指導ご助言いただきました、國學院大學教授 杉田 洋 先生、市川町立甘地小学校講師 常木 雅子先生、宝塚市教育委員会をはじめ、日頃より本校教育活動の取り組みを温かく見守り、ご協力いただいております学校運営協議会、学校ボランティア、保護者、地域の皆様に心より感謝申し上げます。  
宝塚市立光明小学校 教頭 大橋 立明

### 令和7年度（2025年度） 研究同人

校 長	福 本	徳 子	兵庫型学習システム	中 西	昭 子
教 頭	大 橋	立 明	主幹マネジメント	後 藤	仁 子
1 年 1 組	小 嶋	宏 典	介 助	木 下	摩 由
2 年 1 組	濱 田	梨 乃	調 理	多 田	清 智
3 年 1 組	澤 田	強 志	調 理	山 田	由 季
4 年 1 組	富 岡	淑 佳	調 理	小 川	貴美子
5 年 1 組	小 寺	供 子	事 務	武 司	淳 子
6 年 1 組	永 樂	俊 樹	用 務	小 川	敦 史
ふたば学級1	一 二 三	琢 磨			
ふたば学級2-1	池 内	純	〈 協 力 〉		
ふたば学級2-2	栗 之 池	陽 子			
通 級 指 導	岩 崎	純 子	学校図書館司書	小 谷	緑
音楽科・家庭科	中 村	美 那	日本語サポーター	木 村	メリー
外国語科・外国語活動	土 橋	彩 花	日本語サポーター	徳 永	璐
養 護	伊 藤	美 優	サイエンスサポーター	陰 山	千津子
養 護	川 上	紗 季			